HONDA

N-VAN

OWNER'S GUIDE

オーナーズガイド

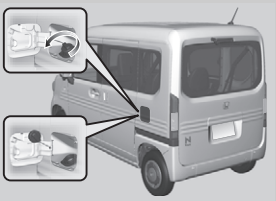
このオーナーズガイドは基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要となる情報が掲載された簡易取扱説明書です。

基本的な操作の例

時計設定、エンジン始動方法、セレクトレバーの使いかた、給油のしかたなどです。
詳しくは目次をご確認ください。

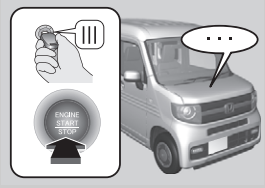




万一の場合に必要となる情報例

パンクしたとき、エンジンが始動しないとき、オーバーヒートしたときなどの情報です。
詳しくは、目次の “ 万一の場合には ” をご確認ください。



さらに、詳しい取扱情報は詳細取扱説明書に掲載されていますので、車両にお乗りになる際には、詳細取扱説明書もお読みください。

■取扱説明書のご案内

Honda ホームページにて、詳細取扱説明書を電子データ形式（HTML 版 /PDF 版）で、ご提供しています。
取扱説明書の提供ページで、モデル名と年式を選択し、閲覧をしてください。

取扱説明書の提供ページ
http://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/

なお、Honda ホームページからは、検索ボックスに『取説』と入力することで、この提供ページを検索できます。

QR コード読み取り機能付のスマートフォンやタブレット PC をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちのスマートフォンやタブレット PC 取扱説明書をご確認ください。

また、紙書籍版の詳細取扱説明書は、Honda 販売店にて、ご購入いただけます。
ご購入を希望される方は、Honda 販売店にご相談ください。

本書の構成

本書は下記の章構成で編集されています。

はじめに

1　安全なドライブ
安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

2　計器の見かた
運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

3　各部の操作
運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

4　オーディオ
アンテナの取り扱いについて記載しています。

5　運転
運転操作、給油などについて記載しています。

6　メンテナンス
基本的なメンテナンスについて記載しています。

7　万一の場合には
万一の場合の対応方法について記載しています。

8　こんなときは
困ったときの対処方法について Q & A 形式で記載しています。

9　仕様
仕様に関する情報が記載されています。

索引

検索のしかた

本書に記載の内容を探すにあたって、下記の検索方法を設けています。

1　ビジュアル目次
車両のイメージイラストに装備名称とその装備の説明ページ番号を記載しています。
名称が分からない装備を調べるときや、装備の取付位置から内容を調べたいときにご利用ください。

2　目次
本書の各章と記載内容をページ番号順に記載しています。
本書の記載内容から調べたいときにご利用ください。各章の記載内容については、上記「本書の構成」をご覧ください。

3　索引
装備名称や本書の記載内容を数字・アルファベット・五十音順に記載しています。
装備名称や記載内容から調べたいときにご利用ください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

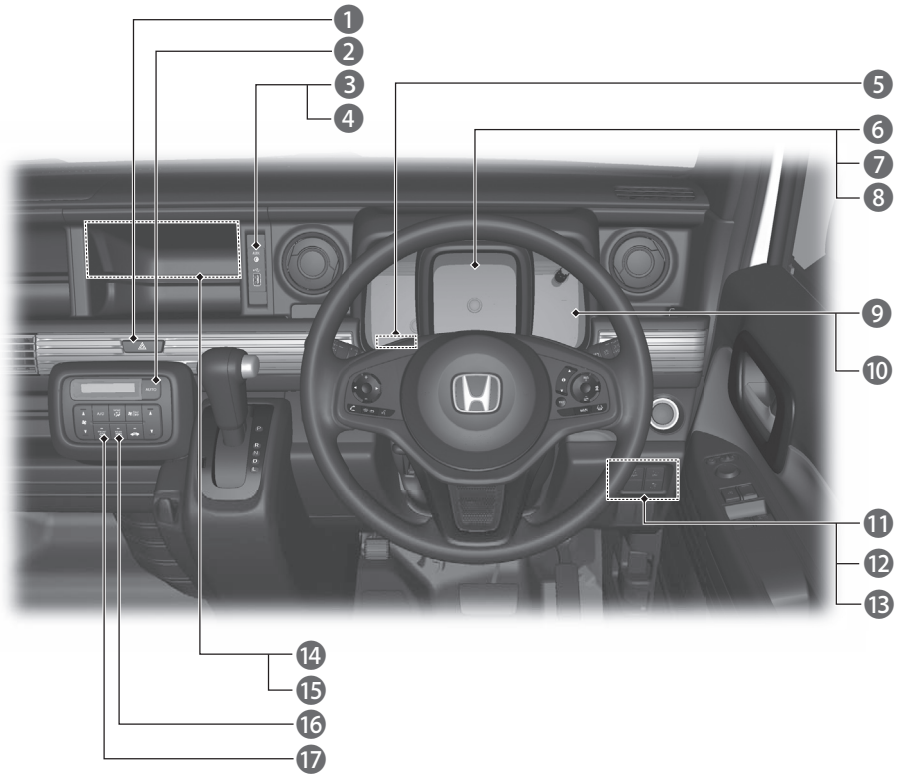
HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断やHondaの車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

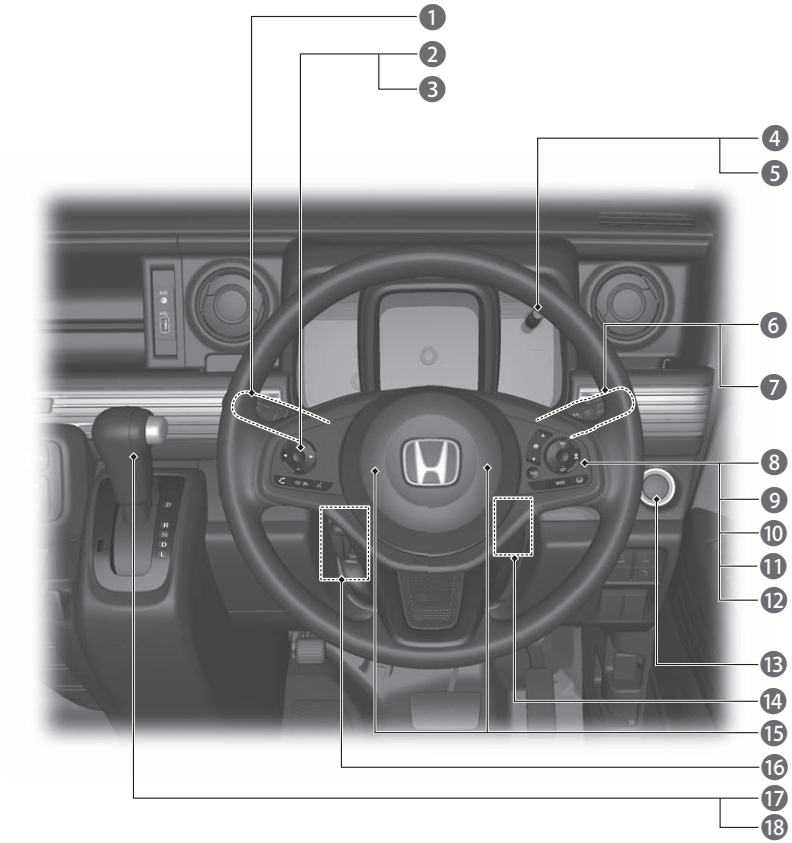
ビジュアル目次



❶ 非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）
❷ オートエアコン (P. 118)
❸ AUX ジャック*（P. 121）
❹ USB ジャック*（P. 120）
❺ 時計（P. 71）
❻ メーター（P. 66）
❼ 警告灯（P. 39）
❽ 表示灯（P. 51）
❾ インフォメーションディスプレイ*（P. 67）
❿ マルチインフォメーションディスプレイ*（P. 68）
⓫ VSA OFF スイッチ（P. 148）
⓬ CMBS OFF スイッチ*（P. 155）
⓭ 路外逸脱抑制スイッチ*（P. 188）
⓮ AM/FM ラジオ*（P. 123）
⓯ 時計*（P. 71）
⓰ リヤデフロスタースイッチ / ヒーテッドドアミラー* スイッチ（P. 97）
⓱ デフロスタースイッチ

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。

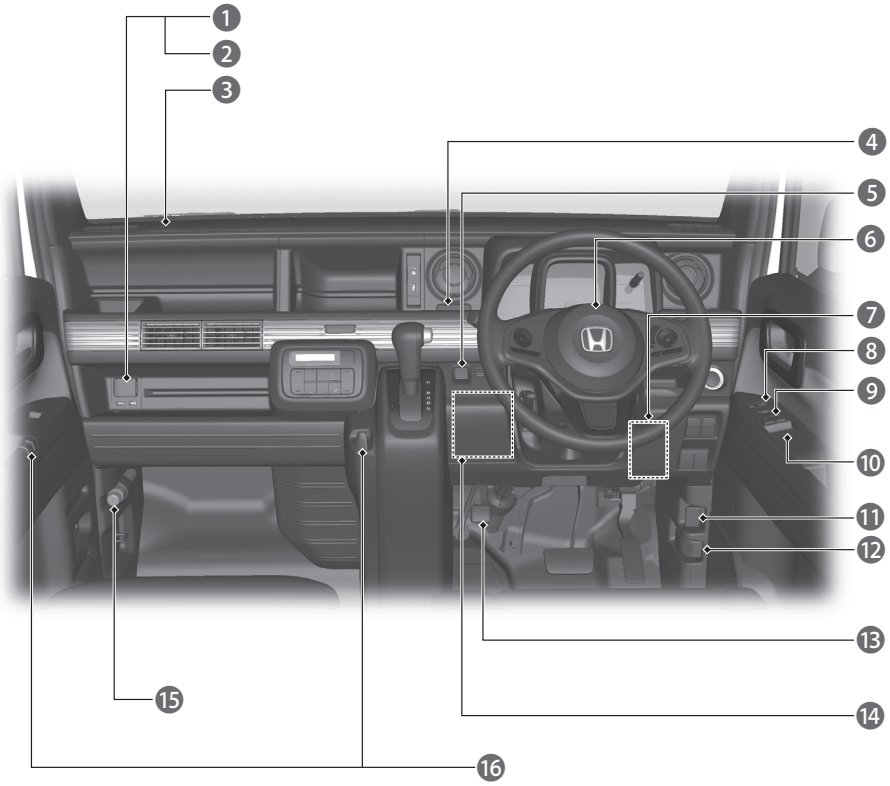
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



1. ワイパー / ウォッシャースイッチ（P. 95）
2. オーディオリモートコントロールスイッチ*（P. 122）
3. iPod 対応 USB プレーヤー / FM・AM チューナー*（P. 124）
4. ノブ*（P. 69, 97）
5. TRIP/CLOCK ノブ*（P. 67, 72）
6. ライト / 方向指示器（ウィンカー）スイッチ（P. 90）
7. フォグライトスイッチ*
8. MAIN スイッチ*（P. 168）
9. ディスタンススイッチ*（P. 176）
10. LKAS スイッチ*（P. 181）
11. TRIP スイッチ*（P. 69）
12. インフォメーション（ⓘ）スイッチ（▲ / ▼）*（P. 68）
13. ENGINE START/STOP スイッチ*（P. 89）
14. エンジンスイッチ*（P. 88）
15. ホーンスイッチ（ 周辺）
16. ハンドル位置調節レバー（P. 98）
17. セレクトレバー*（P. 139）
18. チェンジレバー*(P. 141）

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。

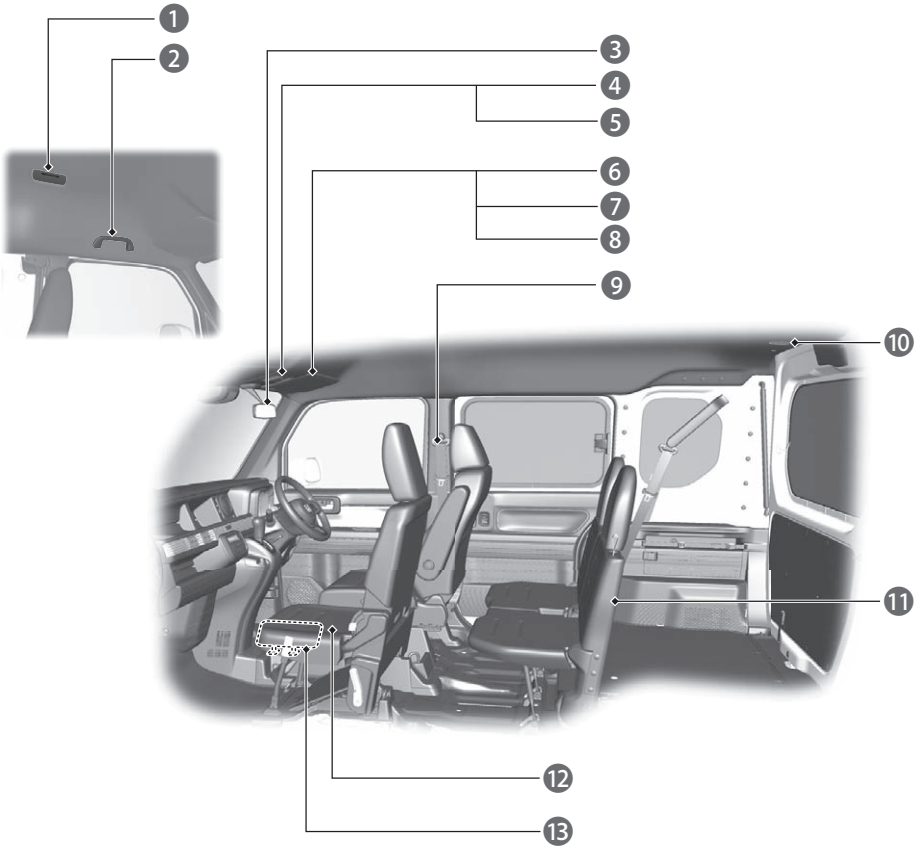
この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



1. USB ジャック（充電専用）*（P. 120）
2. アクセサリーソケット（P. 113）
3. SRS エアバッグシステム（助手席用）（P. 21）
4. USB ジャック（充電専用）*（P. 120）
5. ECON スイッチ（P. 146）
6. SRS エアバッグシステム（運転席用）（P. 21）
7. 室内のヒューズボックス（P. 261）
8. ドアミラー調節スイッチ*（P. 99）
9. マスタードアロックスイッチ*（P. 81）
10. パワーウィンドースイッチ（P. 86）
11. フューエルリッドオープナー（P. 207）
12. ボンネット解除ノブ（P. 216）
13. パーキングブレーキ*（P. 200）
14. パーキングブレーキ*（P. 200）
15. 発炎筒（P. 236）
16. コンビニフック（P. 114）

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。

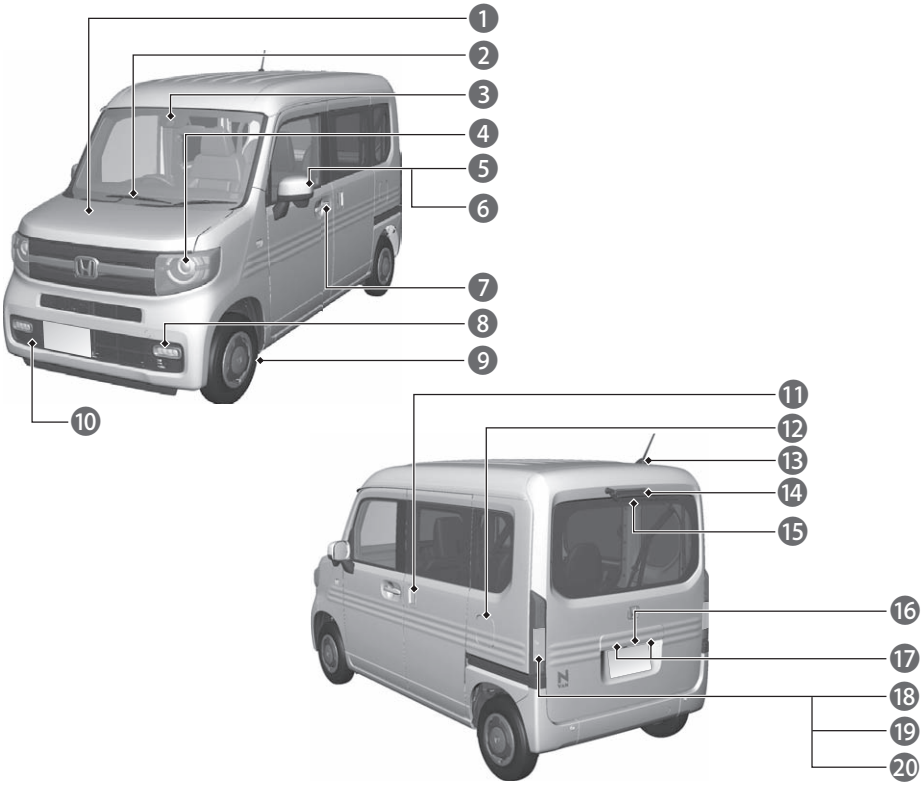
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



1. 助手席側室内灯*（P. 112）
2. グラブレール*
3. ルームミラー（P. 98）
4. 室内灯（P. 112, 273）
5. マップランプ*（P. 112, 273）
6. サンバイザー
7. サンバイザーラベル（P. 27）
8. バニティミラー*
9. シートベルト（P. 13）
10. カーゴスペース照明灯（P. 112, 273）
11. リヤシート（P. 108）
12. フロントシート（P. 101）
13. フロアボード（P. 107）

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



1. エンジンルーム内のメンテナンス（P. 215）
2. ワイパー（P. 95, 227）
3. フロントセンサーカメラ*（P. 197）
4. ヘッドライト（P. 90, 220）
5. ドアミラー（P. 99）
6. サイドアンダーミラー（P. 100）
7. ドアの施錠 / 解錠（P. 74）
8. フォグライト*（P. 223）
9. タイヤ（P. 229, 237）
10. レーダーセンサー*（P. 198）
11. スライドドアの開閉（P. 83）
12. 給油のしかた（P. 207）
13. アンテナ（P. 121）
14. ハイマウントストップランプ（P. 226）
15. リヤワイパー（P. 96, 227）
16. テールゲートの開閉（P. 82）
17. 番号灯（P. 226）
18. 制動灯 / 尾灯（P. 224）
19. ウィンカー（P. 222, 224, 225）
20. 後退灯（P. 225）

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

目次

■はじめに …… 1
本書の構成 …… 1
検索のしかた …… 1
安全に関する表示 …… 2
その他の表示 …… 2
サービス診断記録装置について … 2
データの開示について …… 3
■安全なドライブ …… 12
安全なドライブのために …… 12
安全のための確認事項 …… 12
シートベルト …… 13
シートベルトの着用 …… 16
シートベルトの点検 …… 19
シートベルトのアンカーポイント …… 20
エアバッグ …… 21
エアバッグの種類 …… 21
SRS エアバッグ …… 21
エアバッグシステム警告灯 …… 24
エアバッグのお手入れ …… 25
お子さまの安全 …… 26
お子さまの安全を守るために … 26
乳幼児の安全 …… 27
大きなお子さまの安全 …… 33
排気ガスの危険性 …… 35
一酸化炭素について …… 35
■計器の見かた …… 36
警告灯と表示灯 …… 39
警告灯 …… 39
表示灯 …… 51
マルチインフォメーションディスプレイ*のメッセージ… 56
メーターとインフォメーションディスプレイ …… 66
インフォメーションディスプレイ* …… 67
マルチインフォメーションディスプレイ* …… 68
エコアシストシステム …… 70
■各部の操作 …… 71
時刻の設定 …… 71
時計の日付を合わせる …… 71
AM/FM ラジオ …… 71
ドアの施錠と解錠 …… 74
キーの種類と機能 …… 74
Honda スマートキー* の微弱電波 …… 77
車外でのドアの施錠 / 解錠 …… 78
車内での施錠 / 解錠 …… 81
オートドアロック / オートドアアンロック* …… 82
テールゲートの開閉 …… 82
テールゲート開閉時の注意 …… 82
スライドドア開閉時の注意 …… 83
スライドドアの開閉 …… 83
セキュリティシステム …… 84
イモビライザーシステム …… 84
セキュリティアラームシステム* …… 84
ウィンドーの開閉 …… 86
パワーウィンドーの開閉 …… 86
後席ウィンドーの開閉* …… 87
ハンドルまわりのスイッチ操作 … 88
エンジンスイッチ …… 88
ENGINE START/STOP スイッチ …… 89
ライトスイッチ …… 90
ヘッドライトレベリングダイヤル* …… 91
オートハイビーム* …… 92
ワイパー / ウォッシャー …… 95
リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー* スイッチ …… 97
イルミネーションコントロール …… 97
ハンドルの調節* …… 98
ミラー類の調節 …… 98
ルームミラー …… 98
ドアミラー …… 99
サイドアンダーミラー …… 100
シートの調節 …… 101
フロントシート …… 101
リヤシート …… 108
ヘッドレスト …… 110

アームレスト* …… 112
室内灯 …… 112
室内装備品 …… 113
エアコン …… 117
エアコンの吹き出し口 …… 117
オートエアコンの使いかた …… 118
オートエアコンのセンサー …… 119
■オーディオ …… 120
オーディオ装置* …… 120
取り扱いについて …… 120
USB ジャック* …… 120
AUX ジャック（外部入力端子)* …… 121
アンテナ …… 121
オーディオリモートコントロールスイッチ* …… 122
AM/FM ラジオ* …… 123
各部の名称 …… 123
iPod 対応 USB プレーヤー / FM・AM チューナー* …… 124
基本操作 …… 124
画面の切り換え …… 124
音質、バランス、車速連動の音量調整 …… 125
ラジオの使いかた …… 125
iPod の使いかた …… 126
USB デバイスの使いかた …… 127
■運転 …… 128
運転の前に …… 128
運転の準備 …… 128
運転操作 …… 131
エンジンの始動 …… 131
エンジンの始動 …… 134
走行時の注意点 …… 137
無段変速オートマチックについて …… 138
シフト操作 …… 139
シフト操作 …… 141
アイドリングストップシステム（無段変速オートマチック車) …… 142
アイドリングストップシステム（マニュアル車） …… 144
ECON スイッチ …… 146
VSA（ビークルスタビリティアシスト） …… 147
4WD（四輪駆動機構)* …… 148
ホンダセンシング* …… 149
各機能を作動させるためのスイッチと表示 …… 151
衝突軽減ブレーキ（CMBS) … 152
誤発進抑制機能* …… 158
後方誤発進抑制機能* …… 160
歩行者事故低減ステアリング 162
ACC（アダプティブクルーズコントロール)* …… 167
LKAS（車線維持支援システム)* … 179
路外逸脱抑制機能 …… 186
先行車発進お知らせ機能 …… 190
標識認識機能 …… 193
フロントセンサーカメラ …… 197
レーダーセンサー …… 198
ソナーセンサー* …… 199
ブレーキ操作 …… 200
ブレーキシステム …… 200
ABS（アンチロックブレーキシステム） …… 203
電子制御ブレーキアシスト … 204
エマージェンシーストップシグナル …… 204
駐停車操作 …… 205
駐車する …… 205
給油 …… 207
給油のしかた …… 207
ターボ車* について …… 210
取り扱い …… 210
■メンテナンス …… 211
メンテナンスの前に …… 211
点検整備について …… 211
メンテナンスを安全に行うために …… 212
オイルメンテナンス表示* …… 213
オイルメンテナンス情報の表示 …… 213

エンジンルーム内のメンテナンス …… 215
エンジンルーム内のメンテナンス項目 …… 215
ボンネットを開ける …… 216
推奨エンジンオイル …… 217
ウィンドウォッシャー液の補給 …… 219
電球の交換 …… 220
ヘッドライト電球 …… 220
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球 …… 222
車幅灯電球❖ …… 223
アクセサリーライト / 車幅灯電球❖ …… 223
フォグライト電球❖ …… 223
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球 …… 224
制動灯 / 尾灯電球 …… 224
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球 …… 225
ハイマウントストップランプ電球 …… 226
番号灯電球 …… 226
ワイパーブレードラバーの点検と整備 …… 227
ワイパーブレードラバーの点検 …… 227
フロントワイパーブレードラバーの交換 …… 227
タイヤの点検と整備 …… 229
タイヤの点検 …… 229
タイヤとホイールの交換 …… 231
タイヤのローテーション …… 232
冬期のタイヤ …… 233
キーレスエントリー一体キー / Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 …… 233
清掃 …… 234
アクセサリーと改造 …… 235
アクセサリー …… 235
改造や部品交換について …… 235
■万一の場合には …… 236
発炎筒 …… 236
パンクしたとき …… 237
パンクしたタイヤの交換 …… 237
エンジンが始動しない …… 248
エンジンの状態の確認 …… 248
Honda スマートキーの電池が切れたとき …… 249
緊急時のエンジン停止方法 … 250
ジャンプスタート …… 251
ジャンプスタートの方法 …… 251
セレクトレバーが動かない …… 255
オーバーヒート …… 256
オーバーヒートしたときの対処方法 …… 256
ヒューズ …… 259
ヒューズの設置場所 …… 259
ヒューズの点検と交換 …… 264
けん引 …… 265
非常時のけん引 …… 265
テールゲートが開かないとき … 268
■こんなときは …… 269
■仕様 …… 272
N-VAN …… 272
■索引 …… 277

1 安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P. 16
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P. 26

フロントシート助手席側のシートを倒して荷室として使用する場合は、重量物の積載は避けてください。

シートベルト

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■ 三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■ シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

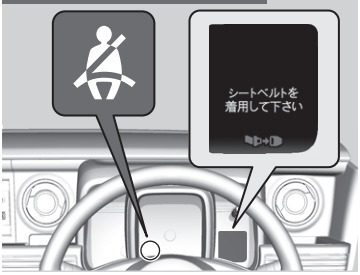
乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■ シートベルトリマインダー

マルチインフォメーション
ディスプレイ装備車



マルチインフォメーション
ディスプレイ非装備車



エンジンスイッチを[II]※1 にしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイ✤ にも警告が表示されます。

- 助手席シートに荷物などを置いたままシートバックを倒さないでください。センサーの誤作動や破損のおそれがあります。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに
[ENGINE START/STOP]が適用されています。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

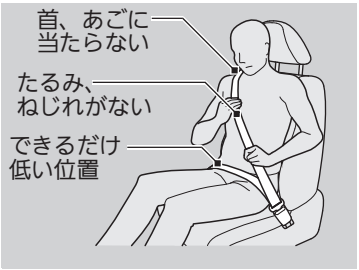
シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
   ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
   ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
   ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

アームレスト装備車

⚠警告

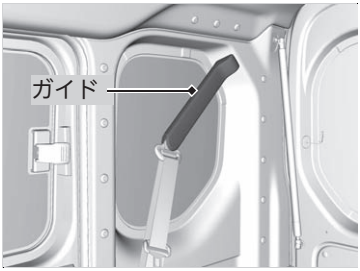
シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

助手席の同乗者がシートベルトを着用中に助手席側のドアの開閉を行わない。
シートベルトがロックする場合があり、締め付けられて思わぬけがをするおそれがあります。ドアの開閉はシートベルトを外してから行ってください。

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

リヤシートのショルダーアンカー部のガイドを引っぱるなどして、シートベルト引き出し方向以外に強い力をかけないでください。ガイドが変形することがあります。



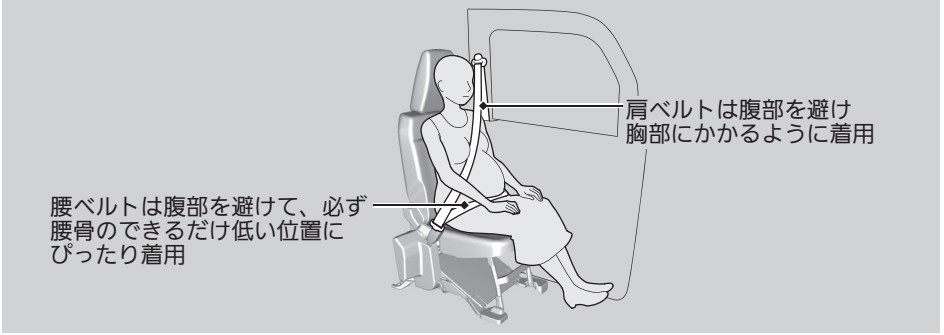
シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。
ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



⚠注意

助手席の同乗者がシートベルトを着用中に助手席側のドアの開閉を行わない。
シートベルトがロックする場合があり、締め付けられて思わぬけがをするおそれがあります。ドアの開閉はシートベルトを外してから行ってください。

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合はシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにする

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

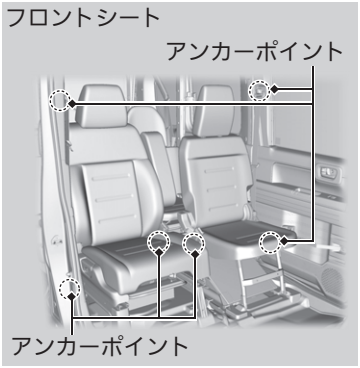
- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

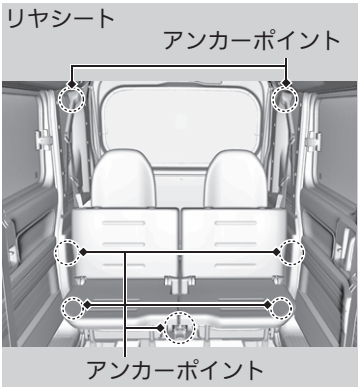
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグ

エアバッグの種類

- **SRS エアバッグ:** フロントシートの前方向エアバッグ

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS: サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■ 格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

SRSエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席のSRSエアバッグが膨らみます。

■ SRSエアバッグの作動

前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRSエアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRSエアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

⚠注意

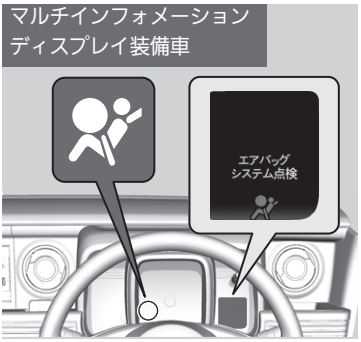
SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■ エアバッグシステム警告灯





■ エンジンスイッチを II※1 にしたとき

エンジンスイッチを II※1 にすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

※1:Hondaスマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンスイッチを[II]※1 にしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■ エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに[ENGINE START/STOP]が適用されています。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

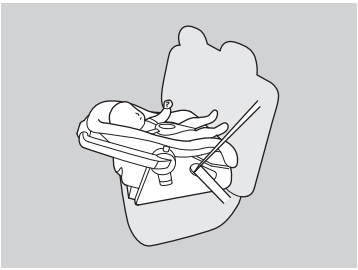
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

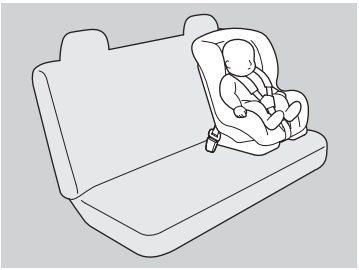
⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
助手席にチャイルドシート、ジュニアシートを設置しないでください。設置したままドアを開けると、転倒や落下する場合があり、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。
お子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを正しく使用し後席にお乗せください。

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへ設置してください。

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
助手席にチャイルドシート、ジュニアシートを設置しないでください。設置したままドアを開けると、転倒や落下する場合があり、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。
お子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを正しく使用し後席にお乗せください。

■ チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

■ チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

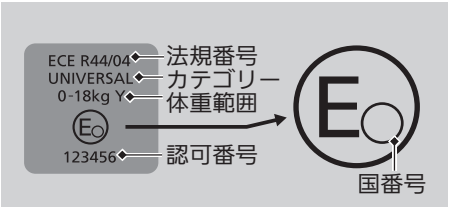
- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■ チャイルドシートの規格

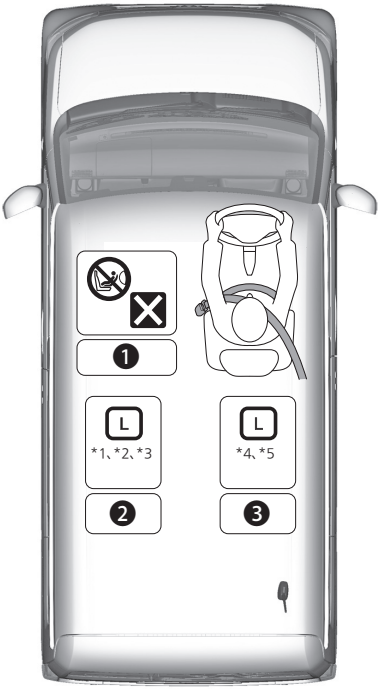
UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN R44 認可表示(例)



■ シート位置別チャイルドシート情報



L	添付のリストに記載された特定幼児拘束装置に適している。これらの拘束装置は、「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのいずれでもよい。
	後ろ向きのチャイルドシート装着禁止。
	チャイルドシートの取り付け不可。

*1：Honda スタンダードを後ろ向きに備える事ができることを示す。
取り付ける場合は助手席シートバックを倒すこと。

*2：Honda スタンダードを前向きに備える事ができることを示す。

*3：Honda ジュニアシートを前向きに備える事ができることを示す。

*4：Honda スタンダードを前向きに備える事ができることを示す。
取り付ける場合、運転席のシートポジションによっては、使用できない可能性があります。

*5：Honda ジュニアシートを前向きに備える事ができることを示す。
取り付ける場合、運転席のシートポジションによっては、使用できない可能性があります。

シートの位置番号	シートの位置		
	❶ 助手席	❷ 後席左側	❸ 後席右側
ベルト固定の汎用チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有 / 無)	無	無	無
i-Size が搭載可能な着座位置(有 / 無)	無	無	無
ベルト固定の推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有 / 無)	無	有	有
寝台式左向き / 右向きチャイルドシート固定具が搭載可能な着座位置(L1/L2)	×	×	×
後ろ向きチャイルドシート固定具が搭載可能な着座位置(R1/R2/R3)	×	×	×
前向きチャイルドシート固定具が搭載可能な着座位置(F2X/F2/F3)	×	×	×

チャイルドシートの隣の席に座る時、チャイルドシートの種類によっては、シートベルトが正しく着用できない場合があります。チャイルドシートに干渉する場合は他の席を使用してください。

⚠警告

シートベルトは必ず正しく着用する

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

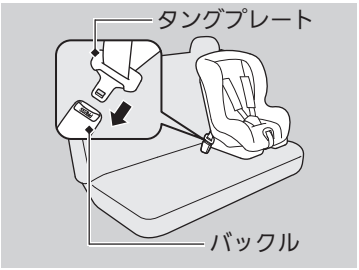
固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

■ 推奨チャイルドシート

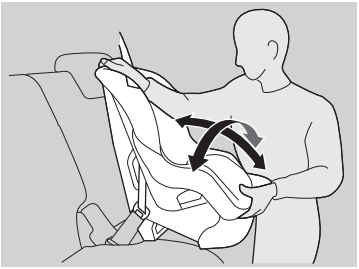
質量グループ	チャイルドシート	カテゴリー
0 10kg 未満 (0-9ヶ月)	Honda スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
0 + 13kg 未満 (0-2 歳)	Honda スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
I 9-18kg (9ヶ月 -4 歳)	Honda スタンダード	汎用シートベルト固定(前向き)
II、III 15-36kg (4-12 歳)	Honda ジュニアシート	汎用シートベルト固定

Honda 純正 Honda スタンダード、または Honda ジュニアシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

大きなお子さまの安全

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■ 確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。

- 助手席にチャイルドシート、ジュニアシートを設置しないでください。設置したままドアを開けると、転倒や落下のおそれがあり、重大な傷害を負ったり死亡したりすることがあります。
- お子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを正しく使用し後席にお乗せください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、このページの注意事項を厳守してください。

■ ジュニアシートについて

三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

2 計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯(P. 39)/ 表示灯(P. 51)/ メーター(P. 66)/ インフォメーションディスプレイ*(P. 67)/ マルチインフォメーションディスプレイ*(P. 68)

インフォメーションディスプレイ装備車



■警告灯 / 表示灯

(A)	アイドリングストップ表示灯（グリーン）/ アイドリングストップシステム警告灯（オレンジ）	(ABS)	ABS 警告灯
OFF	VSA OFF 警告灯	(!)	ブレーキ警告灯（レッド）
	VSA 警告灯		燃料残量警告灯
(!)	オートライトコントロール警告灯*	(!)	ブレーキシステム警告灯（オレンジ）
	Honda スマートキーシステム警告灯*		ドア / テールゲート開閉警告灯
	シートベルト非着用警告灯	KEY BATT	Honda スマートキー電池消耗警告灯*
	エアバッグシステム警告灯	NO KEY	Honda スマートキー持ち去り警告灯*
	方向指示器表示灯 / 非常点滅表示灯		ブレーキ踏み込み不足表示灯*
	油圧警告灯		ハンドル操作表示灯*

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■警告灯 / 表示灯


PGM-FI 警告灯


充電警告灯


セレクトポジション P 移動警告灯*


チェンジポジション N 移動警告灯*


スタータシステム警告灯


ECON 表示灯


高水温警告灯（レッド）/
低水温表示灯（ブルー）


EPS システム警告灯

■ライト 表示灯

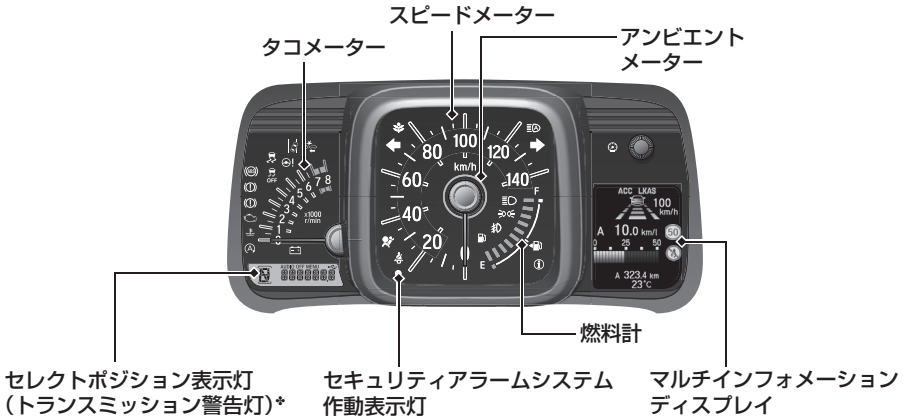

ハイビーム表示灯


ライト点灯表示灯


フォグライト点灯表示灯*

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車



■警告灯 / 表示灯

	インフォメーション表示灯	ACC	ACC 警告灯*(オレンジ)/ ACC 表示灯*(グリーン)
	アイドリングストップ表示灯（グリーン）/ アイドリングストップシステム警告灯（オレンジ）	LKAS	LKAS 警告灯*(オレンジ)/ LKAS 表示灯*(グリーン)
OFF	VSA OFF 警告灯		路外逸脱抑制機能警告灯
	VSA 警告灯		CMBS 警告灯
	シートベルト非着用警告灯	ABS	ABS 警告灯
	エアバッグシステム警告灯		ブレーキ警告灯（レッド）
	方向指示器表示灯 / 非常点滅表示灯		燃料残量警告灯
	PGM-FI 警告灯		ブレーキシステム警告灯（オレンジ）
	充電警告灯		低水温表示灯（ブルー）
	ECON 表示灯		EPS システム警告灯

■ライト 表示灯

	ハイビーム表示灯		フォグライト点灯表示灯*
	ライト点灯表示灯	A	オートハイビーム表示灯*

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
ブレーキ警告灯（レッド） 	• パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。 • ABS警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。	  
ブレーキシステム警告灯（オレンジ） 	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	 

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
油圧警告灯✤ 	• エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	**走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **点灯したらすぐにすること** 1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。 2. 非常点滅表示灯を点滅させる。 **車を停車してからすること** 1. エンジンを停止し、3分間ほど放置する。 2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。 ▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。 ▶消灯した:運転を再開してください。 ▶10秒以内に消灯しない:エンジンを停止して、ただちにHonda販売店に修理を依頼してください。 アドバイス • 油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。	—

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
PGM-FI 警告灯	• エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	**点灯したときは** • 高速走行を避けてただちにHonda販売店で点検を受けてください。 アドバイス • PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。 **点滅したときは** • 枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止にして冷えるのをお待ちください。 アドバイス • エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。	
充電警告灯	• バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯** =電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。	

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
トランスミッション警告灯（セレクトポジション表示灯）✤ 	• トランスミッションが異常のときに点滅	• 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
シートベルト非着用警告灯 	• 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯	• シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。	 
燃料残量警告灯 	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 4.0 リットル（2WD 車）、3.7 リットル（4WD車）になったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	 
ACC（アダプティブクルーズコントロール）警告灯✤（オレンジ） ACC	• ACC システムが異常のときに点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
LKAS（車線維持支援システム）警告灯✤（オレンジ） LKAS	• LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯 (ABS)	• ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ➡ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P. 203	
エアバッグシステム警告灯	• 下記の異常を検出すると点灯 ▶エアバッグシステムの異常 ▶プリテンショナーシステムの異常	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、ブレーキアシストシステム、発進補助ブレーキ機能のいずれかが異常のときに点灯 • VSA が作動しているときは点滅	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➡ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P. 147	 

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
VSA OFF 警告灯 	• VSA を OFF にすると点灯	—	—
高水温警告灯✤（レッド） 	• エンジン冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	• エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 ➡ **低水温表示灯（ブルー）** P. 51	—
		• **走行中に点滅** = ゆっくり走行してください。	—
		• **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➡ **オーバーヒート** P. 256	—
CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯✤ 	• CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• OFF にしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➡ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P. 152 • 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	 

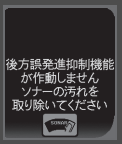
※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯✤ 	• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下るとシステムは復帰します。	
	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➡ **フロントセンサーカメラ** P. 197 ➡ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P. 152	
	• トンネルなど、閉鎖された空間を通過すると警告灯が一時的に点灯することがあります。 • フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➡ **レーダーセンサー** P. 198 ➡ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P. 152	
	無段変速 オートマチック車 • 後方誤発進抑制機能に異常があると点灯	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 ➡ **後方誤発進抑制機能✤** P. 160	

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯* 	無段変速 オートマチック車 • リヤバンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があり、後方誤発進抑制機能が使用できなくなると点灯	• 安全な場所でリヤバンパーの遮蔽物を取り除いてください。 ➡ **後方誤発進抑制機能*** P. 160	
ドア / テールゲート開閉警告灯* 	• ドア、テールゲートが完全に閉まっていないとき点灯	• ドア、テールゲートを完全に閉めると、警告灯が消灯します。	—
EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯 	• EPS システムの機能に異常があると点灯	**点灯したらすること** • 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する。 • 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
アイドリングストップシステム警告灯（オレンジ） 	• アイドリングストップシステムに異常があるときに点滅	• 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

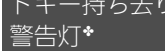
※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
セレクトポジション P 移動警告灯✤ 	Honda スマートキーシステム装備車 • セレクトレバーが P 以外のときに、パワーモードが ON モードからアクセサリーモードになると点滅	• パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。	—
	• アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると点滅	• エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➡ **エンジンの始動** P.131, 134	
チェンジポジション N 移動警告灯✤ 	• アイドリングストップ中に、クラッチを踏まずにチェンジレバーを N 以外に入れると点滅	• バッテリー残量が低下しても自動的にエンジンは再始動しません。バッテリー上がりを防止するためにチェンジレバーを N（ニュートラル）にしてください。 ➡ **アイドリングストップシステム（マニュアル車）** P. 144	—

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
Honda スマートキーシステム警告灯✤ 	• Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 ▶運転中に点灯した ▶エンジン始動後も消灯しない ▶パワーモードをOFF モードにしたときに数秒間点灯した	—
Honda スマートキー電池消耗警告灯✤ 	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に点灯	**電池交換のしかた** P. 233	—
Honda スマートキー持ち去り警告灯✤ 	• Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると消灯します。	—
オートライトコントロール警告灯✤ 	オートライトコントロール装備車 • オートライトコントロールシステムが異常のとき点灯	• 運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	—
	LED ヘッドライト装備車 • ヘッドライトの機能に異常があると点灯	• 運転中に点灯した場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
スターターシステム警告灯✤ 	• スターターシステムが異常のときに点灯	Honda スマートキーシステム非装備車 • ブレーキを踏んだまま、クラッチペダルを踏み(マニュアル車)、エンジンスイッチを Ⅲ にして、エンジンが始動するまで約 15 秒間待ってください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 Honda スマートキーシステム装備車 • ブレーキを踏んだまま、クラッチペダルを踏み(マニュアル車)、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約15秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	—

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
路外逸脱抑制機能警告灯✤ 	• 路外逸脱抑制機能に異常があるとき点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
	• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197 ➔ **路外逸脱抑制機能** P. 186	
	• トンネルなど、閉鎖された空間を通過すると警告灯が一時的に点灯することがあります。 • フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P. 198 ➔ **路外逸脱抑制機能** P. 186	

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯

表示灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
方向指示器 表示灯 / 非常点滅表示灯 	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	• 点滅しない/点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➔ **電球の交換** P. 222, 224, 225 ➔ **エマージェンシーストップシグナル** P. 204	—
ハイビーム 表示灯 	• ヘッドライトが上向きのときに点灯	—	—
ライト点灯 表示灯 	• ライトスイッチがOFF 以外のときに点灯(AUTO✤ のときは車幅灯点灯時に点灯)	• ライトを点灯したままキーを抜く/パワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
低水温表示灯 (ブルー) 	• エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。	—

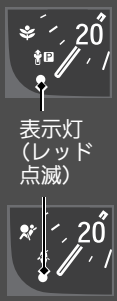
※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
インフォメーション表示灯✤ 	• 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。このとき同時に警告音も鳴り、点灯	• メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲ / ▼)を押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲ / ▼)を押すと、メッセージを再表示させる事ができます。	—

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
セキュリティアラームシステム作動表示灯  表示灯（レッド点滅）	• エンジンスイッチを II※2 にしたとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• 点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。 Honda スマートキーシステム非装備車 エンジンスイッチをいったん 0 へ回しキーを抜いてから、もう一度エンジンスイッチに差し込み II にしてください。 Honda スマートキーシステム装備車 パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますのでHonda販売店で点検を受けてください。	—
	セキュリティアラームシステム装備車 • セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➡ セキュリティアラームシステム* P. 84	—

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車
※2:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯✤(グリーン) ACC	• MAIN スイッチを押して、ACC を ON にすると点灯	➡ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)✤** P. 167	—
LKAS(車線維持支援システム)表示灯✤(グリーン) LKAS	• MAIN スイッチを押して、LKAS を ON にすると点灯	➡ **LKAS(車線維持支援システム)✤** P. 179	—
セレクトポジション表示灯✤ 	• 現在のセレクトレバーのポジションが点灯	—	—
アイドリングストップ表示灯(グリーン) 	• アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	—	
オートハイビーム表示灯✤ 	• オートハイビームの動作条件がすべてそろったときに点灯	➡ **オートハイビーム✤** P. 92	—

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ※1
ブレーキ踏み込み不足表示灯✤ 	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに点滅	• ブレーキペダルを踏み込んでください。	—
ハンドル操作表示灯✤ 	• ハンドルのロックが解除されていないときに点灯	• ENGINE START/STOPを押しながら、ハンドルを左右に動かします。	—

※1：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

マルチインフォメーションディスプレイ*のメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エンジンスイッチがII※1のときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示	• 路面凍結のおそれがあります。
	• エンジン冷却水の温度が異常に上がると表示	• ゆっくり走行してください。
	• エンジン冷却水の温度が上限近くまで上がると表示	• ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➔ **オーバーヒート** P. 256
	• 何らかの理由により、アイドリングストップできないときに表示 • エンジンが自動的に再始動したときに表示 • バッテリーの内部温度が 5 ℃以下のときに表示	➔ **アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)** P. 142 ➔ **アイドリングストップシステム(マニュアル車)** P. 144
	• バッテリーの充電量が少ない状態でアイドリングストップができないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)** P. 142 ➔ **アイドリングストップシステム(マニュアル車)** P. 144
	• エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きくて、アイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)** P. 142 ➔ **アイドリングストップシステム(マニュアル車)** P. 144

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに
ENGINE START/STOP が適用されています。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エンジン冷却水の水温が低いとき、または高くてアイドリングストップできないときに表示	➡ **アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)** P. 142 ➡ **アイドリングストップシステム(マニュアル車)** P. 144
 ※2	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに表示	• ブレーキペダルを踏み込んでください。
 ※2	• セレクトレバーがP以外のときにエンジンが停止して、自動的に再始動しないときに表示 • アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると表示	• エンジンスイッチを0※1にしたいときは、セレクトレバーをPにしてください。 • エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➡ **エンジンの始動** P.131, 134
 ※3	• クラッチペダルを踏み込まずにENGINE START/STOPを押すとホワイトで表示	• クラッチペダルを踏み込んでください。
	• アイドリングストップ中に、以下の状態となったときにオレンジで表示 ▶ シートベルトを着用していない ▶ チェンジレバーがN以外	• クラッチペダルを踏み込み、シートベルトを着用してチェンジレバーをNにすると、アイドリングストップシステムが機能します。
 ※3	• アイドリングストップ中に、クラッチを踏まずにチェンジレバーをN以外に入れると表示	• チェンジレバーをN(ニュートラル)にしてください。 ➡ **アイドリングストップシステム(マニュアル車)** P. 144

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりにENGINE START/STOPが適用されています。
※2：無段変速オートマチック車
※3：マニュアル車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動したときに表示 • バッテリーの充電量が少なくなったとき • バッテリーの内部温度が5℃以下になったとき	➔ **アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)** P. 142 ➔ **アイドリングストップシステム(マニュアル車)** P. 144
	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動したときに表示 • エアコンを使用中で、設定温度と車内の温度差が大きい	➔ **アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)** P. 142 ➔ **アイドリングストップシステム(マニュアル車)** P. 144
 ※1  ※1  ※2  ※2	アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動しないときに表示 • ボンネットが開いている • アイドリングストップを続けることができないシステムの異常	• エンジンを再始動してください。 ➔ **エンジンの始動** P.131, 134
	• ボンネットが完全に閉まっていないときに表示	• ボンネットを完全に閉めてください。

※1：無段変速オートマチック車
※2：マニュアル車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• スターティングシステムが異常のときに表示	Honda スマートキーシステム非装備車 • ブレーキペダル(無段変速オートマチック車)/クラッチペダル(マニュアル車)を踏んだままエンジンスイッチを III にして、エンジンが始動するまで約 15 秒間待ってください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 Honda スマートキーシステム装備車 • ブレーキペダル(無段変速オートマチック車)/クラッチペダル(マニュアル車)を踏んだまま、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **表示されたらすぐにすること** 1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。 2. 非常点滅表示灯を点滅させる。 **車を停車してからすること** 1. エンジンを停止し、3　分間ほど放置する。 2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。 ▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。 3. エンジンを始動する。 ▶「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた:運転を再開してください。 ▶「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない:エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。 アドバイス • 油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

Honda スマートキーシステム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• Honda スマートキーシステムが異常のときに表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードが ON で、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	—
	• ハンドルのロックが解除されていないときに表示	• ハンドルを左右に動かしながら ENGINE START/STOP を押してください。
※1 	• パワーモードが ON モードでセレクトレバーが P 以外のとき、ENGINE START/STOP を押すと表示	• パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに ENGINE START/STOP スイッチを押すと、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキー* の微弱電波** P. 77 ➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P. 89 ➡ **Hondaスマートキーの電池が切れたとき** P. 249

※1：無段変速オートマチック車

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	Honda スマートキーシステム装備車 • 走行中に ENGINE START/STOP を押したときに表示	➔ **緊急時のエンジン停止方法** P. 250
	• ドアとテールゲートが完全に閉まっていないときに表示 • 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告メッセージが表示	• ドアとテールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
	• シートベルトを着用しないで、エンジンスイッチを II ※1 にすると表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

LED ヘッドライト装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

オートライトコントロール装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ライトスイッチ** P. 90

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)*** P. 167 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P. 152 ➔ **後方誤発進抑制機能*** P. 160
	• フロントロアグリルに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、ACC*、歩行者事故低減ステアリング、誤発進抑制機能* が使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントロアグリルの遮蔽物を拭き取ってください。 ➔ **レーダーセンサー** P. 198
	• フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、ACC*、LKAS*、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリング、オートハイビーム*、誤発進抑制機能* が使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197
	• フロントガラスに遮蔽物があるとき、ACC*、LKAS*、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリング、オートハイビーム*、誤発進抑制機能* が使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

無段変速オートマチック車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ACC が作動しているときにスリップやホイールスピンなどが発生したときに表示	• ACC を使用するときは再度、設定しなおしてください。 ➡ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)*** P. 167
 	• 加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなど、ACC の作動が自動的に解除される直前に表示(先行車との車間距離が、車間距離設定で最長を選択したときの距離まで自動的に開きます。) • ACC の作動が自動的に解除されたときに表示	➡ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)*** P. 167
	• 加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなど、ACC をセットできないときに表示	• しばらくしてから ACC を再度セットしてください。 ➡ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)*** P. 167
	• LKAS システムに異常が起こりLKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合にLKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)*** P. 179

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車線を越えそうになると、警告音と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)*** P. 179 ➡ **路外逸脱抑制機能** P. 186
	• カスタマイズ機能の路外逸脱抑制システム設定で「アシストタイミング早め」を選択しているときに、車線からはみ出るような走行をすると、ハンドル制御と同時に表示	—
	• ハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **路外逸脱抑制機能** P. 186

オートハイビーム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートハイビームに異常があると表示	• ヘッドライトスイッチを手動で操作してください。 • ハイビーム点灯中に表示された場合は、ロービームに切り替わります。

ターボ装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• メンテナンス時期が近づくと表示	• メンテナンスの必要な装備、時期にしたがってメッセージの表示は変化します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

メーターとインフォメーションディスプレイ

■ 燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

■ タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

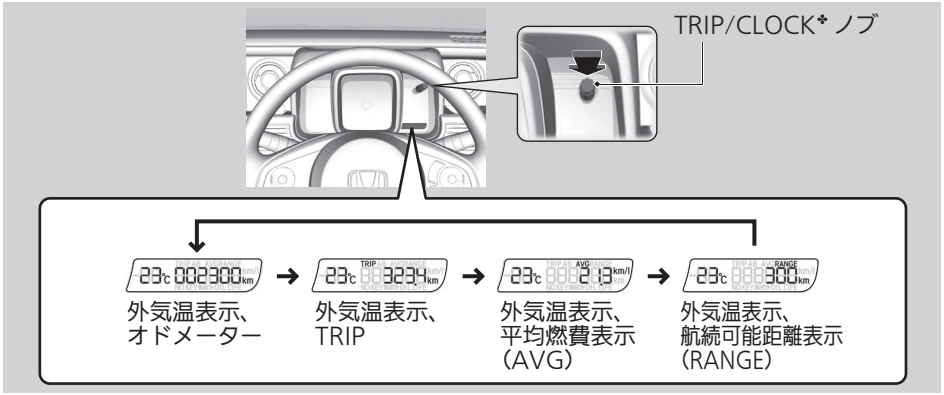
セレクトレバーが R のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

インフォメーションディスプレイ*

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示などが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

TRIP/CLOCK* ノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■ トリップメーター

■ トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、TRIP/CLOCK* ノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

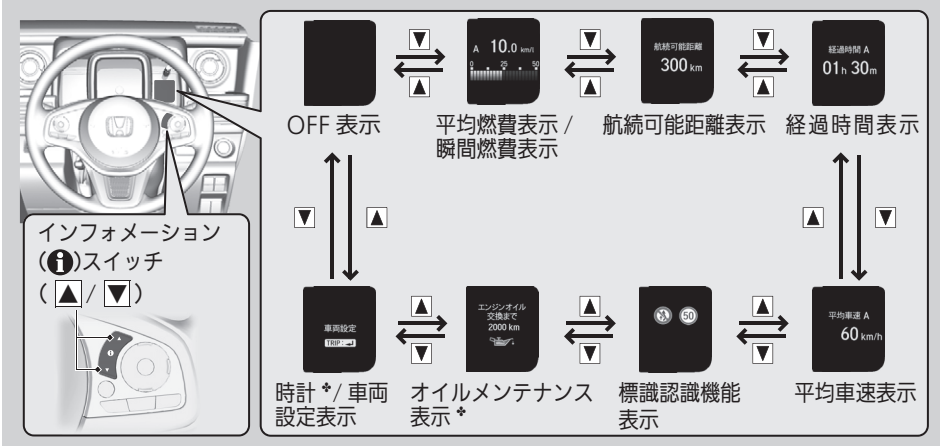
マルチインフォメーションディスプレイ✤

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

■ メインディスプレイ

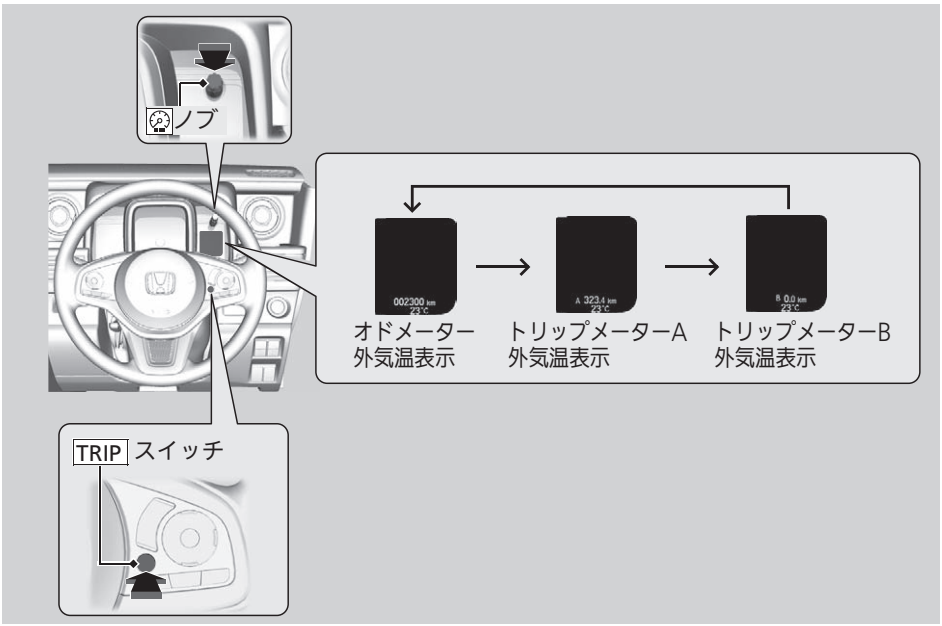
インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ サブディスプレイ

TRIPスイッチまたはノブを押すごとに画面が切り換わります。



■ トリップメーター

■ トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、TRIPスイッチまたはノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

トリップメーターA、B と平均燃費 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

■ オイルメンテナンス表示✤

エンジンオイルの交換時期の目安を表示します。

➡ オイルメンテナンス表示✤ P. 213

➡ 各表示設定については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

■ カスタマイズのしかた

エンジンスイッチが II※1 でセレクトレバーが P のとき(無段変速オートマチック車)/パーキングブレーキがかかっているとき(マニュアル車)に、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押して、「時計 ✤/ 車両設定」を選択します。そして TRIP を押すと、カスタマイズを行うことのできる「グループ」画面に切り換わります。

➡ カスタマイズ機能、設定、操作の詳細については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

エコアシストシステム

■ アンビエントメーター



運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色がグリーンに変化します。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定

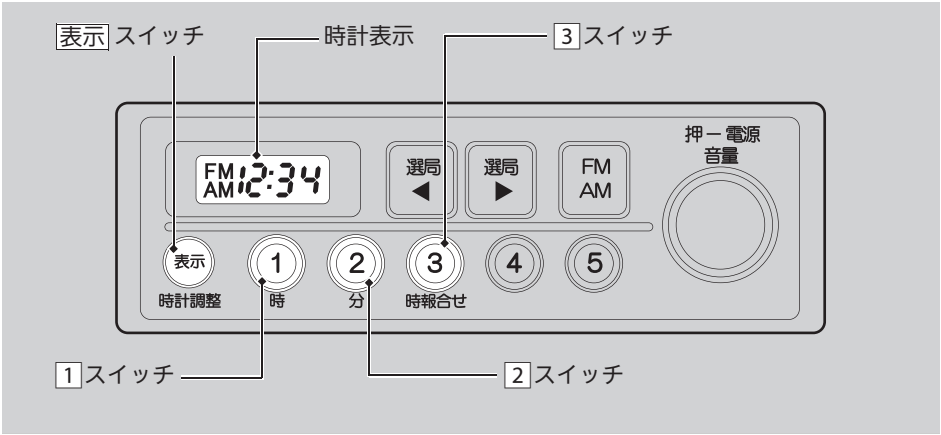
Honda インターナビシステム装備車

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

時計の時刻を合わせる

AM/FM ラジオ装備車

AM/FM ラジオ

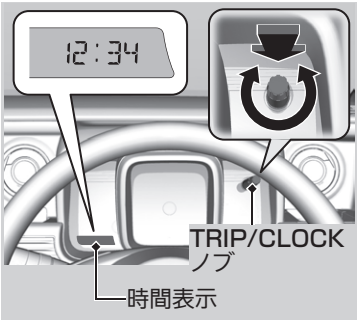


■時刻の設定

1. オーディオの電源が ON のときに、表示 を時計表示が点滅するまで押し続ける。
2. 時刻を合わせる。
   時: 1 を押す
   分: 2 を押す
3. 表示 をもう一度押す。
   ▶ 時刻設定が完了します。

インフォメーションディスプレイ装備車

時計はメーターに表示されます。



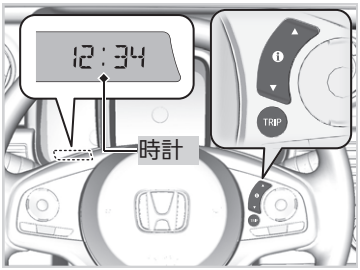
iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM チューナー
非装備車

Honda インターナビシステム非装備車

1. **TRIP/CLOCK** ノブを押して、時計調節表示にする。
   ▶「時」、「分」が点滅します。
2. **TRIP/CLOCK** ノブを回して、時間を合わせる。
   右に回す:「分」が進みます。
   ▶「59」を超えると「時」が 1 時間進みます。
   左に回す:「分」が戻ります。
   ▶「00」を超えると「時」が 1 時間戻ります。
3. **TRIP/CLOCK** ノブを押す。
4. **TRIP/CLOCK** ノブを回して、「**CLK 24H**」、「**CLK 12H**」、または「**CLK OFF**」を選択する。
   ▶「12H」または「24H」を選択すると時刻表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
   ▶「OFF」を選択すると時計が非表示となります。
5. **TRIP/CLOCK** ノブを押す。
   ▶ 時刻設定が完了します。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

時計はメーターに表示されます。



iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM チューナー非装備車

Honda インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示（24 h /12h/非表示）を切り換えたり時刻調整をすることができます。

1. インフォメーション（ⓘ）スイッチ（▲ / ▼）を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、TRIP を押す。
   ▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。

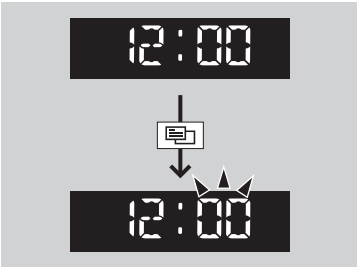


2. TRIP を押す。
   ▶「メニュー」画面に切り換わり、「時刻調整」が表示されます。



3. TRIP を押す。
   ▶「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。
4. インフォメーション（ⓘ）スイッチ（▲ / ▼）を押し、希望の数値が表示されたら、TRIP を押す。
   ▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. インフォメーション（ⓘ）スイッチ（▲ / ▼）を押し、希望の数値が表示されたら、TRIP を押す。
   ▶「分」が設定され、通常画面に戻ります。

時計はメーターに表示されます。



1. スイッチを押して、時計表示にする。
2. スイッチを押す。
   ▶ MENU が表示され、「分」が点滅します。
3. +/−スイッチを押して、時間を合わせる。
4. ◀を押す。
   ▶「時」が点滅します。
5. +/−スイッチを押して、時間を合わせる。



6. スイッチを押す。
   ▶「CLK」が表示されます。
7. ◀/▶、+/−スイッチを押して、「CLK 12H」、または「CLK 24H」を選択する。
   ▶「12H」または「24H」を選択すると時刻表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
8. スイッチを押す。
   ▶ 時刻設定が完了します。

ドアの施錠と解錠

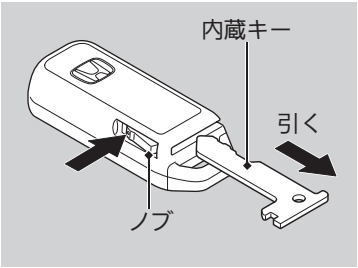
キーの種類と機能

エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。
キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠/解錠の操作ができます。

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

■ 内蔵キー*



Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、ノブを押しながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

Hondaスマートキー*およびキーレスエントリー一体キー*は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

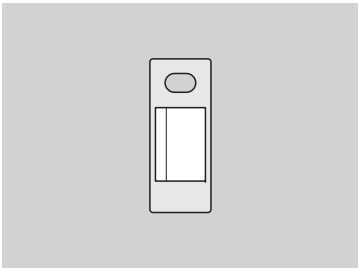
- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P. 249

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

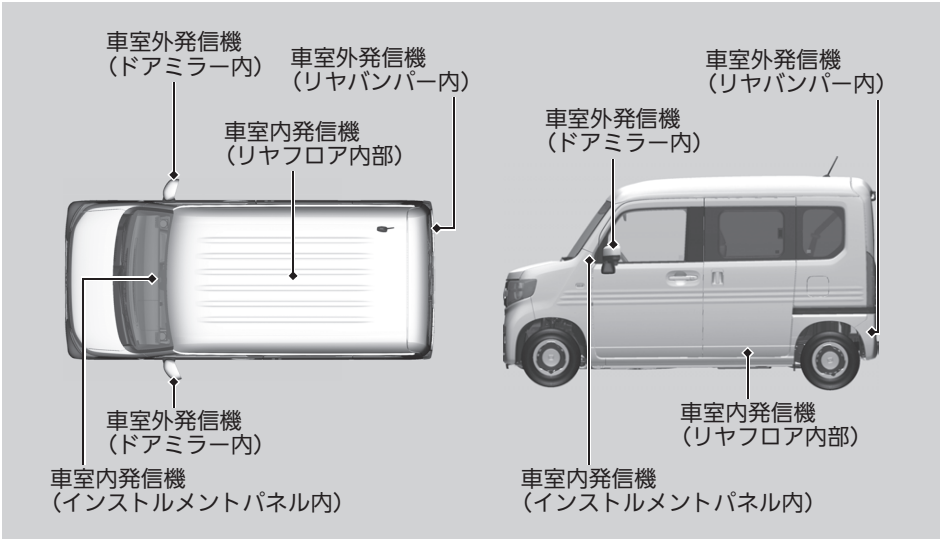
キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキー* の微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠注意

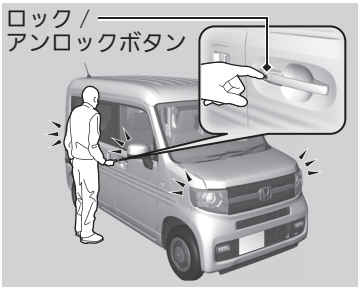
植え込み型心臓ペースメーカおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

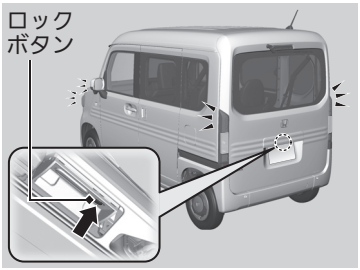
この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステム✤ での施錠 / 解錠

Honda スマートキーを携帯し、ロック / アンロックボタンを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠ができます。
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。



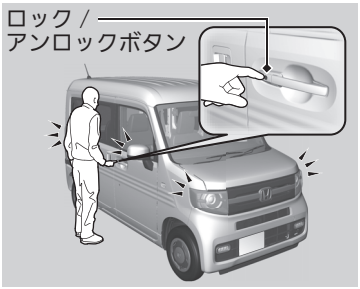


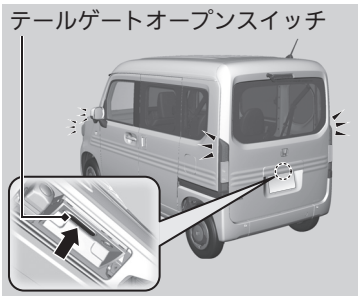
■ 施錠するには

運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタン、テールゲートのロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。





■解錠するには

運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタンを押すか、テールゲートオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

■ キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■ 施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目:

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

Honda スマートキーシステム装備車

2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内):

▶ アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

■ 解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

■ キーを差し込んでの施錠 / 解錠

キーレスエントリー一体キー*、Hondaスマートキー*の電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、キー*、または内蔵キー* を使用してください。

➡ **キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキーの取り扱いと電池交換** P. 233



キーを確実に差し込んで、回します。

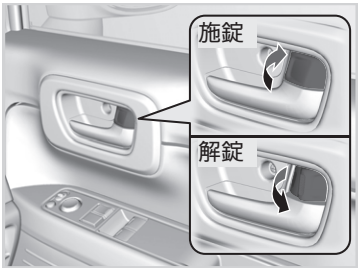
セキュリティアラームシステムがセットされているときキー*、または内蔵キー* で解錠してドアを開けると警報装置が作動します。停止方法は下記ページを参照ください。

➡ **セキュリティアラームシステム*** P. 84

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠

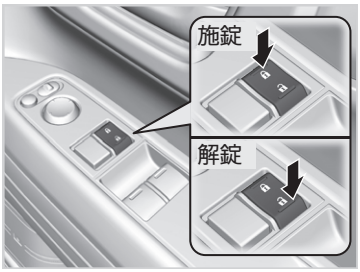


■ 施錠するには
ノブを押し込みます。

■ 解錠するには
ノブを引き出します。

運転席ドアのノブで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドアとテールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ マスタードアロックスイッチ* での施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

オートドアロック / オートドアアンロック*

➡ オートドアロック/オートドアアンロックの操作や設定については右のQRコードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

テールゲートの開閉

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

スライドドアの開閉

スライドドア開閉時の注意

スライドドアを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■開けるとき

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。

■閉めるとき

- キー*、キーレスエントリー一体キー* またはHonda スマートキー* を、車内に置き忘れないようにする

⚠注意

スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないよう注意する。
特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。
ドアが不意に閉まるおそれがあります。

ドアハンドルをしっかり持って開閉する。
ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム*

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると
ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには
Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムで解錠するか、エンジンスイッチを[II]※1 にしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

■セットするには
セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

Honda スマートキーシステム装備車
- パワーモードが OFF モードのとき

Honda スマートキーシステム非装備車
- エンジンスイッチを[0]にしてキーが抜かれているとき

共通
- ボンネットが閉まっているとき
- Hondaスマートキーシステム*またはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると
メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに
[ENGINE START/STOP]が適用されています。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ セットを解除するには

Honda スマートキーシステム❖ またはキーレスエントリーシステムで解錠するか、エンジンスイッチを II※1 にすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

システムの改造や追加をしないでください。

システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステム❖ またはキーレスエントリーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

セキュリティシステムがセットされているとき、キー❖、または内蔵キー❖で解錠してドアを開けるとセキュリティシステムが作動します。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

エンジンスイッチが[II]※1 のときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉は運転手席、助手席それぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、助手席のウィンドーの開閉操作も行うことができます。

助手席ウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを ON にしておくと、助手席のウィンドーは作動しません。

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

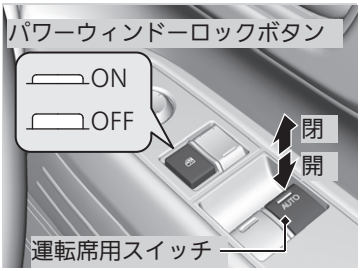
指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。
必ずエンジンスイッチからキーを抜き※1、ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに
ENGINE START/STOP が適用されています。

■ 自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■ 手動開閉

開けるとき:スイッチを軽く押す
閉めるとき:スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

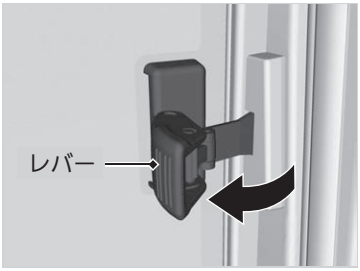
■ 自動開閉

開けるとき:スイッチを強く押す
閉めるとき:スイッチを強く引き上げる
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

自動開閉機能なしのウィンドーの開閉については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

後席ウィンドーの開閉*

スライドドアのウィンドーを開けることができます。



1. レバーを手前に引く。



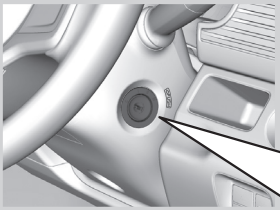
2. レバーを外に押し出して固定する。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ハンドルまわりのスイッチ操作

Honda スマートキーシステム非装備車

エンジンスイッチ



0 **ロック**
キーを抜き差しする位置

I **アクセサリー**
エンジンをかけずに、オーディオシステム*などのアクセサリーを使用するときの位置

II **ON**
運転するときの位置

III **始動**
エンジン始動位置
始動したら手を離すと、自動的にIIに戻ります。

マニュアル車

⚠警告

走行中はエンジンを止めないでください。マニュアル車はエンジンスイッチを0にするとキーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ、思わぬ事故につながります。

エンジンスイッチが0からIに回らないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながらキーを回してください。ハンドルロックが解除され、キーが回ります。

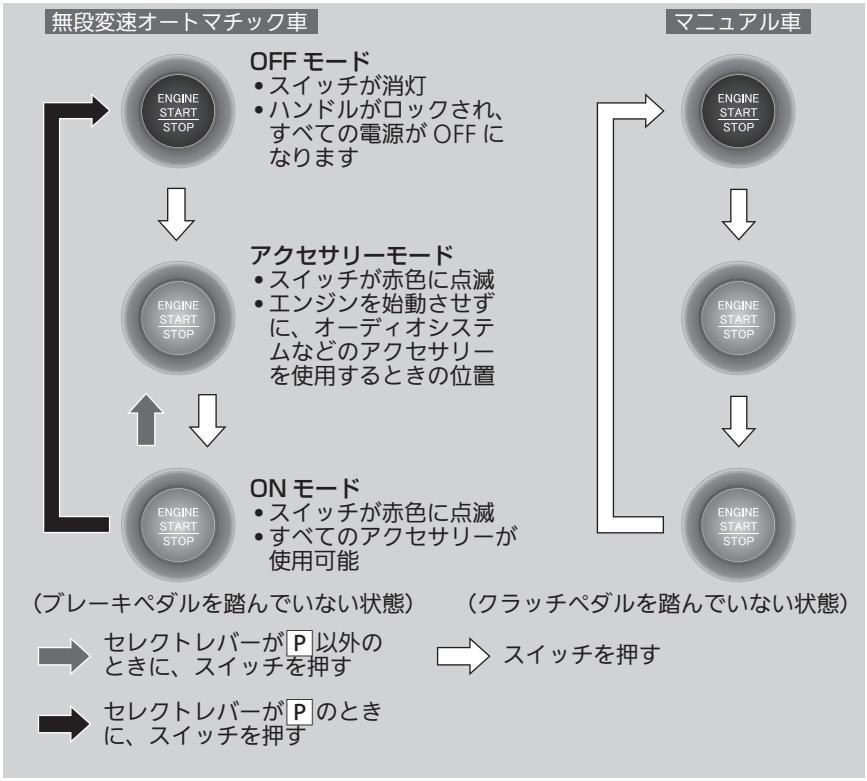
この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

Honda スマートキーシステム装備車

ENGINE START/STOP スイッチ

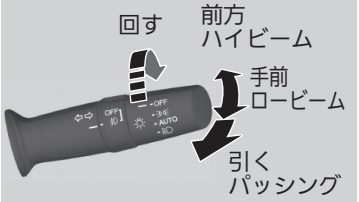
ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。
ハンドルロックが解除されます。



➔ ENGINE START/STOPスイッチ関連の警告や機能については右のQRコードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

ライトスイッチ



スイッチを回すとパワーモードやエンジンスイッチの位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ ハイビーム
「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ ロービーム
ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

AUTO ✤ パワーモードが ON モード のとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

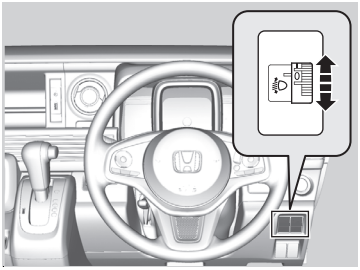
ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

LED ヘッドライト装備車

次の条件が揃ったとき、アクセサリーライトが点灯します。
- パワーモードが ON モードのとき
- ライトスイッチが AUTO で周囲が明るいとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ヘッドライトレベリングダイヤル*



エンジンスイッチが II ※1 のとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

光軸の調節はダイヤルを回して行います。
ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを 0 の位置に戻してから行ってください。

ダイヤル位置 1 と 2 は、乗員の人数や荷物の量に応じて、調節してください。

LED ヘッドライト装備車

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。
ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

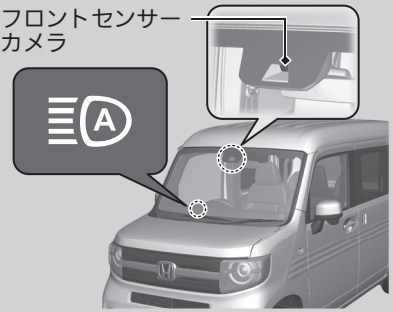
この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

オートハイビーム*

オートハイビームは夜間走行時に前方の状況によってヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り換えるシステムです。

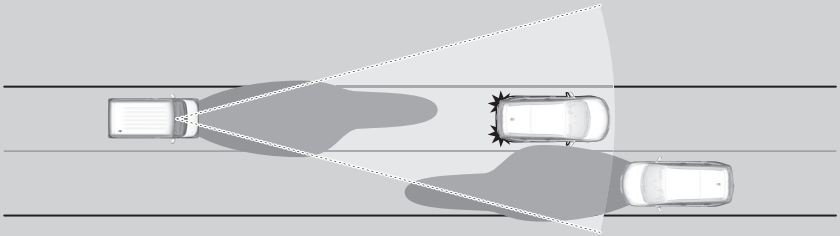
作動条件

- ライトスイッチが AUTO でレバーがロービームの位置
- システムが夜と判断してロービームが点灯
- 時速 30 km/h 以上で走行



作動

- 自車の前方に先行車や対向車がいないとき：ハイビームに切り換わります。
- 前方の先行車や対向車のランプ類を検知したとき：ロービームに切り換わります。



カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

オートハイビームは前方の発光する物体の明るさに応じてヘッドライトの切り換えを行います。次のような場合、タイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で操作を行ってください。

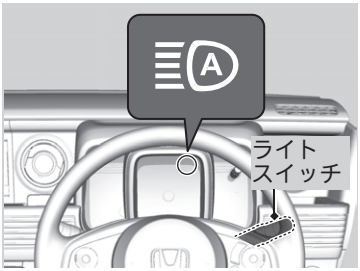
- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやルームミラー周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

■ 作動させるには



夜間にスイッチを AUTO にしてライトスイッチのレバーをロービームの位置にします。オートハイビーム表示灯が点灯します。

➔ **ライトスイッチ** P. 90

■ 一時的に作動が解除となる条件

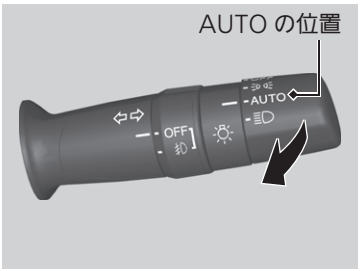
- 車速が 24km/h 未満でしばらく走行したとき
- 車速が 10km/h 未満になったとき
- ワイパーが HI（高速）で数秒間動作したとき
- 明るい場所で走行したとき

上記の状態から復帰した場合、ハイビームも復帰します。

以下の操作を行うと一時的に作動が解除され、オートハイビーム表示灯が消灯します。

- ライトスイッチレバーをハイビームの位置にしたときやパッシングしたとき
  ▶ オートハイビームを復帰させたい場合はレバーを数秒間引き続けてください。

■ 機能を停止、復帰させたいとき



パワーモードが ON モードで車両が停止しているときに機能を停止することができます。ライトスイッチを AUTO にして、以下の操作を行ってください。

停止状態（OFF）にする：ライトスイッチレバーを約 40 秒間引き続けます。このとき表示灯が 2 回点滅します。2 回点滅後にレバーから手を放します。

作動可能（ON）にする：ライトスイッチレバーを約 30 秒間引き続けます。このとき表示灯が 1 回点滅します。1 回点滅後にレバーから手を放します。

オートハイビームが停止の状態のとき、エンジンを再始動しても停止状態になっています。

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

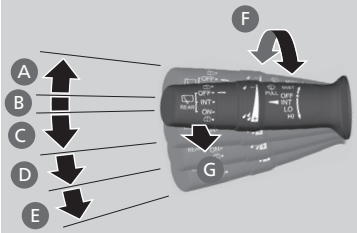
アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

■ フロントワイパー/ ウォッシャー



- A MIST：（レバーを操作している間作動）
- B OFF：停止
- C INT：間欠（雨量が少ないとき）
- D LO：低速（普通の雨量のとき）
- E HI：高速（雨量が多いとき）
- F 間欠時間の調節*
- G ウォッシャー

エンジンスイッチが II※1 のときに使用できます。

■ 間欠時間の調節*

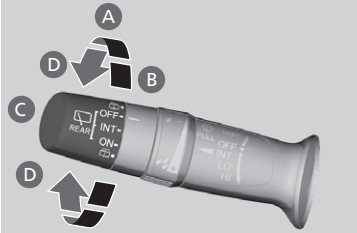
リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

■ リヤワイパー/ ウォッシャー



- A ON：低速作動
- B INT：間欠作動
- C OFF：停止
- D ：ウォッシャー

エンジンスイッチが II※1 のときに使用できます。

■ リヤワイパースイッチ（OFF、INT、ON）

雨量に応じてワイパースイッチを切り替えて使用します。

■ ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

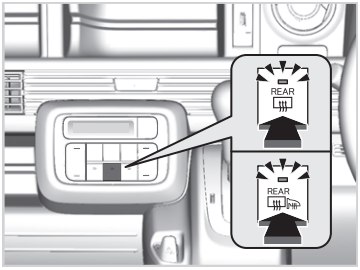
■ リバース連動モード

フロントワイパー作動中にセレクトレバーを R に入れるとリヤワイパーが作動します。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

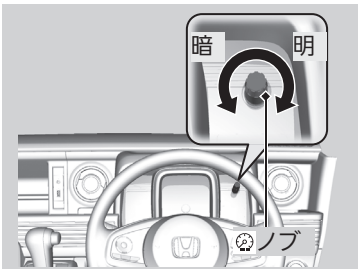
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ



エンジンスイッチがII※1 のときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

イルミネーションコントロール



エンジンスイッチがII※1 で、ライトスイッチがOFF以外のとき（オートライト装備車は、ライトスイッチがOFF以外で周囲が暗いとき）、ノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

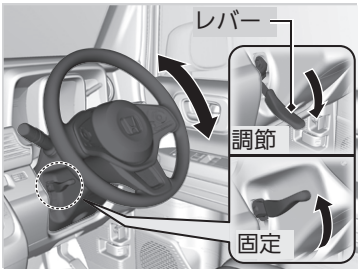
暗くする：ノブを左に回す

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりにENGINE START/STOPが適用されています。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ハンドルの調節*

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
   ▶ハンドル位置調節レバーは、ステアリングコラムの左側にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
   ▶調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
   ▶位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

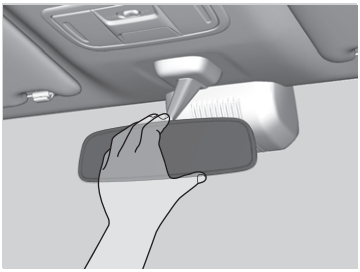
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ミラー類の調節

ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ドアミラー

電動格納ドアミラー装備車

ドアミラーの操作は、エンジンスイッチが II ※1 のときに行います。

■ 角度調節

左右切り換えスイッチ: 右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ: 上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

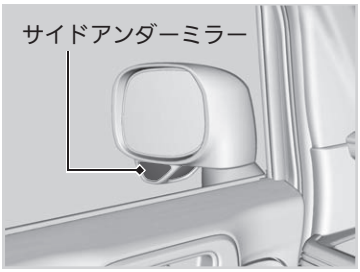
電動格納ドアミラー非装備車

■ 角度調節

鏡面を手で直接調整します。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

サイドアンダーミラー



助手席側ドアミラーの下部についています。停車時や発進前などに車両左側下部を確認するときに役立ちます。

見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

サイドアンダーミラーは車両左側を見るために下向きになっています。

サイドアンダーミラーの角度調節はできません。

シートの調節

フロントシート

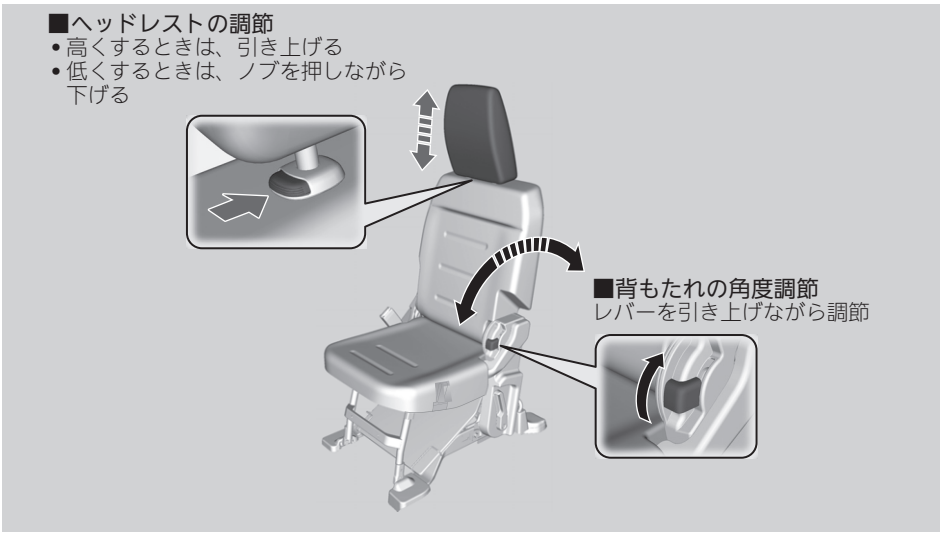
運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■ シートの動かしかた

■ 運転席



■助手席



⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転席は、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

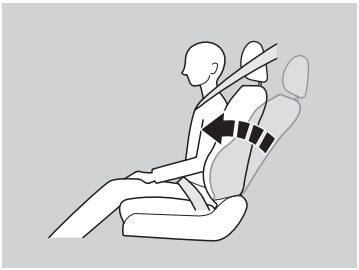
フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

■ フロントシートの調節



■ 運転席位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■ 背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

⚠警告

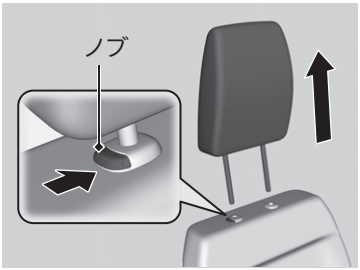
SRS エアバッグからできるだけ離れた位置まで運転席を下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

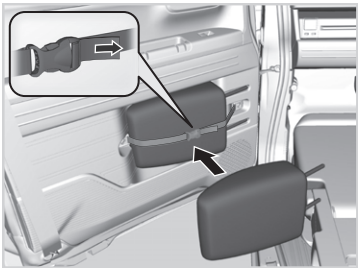
背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

■ 助手席の収納

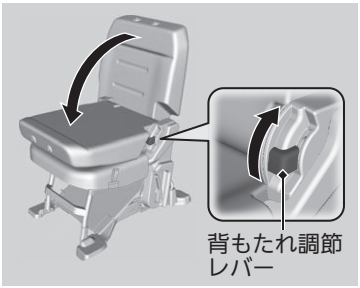


■ 収納のしかた

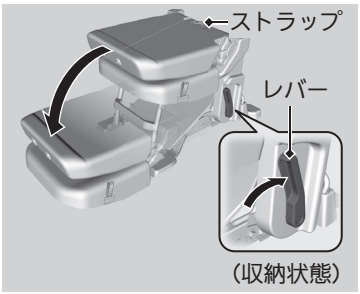
1. ノブを押しながら助手席のヘッドレストを外す。



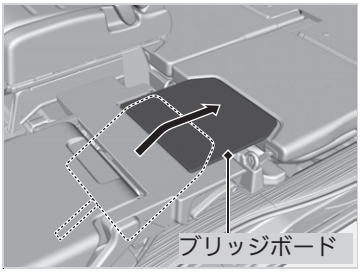
2. ヘッドレストの背面を室内側に向け、助手席側ドアの溝に合わせ固定用のバックルを差し込み、ベルトを締める。
   ▶ 走行中に外れることがないようにしっかりと固定されていることを確認してください。



3. 背もたれ調節レバーを引き上げながら、背もたれを前方いっぱいまで倒す。

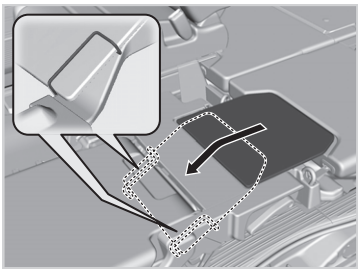


4. レバーを引きながら、シート背面のストラップを持ち、シートを前方に倒す。



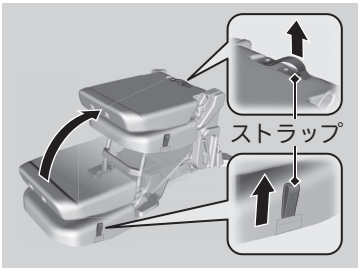
5. リヤシートを収納しているときは、助手席の下に収納されているブリッジボードを使用し、荷物の積載のためにリヤシートと助手席の段差を無くすことができます。

➔ **リヤシートの収納** P. 108



■戻しかた

1. ブリッジボードを助手席下のラックに収納する。



2. 座面のストラップと背もたれの背面のストラップを持って引き上げる。
3. 背もたれを起こして固定する。
   ▶ シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認してください。
4. ヘッドレストを取り付ける。
   ▶ ヘッドレストの高さを調節した後、軽く上下させ正しく固定されていることを確認してください。

➔ **ヘッドレスト** P. 110

⚠注意

収納状態の助手席へ荷物を積載するときは十分注意する。
助手席を収納状態にして荷室として使用する場合は確実に荷物を固定してください。また、重い荷物の積載や運転者の視界を妨げるような積載は避けてください。積載した荷物が運転の妨げになったり、荷崩れなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

倒した助手席の背もたれの上に人を乗せない。
走行中にブレーキをかけたときなどに、けがをするおそれがあります。

助手席を収納状態にせずに背もたれを前方に倒した状態では走行しない。また、後席に人が乗るときは助手席を収納状態にして走行しない。
走行中にブレーキをかけたときなどに、けがをするおそれがあります。

収納状態の助手席へ荷物を積載するときはタイダウンフックを使用して確実に荷物を固定してください。

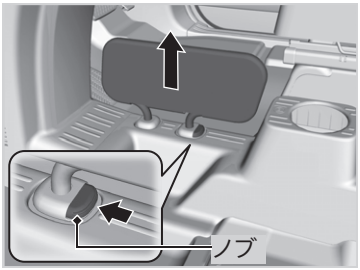
➔ **タイダウンフック** P. 115

ブリッジボードは、助手席とリヤシートを収納した状態で、荷物を積載するときのみ使用してください。また、使用するときは収納した助手席とリヤシートの背もたれに対して段差が無いことを確認してからブリッジボードの上に荷物を積載し固定してください。

アドバイス

ブリッジボードは助手席を収納状態から元に戻す前に助手席下のラックに収納してください。
正しくラックに収納されていないと、ブリッジボードやシートが破損するおそれがあります。

■ フロアボード



小さな荷物が運転席の足元へ転がり落ちにくくするための仕切り板です。助手席を収納して荷室として使用するときはフロアボードが正しく取り付けられていることを確認してください。

■取り外しと取り付け

フロアボードは、掃除や修理のために取り外すことができます。

フロアボードの取り外し：

ノブを押して引き上げ、取り外します。

フロアボードの取り付け：

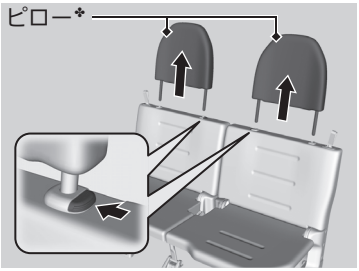
フロアボードの脚を元の位置に差し込み、軽く上下させ、確実に固定します。

⚠注意

助手席収納時にフロアボードを外した状態で走行しない。

運転席の足元に小さな荷物が転がり落ちると運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ リヤシートの収納

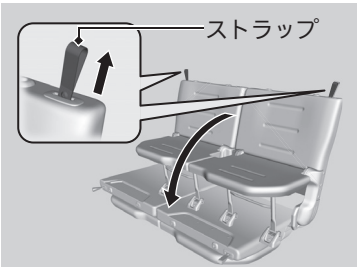


リヤシートを収納して荷室を広くできます。

ピロー装備車

1. リヤシートのピローを外す。

➡ **ピロー✤の収納 / 取り付け** P. 109



2. ストラップを引き上げ、背もたれを手で支えながら、シート全体を前方へ倒す。

▶ リヤシートを倒すときに背もたれが運転席に当たる場合は、運転席を前方へ動かしてください。

➡ **フロントシート** P. 101

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

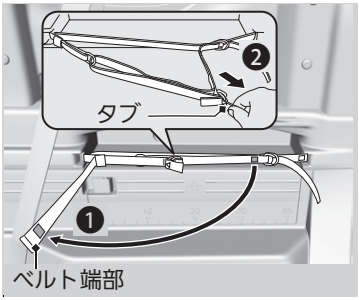
倒した背もたれの上やカーゴスペースには人を乗せて走行しない。
ブレーキをかけたときなどに、けがをするおそれがあります。

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

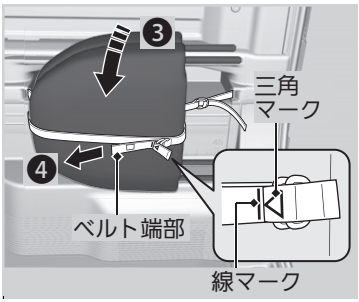
■ ピロー* の収納 / 取り付け

リヤシートを収納したとき、取り外した ピローを収納することができます。



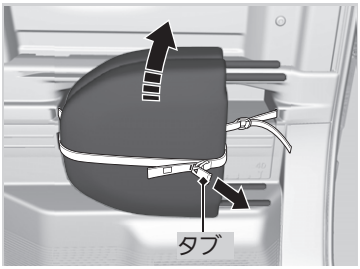
■ピローの収納

1. カーゴエリア側面に取り付けられたピロー収納用ベルトのベルト端部を取り外す。
2. タブを引っ張ってベルトを緩める。
   ▶ ベルト端部が金具から抜けないようにしてください。



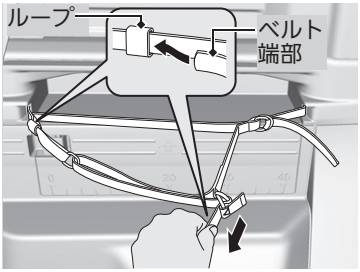
3. ピローの背面を手前に向けてベルトの輪の中にピローを入れる。
4. ベルト端部を持ってベルトを締める。
   ▶ ベルトの線マークがタブの三角マークの先に見えるまでベルトを締めてください。線マークが見えるまで締まらない場合は、ピローの位置を微調整して再度締めなおしてください。
   ▶ 走行中に外れることがないようにしっかりと固定されていることを確認してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

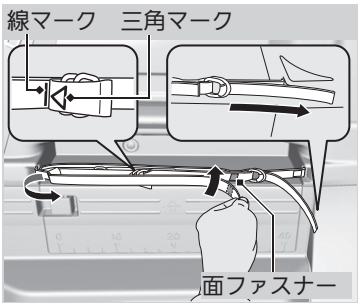


■ピローの取り付け

1. タブを引っ張ってベルトを緩め、ピローをベルトから取り出す。



2. ベルト端部を引っ張ってベルトを締め、ベルト端部をループに通す。



3. ベルト端部を面ファスナーでとめる。
   ▶ ベルトの線マークがタブの三角マークの先に見えるまでベルトを締めると面ファスナーでベルト端部をとめることができます。
4. ピローの脚をリヤシートに差し込み固定します。
   ▶ 軽く上下させ正しく固定されていることを確認してください。

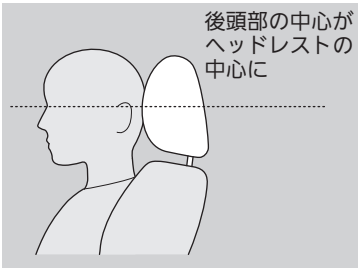
ヘッドレスト

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

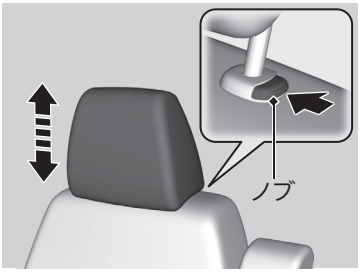
ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ フロントシートのヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るように
ヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき:ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき:ノブを押しながら下げます。



⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し:
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け:
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト*

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

室内灯

➡ 室内灯の操作については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

室内装備品

■ ドリンクホルダー

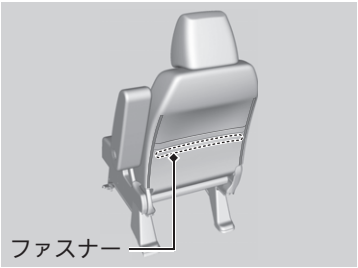
⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■ アクセサリーソケット

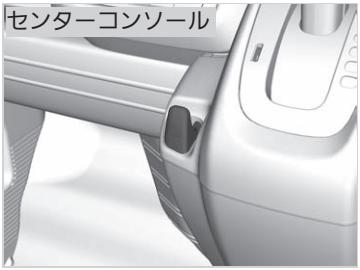
シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

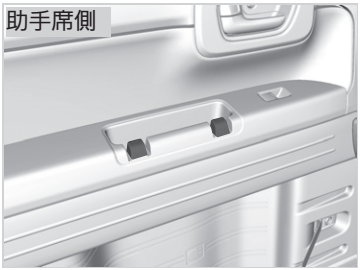
■ シートバックポケット



運転席背もたれの後ろのポケットにはファスナー付の内ポケットがあります。
車検証や取扱説明書等を収納するために使用できます。

■ コンビニフック





アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの（センターコンソール：約3kg 以上、助手席側：約 0.3kg 以上）や大きいものをかけないでください。

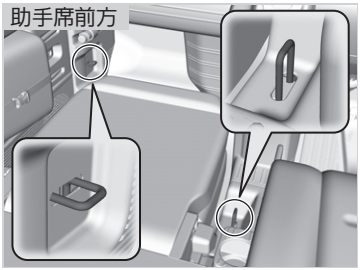
■ ユーティリティーナット

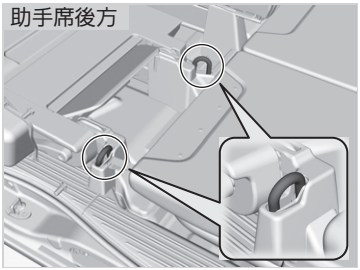
⚠注意

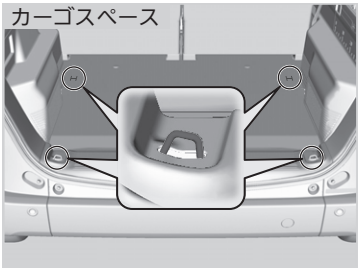
後席に乗車するときは後席周辺のユーティリティナットに市販のフックなどを取り付けない。

シートベルトが正しく着用できなかったり、衝突時や旋回時などにものがぶつかるなど、けがをするおそれがあります。

■ タイダウンフック







荷物を固定するときに使います。

⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

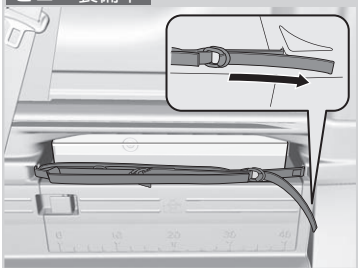
助手席に人が乗るときは助手席後方のタイダウンフックを使用しない。
衝突時に思わぬ怪我をするおそれがあります。

助手席前方および助手席後方のタイダウンフックは助手席収納時に使用してください。

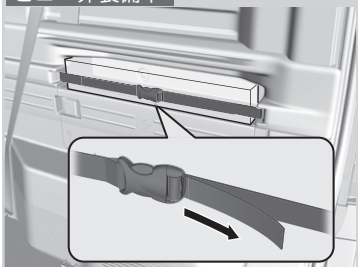
➡ **助手席の収納** P. 104

■ 停止表示板入れ

ピロー装備車

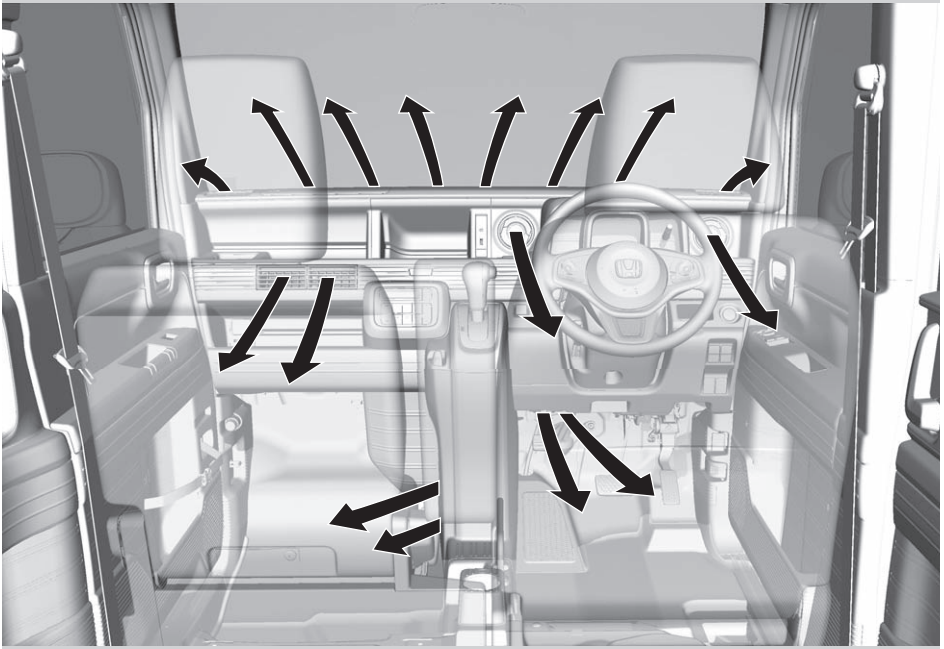


ピロー非装備車

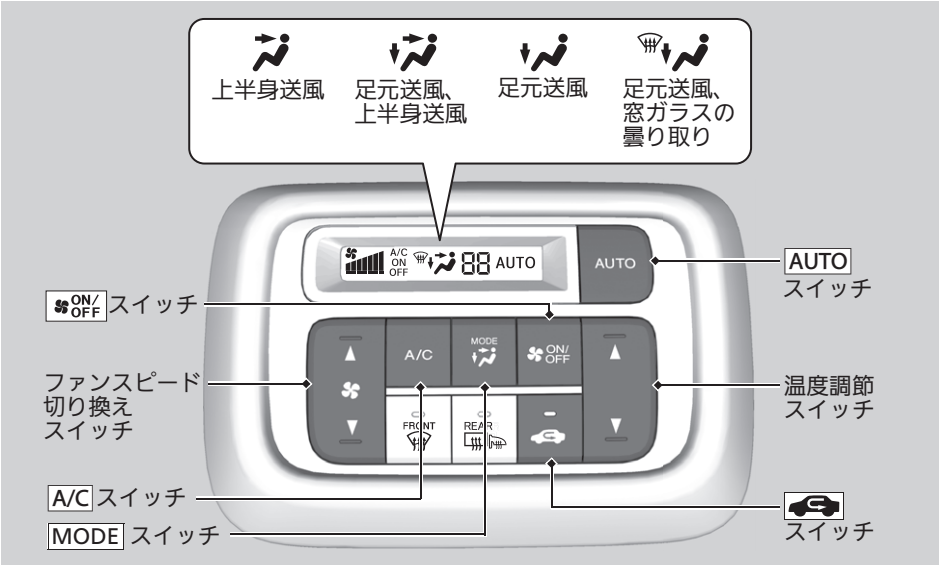


カーゴスペース側面に停止表示板入れがあります。収納するときは落下しないようにベルトでしっかりと固定してください。

エアコンの吹き出し口

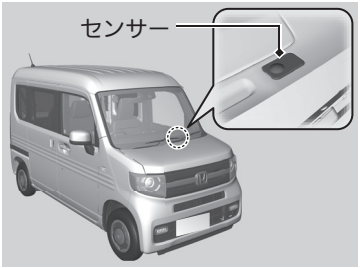


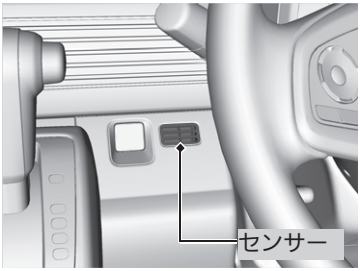
オートエアコンの使いかた



➔ オートエアコンの詳細説明については右のQRコードから詳細取扱説明書(HTML版)を参照してください。

オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

オーディオ装置*

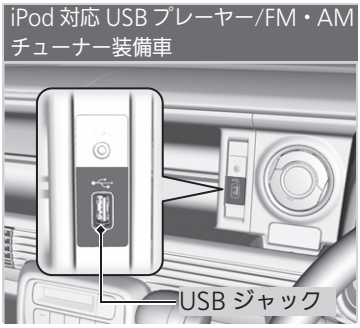
この章では、ラジオなどの操作方法について記載しています。

取り扱いについて

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全の妨げとなります。
- 運転中のオーディオ操作は、安全に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うと、オーディオに雑音が入ることがあります。

iPod、iPhone は、米国およびその他の国々で登録された Apple, Inc. の登録商標です。

USB ジャック*



iPod 対応 USB プレーヤー/FM•AM チューナー装備車

iPod や iPhone の USB ケーブルや USB デバイス、スマートフォンの USB 接続コードを USB ジャックに接続します。



充電専用 USB ジャック装備車

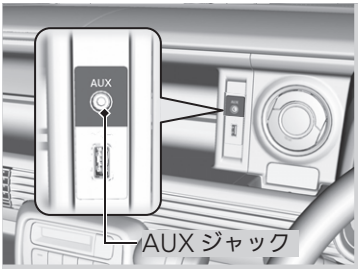
充電する機器の USB ケーブルを USB ジャックに接続します。

► のマークがある USB ジャックは充電専用(2.5A)です。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

AUX ジャック(外部入力端子)*

市販のポータブルオーディオなどを、AUX ジャックに接続して聴くことができます。



ポータブルオーディオなどのヘッドホン端子から、市販の接続コード(抵抗なし)を使って、AUX ジャックに接続します。

アンテナ



アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

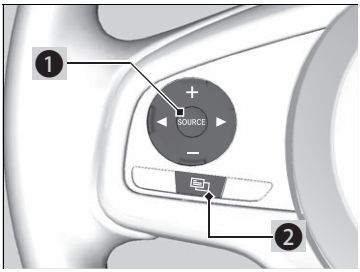
アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

オーディオリモートコントロールスイッチ*

運転中にオーディオの操作をするためのスイッチです。



❶ SOURCE スイッチ

再生、視聴することができるソースの順に切り換えることができます。

▶ 長押しすると、オーディオモードがOFFになり、もう一度押すと ON になります。

❷ スイッチ

ラジオを聴いているとき

- 「**TUNE**」:受信周波数の調整ができます。
- 「**PRESET**」:AM6 局、FM12 局を手動で登録できます。
- 「**SCAN**」:受信可能な放送局を約 10 秒間ずつ放送します。
- 「**A--SEL**」:AM6 局、FM12 局を自動的に登録します。

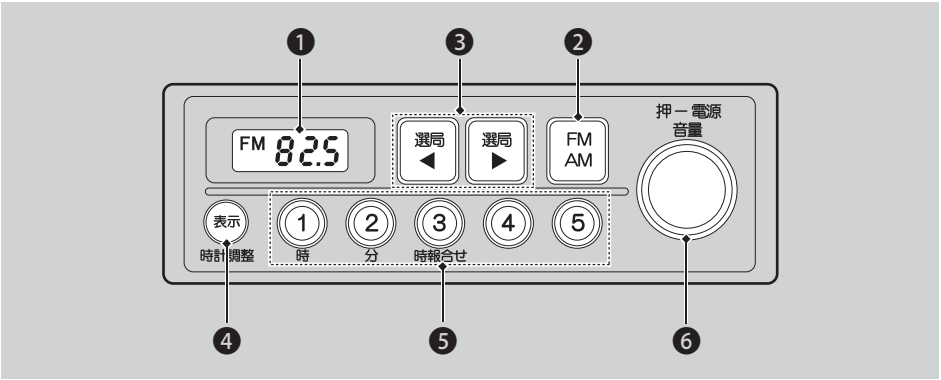
iPod、USB デバイスを聴いているとき

- 「**REW/FF**」(USB デバイスのみ):再生しているファイルの早戻し、早送りができます。
- 「**RPT**」/「**RDM**」または「**SHF**」:プレイモードを切り換えます。
- 「**SCAN**」(USB デバイスのみ):ファイルのスキャン再生を行います。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

AM/FM ラジオ*

各部の名称



❶ 画面
選択中のラジオ局の情報と、時計が表示される画面です。

❷ FM/AM スイッチ
AM、FM 放送を切り換えるときに押します。

❸ ◀/▶スイッチ
ラジオ局を探すときに押します。

❹ 表示 スイッチ
画面の表示を切り換えるときに押します。

❺ ワンタッチ選局スイッチ 1 ～ 5
登録したラジオ局をワンタッチで選局するためのスイッチです。
選局後にワンタッチ選局スイッチを数秒間押すことで登録できます。

❻ 電源 / 音量ダイヤル
電源: オーディオ装置の電源を入れるときに押します。
音量: 音量を調節するときに回します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM チューナー*

基本操作

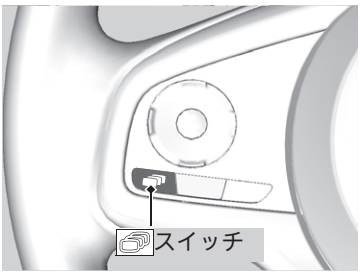
オーディオの操作は、オーディオリモートコントロールスイッチで行います。

➡ **オーディオリモートコントロールスイッチ*** P. 122

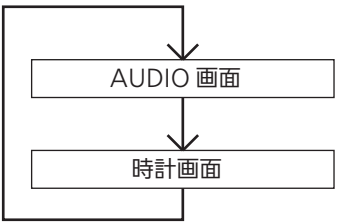
USB デバイスまたは iPod 、iPhone が接続されている場合、SOURCE を押すと USB/iPod を選択できます。

SOURCE スイッチを長押しすると、オーディオモードが OFF になり、もう一度押すと ON になります。

画面の切り換え

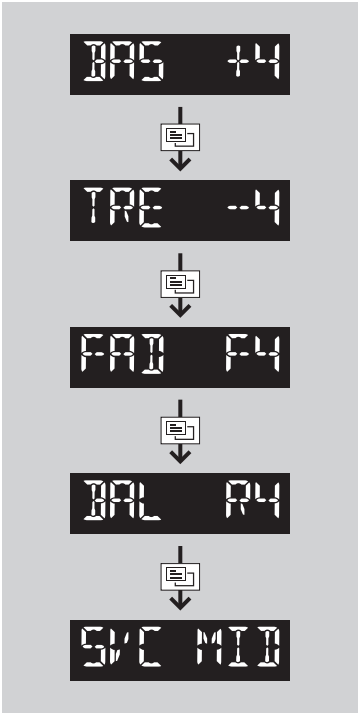


ステアリングの スイッチを押すごとに、メーター内の表示が下記のように切り換わります。



この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

音質、バランス、車速連動の音量調整



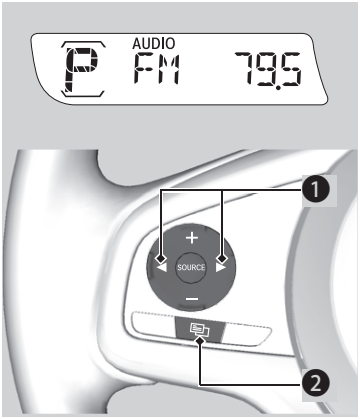
1. [≡]を押し、調整したい項目を選択する。
2. SOURCE を押す。
3. ◀/▶、−/+ を押して、調整する。
4. 調整終了後、SOURCE を押して決定する。
   ▶自動的に AUDIO 画面に戻ります。

以下の設定項目があります。

- 「**BAS**」: 低音
- 「**TRE**」: 高音
- 「**FAD**」: 前後
- 「**BAL**」: 左右
- 「**SVC**」: 車速連動音量

ラジオの使いかた

聴きたいバンド(AM/FM)になるまで SOURCE を押し、その後◀/▶で選局します。



❶ ◀/▶スイッチ

- ◀または▶を押すたびにプリセットされている放送局を選局します。
- 長押しすると、自動的に電波を探し(スキャン)、放送局を受信すると止まります。

❷ [≡]スイッチ

放送局を登録(プリセット、オートセレクト)したり、音質の設定をするときに押します。

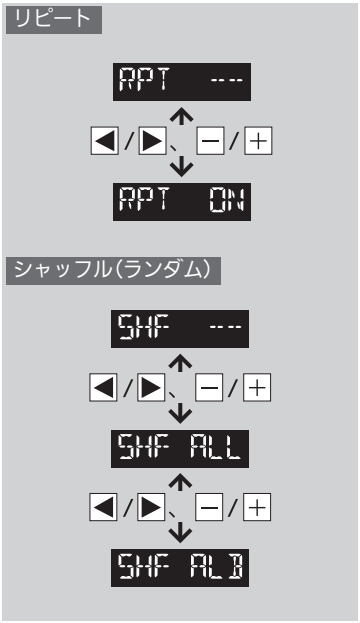
iPod の使いかた

iPod や iPhone の音楽を再生することができます。iPod や iPhone を USB ケーブルで車両の USB ジャックに接続します。その後、iPod モードになるまで SOURCE を押します。

➡ USB ジャック* P. 120

■ プレイモードの選択

再生中の曲を繰り返し聴くとき(リピート)、曲をシャッフル(ランダム)に再生するときのモードを切り換えることができます。



1. ⏎を押し、以下項目を選択する。
   ▶ リピートの場合:「**RPT -- --**」
   ▶ シャッフル(ランダム)の場合:「**SHF -- --**」
2. SOURCE を押す。
3. ◀/▶、−/+を押し、以下項目を選択する。
   ▶ リピートの場合:「**RPT ON**」
   ▶ シャッフル(ランダム)の場合:「**SHF ALL**」または、「**SHF ALB**」
   ▶ 解除するときは、手順 2. で選択した項目を再度選択します。
4. SOURCE を押して決定する。
   ▶ 自動的に AUDIO 画面に戻ります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

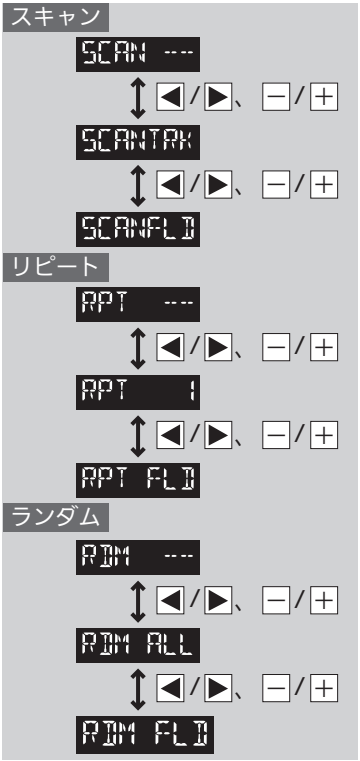
USB デバイスの使いかた

USB フラッシュメモリーデバイスに保存されている MP3 や WMA 音楽ファイルを再生することができます。USB デバイスを USB ジャックに接続し、USB デバイスモードになるまで SOURCE を押します。

➔ USB ジャック* P. 120

■ プレイモードの選択

聴きたい曲を探すとき（スキャン）、再生中の曲を繰り返し聴くとき（リピート）、曲をランダムに再生するときのモードを切り換えることができます。



1. を押し、以下項目を選択する。
   - ▶ スキャンの場合：「**SCAN --**」
   - ▶ リピートの場合：「**RPT -- --**」
   - ▶ ランダムの場合：「**RDM -- --**」
2. SOURCE を押す。
3. ◀/▶、− / + を押し、以下項目を選択する。
   - ▶ スキャンの場合：「**SCANTRK**」または「**SCANFLD**」
   - ▶ リピートの場合：「**RPT 1**」または「**RPT FLD**」
   - ▶ ランダムの場合：「**RDM ALL**」または「**RDM FLD**」
   - ▶ 解除するときは、手順 2. で選択した項目を再度選択します。
4. SOURCE を押して決定する。
   - ▶ 自動的に AUDIO 画面に戻ります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

5 運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■ 車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  タイヤの点検と整備 P. 229
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- フロアボードが正しく取り付けられているか？
  ▶ 助手席収納時にフロアボードを外した状態で走行すると、小さな荷物が運転席の足元に転がり落ちやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  ➔ **フロアボード** P. 107
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P. 81
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P. 101
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドル✤は適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P. 98
  ➔ **ハンドルの調節✤** P. 98
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P. 16
- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P. 39

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

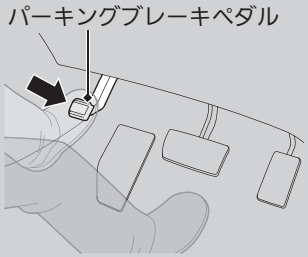
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

Honda スマートキーシステム非装備車

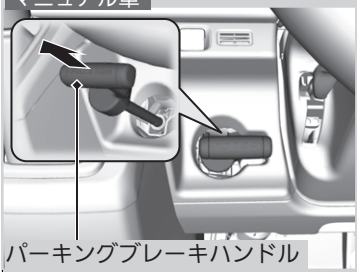
エンジンの始動

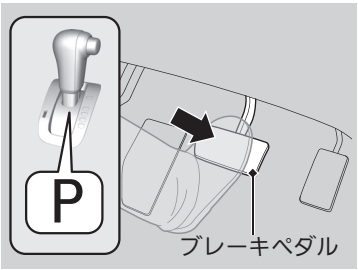
無段変速オートマチック車



1. パーキングブレーキをかける。

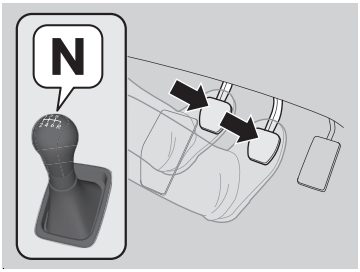
マニュアル車





無段変速オートマチック車

2. シフトポジションが P であることを確認し、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
   ▶ N でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。



マニュアル車

2. チェンジレバーがN(ニュートラル)であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。
   ▶ 思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らないようになっています。



共通操作

3. アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチをIIIに回す。
   ▶ エンジンが始動したら、エンジンスイッチを離します。

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 発進時の操作

無段変速オートマチック車

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

マニュアル車

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。
車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

エンストした後、約 3 秒以内にクラッチペダルをいっぱいに踏み込むとエンジンが自動的に再始動します。
ただし、車両状態によっては、自動的に再始動しないことがあります。

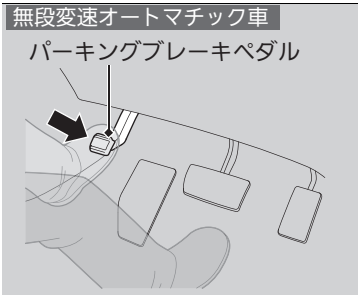
■ ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約 1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

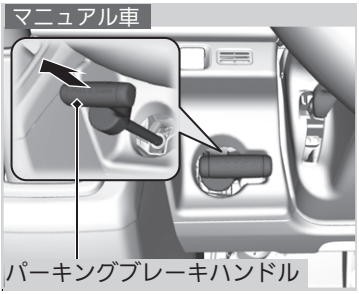
エンジンの始動

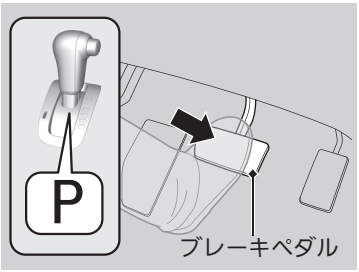
無段変速オートマチック車



1. パーキングブレーキをかける。

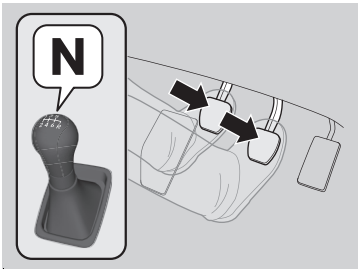
マニュアル車





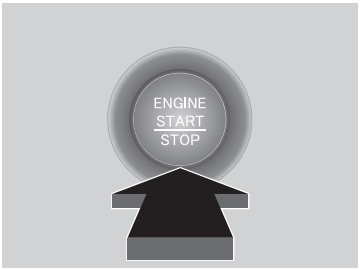
無段変速オートマチック車

2. シフトポジションが P であることを確認し、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
   ▶ N でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。



マニュアル車

2. チェンジレバーが[N](ニュートラル)であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。
   ▶ 思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らないようになっています。



共通操作

3. アクセルペダルを踏まずに、
   [ENGINE START/STOP]を押す。

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

■ エンジンの停止

無段変速オートマチック車

1. シフトポジションを P にする。

マニュアル車

1. チェンジレバーを N にする。

共通操作

2. ENGINE START/STOP を押す。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 発進時の操作

無段変速オートマチック車

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

マニュアル車

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。

車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

エンストした後、約 3 秒以内にクラッチペダルをいっぱいに踏み込むとエンジンが自動的に再始動します。

ただし、車両状態によっては、自動的に再始動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約 1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを N にしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■ その他の注意点

マニュアル車

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、バンパーなどを損傷するおそれがあります。
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過

無段変速オートマチックについて

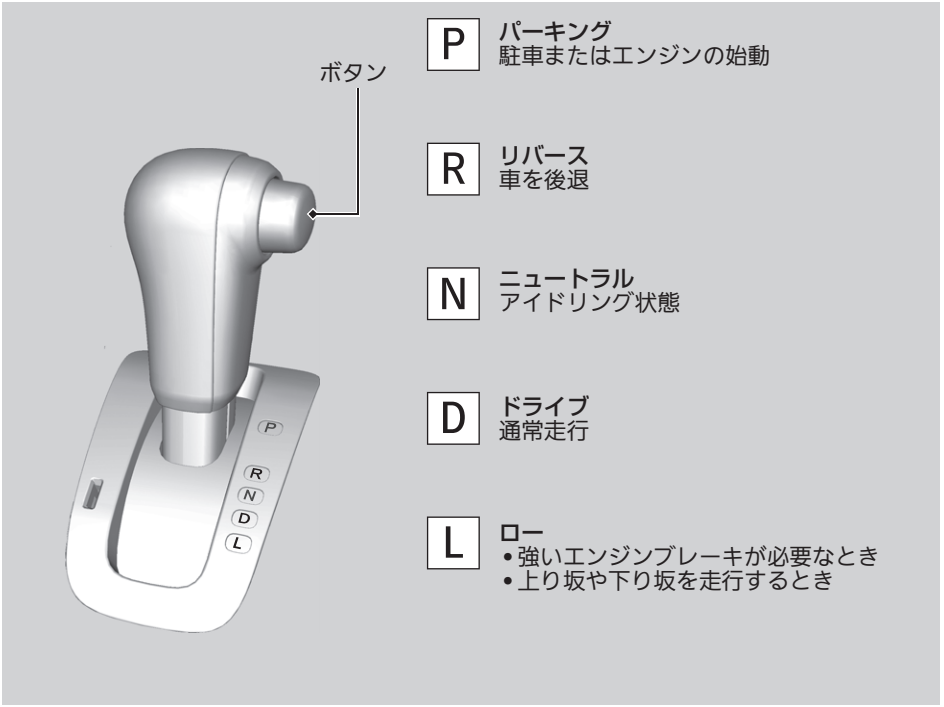
上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

無段変速オートマチック車

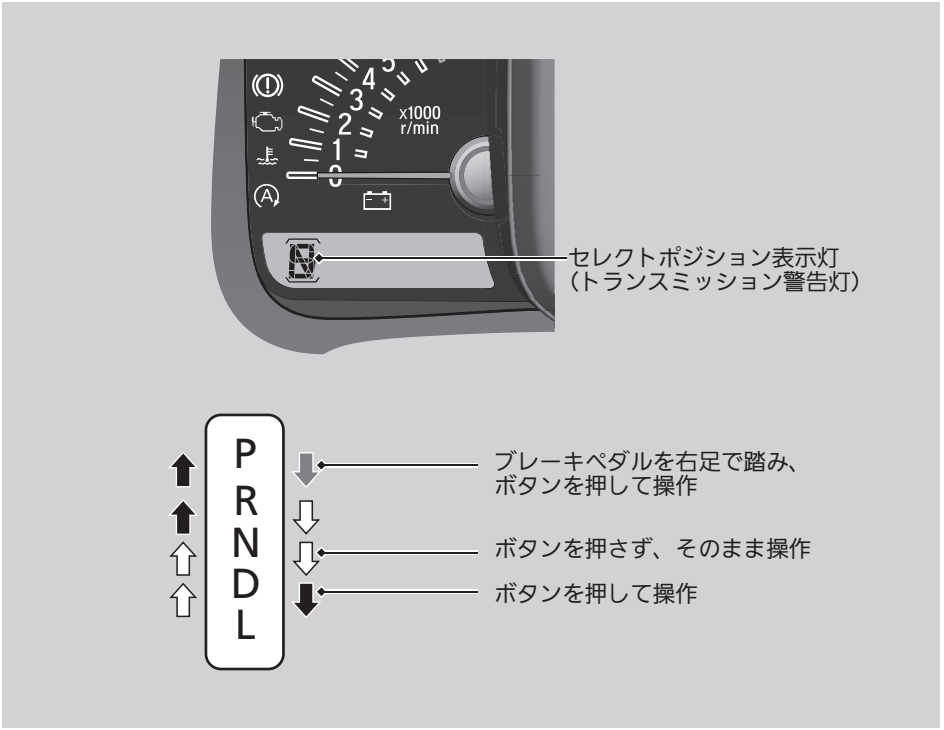
シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。



R のときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。

■ セレクトレバーの操作



アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

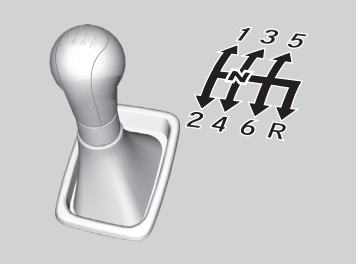
車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

マニュアル車

シフト操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。



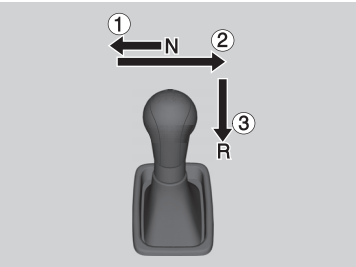
アドバイス

車が完全に止まらないうちは R に入れないでください

トランスミッション破損の原因となります。

■ R に入らないとき

一度 N（ニュートラル）へ戻し、1、2 側へ倒してから R に入れても入らない場合は下記の操作をしてください。



Honda スマートキーシステム装備車

1. パーキングブレーキをかけてパワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにする。

Honda スマートキーシステム非装備車

1. パーキングブレーキをかけてエンジンスイッチを I または 0 にする。

共通操作

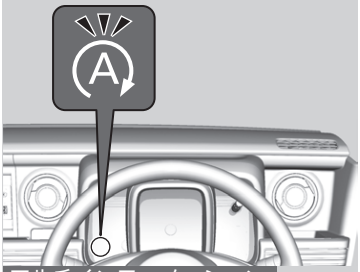
2. クラッチペダルを踏み込んで、チェンジレバーを R にする。
3. クラッチペダルを踏み込んだまま、エンジンを始動する。

この操作を毎回しないと R に入らない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

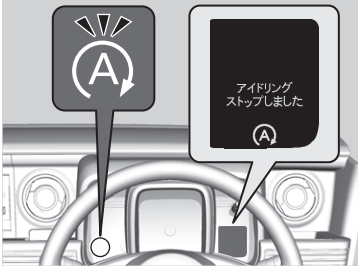
アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯(グリーン)が点灯します。

インフォメーションディスプレイ装備車



マルチインフォメーションディスプレイ装備車

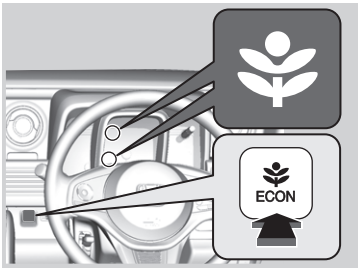


表示灯(グリーン)が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

アイドリングストップシステム装備車に適合した専用バッテリーを使用しています。
専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。
交換時は専用バッテリーを使用してください。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

➡ **仕様** P.272

■ アイドリングストップシステムの ON/OFF



アイドリングストップシステムの作動を停止するには、ECON スイッチを押してください。
ECON 表示灯が消灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

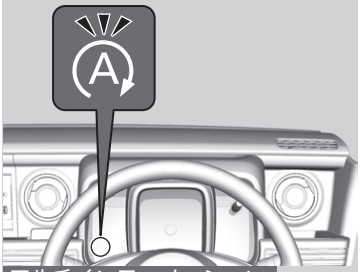
アイドリングストップ中に ECON スイッチを押すと、エンジンが再始動します。

➲ アイドリングストップに関する条件については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

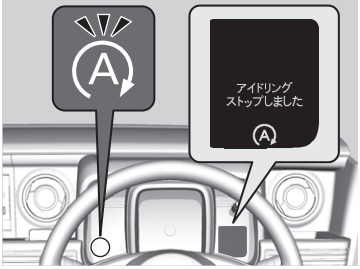
アイドリングストップシステム(マニュアル車)

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯(グリーン)が点灯します。

インフォメーションディスプレイ装備車



マルチインフォメーションディスプレイ装備車

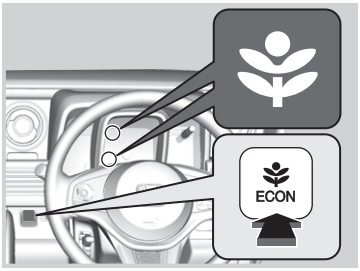


表示灯(グリーン)が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

アイドリングストップシステム装備車に適合した専用バッテリーを使用しています。
専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。
交換時は専用バッテリーを使用してください。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

➡ **仕様** P.272

■ アイドリングストップシステムの ON/OFF

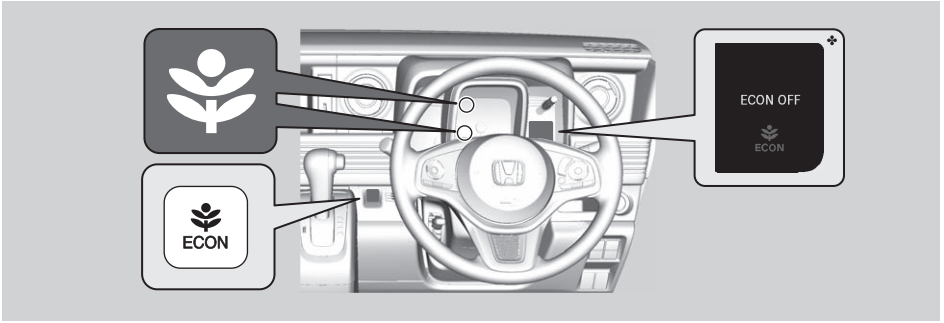


アイドリングストップシステムの作動を停止するには、ECON スイッチを押してください。
ECON 表示灯が消灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

アイドリングストップ中に ECON スイッチを押すと、エンジンが再始動します。

➲ アイドリングストップに関する条件については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

ECON スイッチ



エンジンスイッチを II ※1 にしたときは、常に ECON モードが ON になり、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

マニュアル車

オートエアコンの作動を制御して、省エネ運転をしやすくするように制御します。

無段変速オートマチック車

エンジン、トランスミッション、オートエアコンの作動を制御して、省エネ運転をしやすくするように制御します。

➡ アイドリングストップに関する条件については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ ABS(アンチロックブレーキシステム)機能

➔ P.203

■ TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■ 横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P. 204

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、エンジンスイッチを[II]※1 にしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

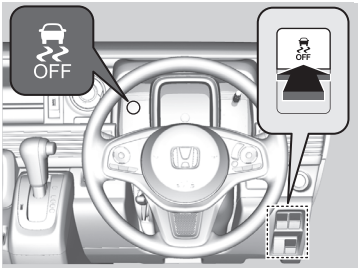
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに [ENGINE START/STOP] が適用されています。

■ VSA の作動と警告灯

TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、OFFを「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

4WD(四輪駆動機構)*

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

4WD の状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のため 4WD から 2WD に切り換わることがあります。
しばらくして油温が下がると、4WD に復帰します。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ホンダセンシング✤

⚠警告

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

無段変速オートマチック車

フロントロアグリルの奥に設置されたレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置されたフロントセンサーカメラと、リヤバンパーに設置されたソナーセンサーの、特性の異なる 3 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

マニュアル車

フロントロアグリルの奥に設置されたレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置されたフロントセンサーカメラの、特性の異なる 2 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS）
  ➔ P.152
- 誤発進抑制機能✤
  ➔ P.158
- 後方誤発進抑制機能✤
  ➔ P.160
- 歩行者事故低減ステアリング
  ➔ P.162
- 路外逸脱抑制機能
  ➔ P.186
- 先行車発進お知らせ機能
  ➔ P.190
- 標識認識機能
  ➔ P.193
- オートハイビーム✤
  ➔ P. 92

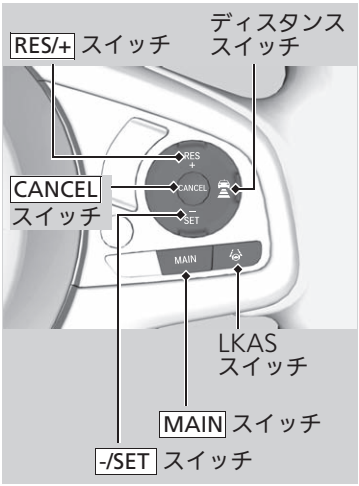
■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- ACC（アダプティブクルーズコントロール）✤
  ➔ P.167
- LKAS（車線維持支援システム）✤
  ➔ P.179

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ



■MAIN スイッチ
ACC、LKAS の待機状態の設定を行ないます。

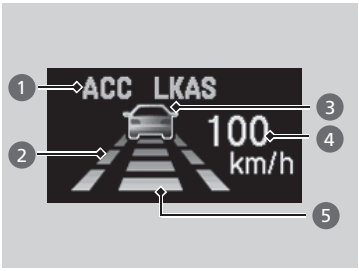
■LKAS スイッチ
LKAS の ON と OFF の設定を行ないます。

■RES/+ スイッチ / -/SET スイッチ
ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行ないます。

■ディスタンススイッチ
車間距離の設定を行ないます。

■CANCEL スイッチ
ACC の解除を行ないます。

■マルチインフォメーションディスプレイの表示



ACC、LKAS の現在の状態を表示します。

❶ ACC、LKAS の待機状態

❷ LKAS の ON と OFF の状態と制御状態

❸ 前走車の検知状態

❹ 設定車速

❺ 設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

マニュアル車

システム作動により停車したときは、エンジンが停止することがあります。
エンジンが停止したときは、通常操作でエンジンを再始動してください。

➔ **エンジンの始動** P. 131, 134

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P. 198

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

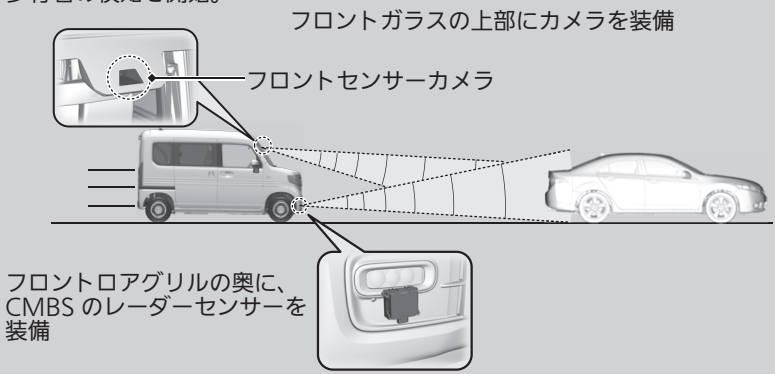
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントロアグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

■ システムの作動

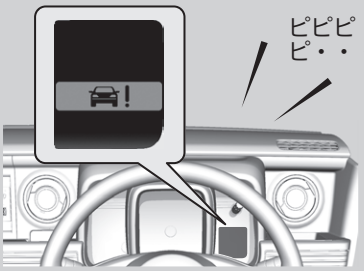
自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車、停止車両および歩行者に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

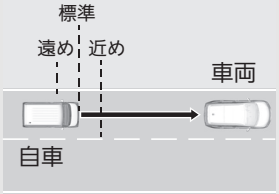
■ CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーが発生します



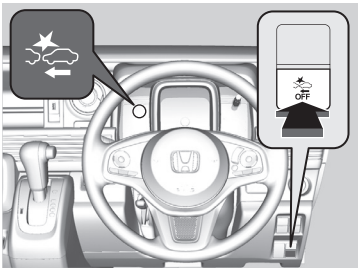
■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第1段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が2回点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶衝突警報距離を変更することができます。	—
第2段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第3段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※: CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFFスイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードをONにすると自動的に ON になります。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■ 自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントロアグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトを OFF で走行しているとき

■ 環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで照明が暗く、車両・歩行者の全体が照らされていないとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■ 前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

■ その他、作動できない事例

- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

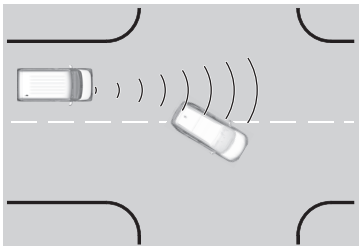
サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

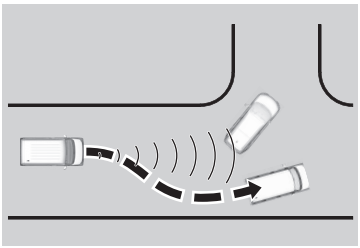
タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■ 衝突の可能性のない場合の作動について

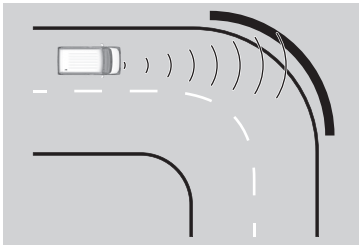
衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

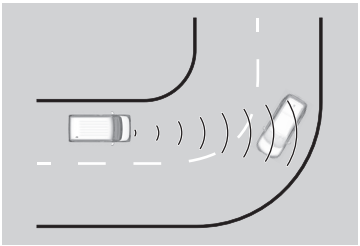
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合





- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき





- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

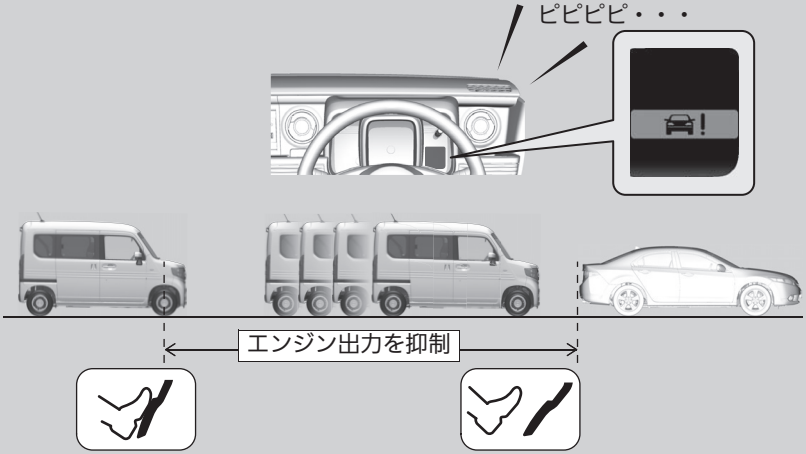
誤発進抑制機能✤

フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約10km/h以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

なお、急な坂道やセレクトレバーが、P、R、Nのときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー(ピピピ)がなり、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅します。



アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急な発進を防止
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。

アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

⚠警告

誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がセレクトレバーやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー**P. 198

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。その時は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

■ 作動解除の条件

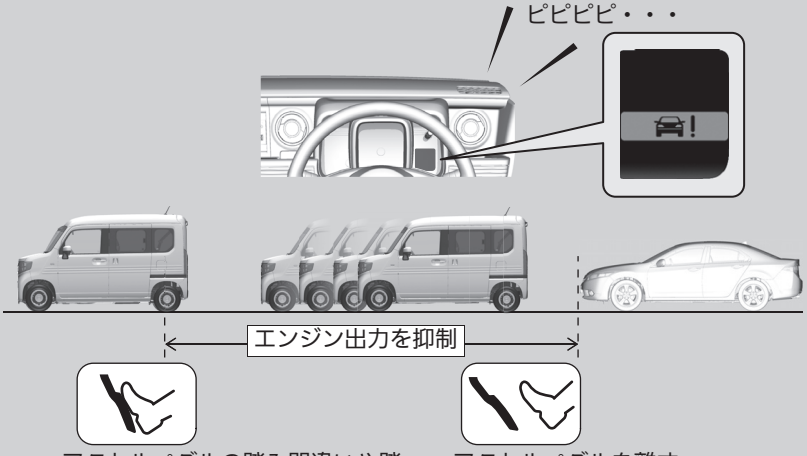
- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき
- CMBS を OFF にしたとき

後方誤発進抑制機能*

リヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、停車時や約 10km/h 以下で後退しているとき、自車のほぼ真後ろの近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合、エンジン出力を抑制し、急な後退を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。
なお、急な坂道やセレクトレバーがR以外のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー(ピピピ)が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅します。



アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急な後退を防止
アクセルペダルの踏み込み量が少ないときは作動しません。

アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

⚠警告

後方誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。
後方誤発進抑制機能は停止状態を保つことができるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がセレクトレバーやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ソナーセンサーの取扱いについては下記を参照してください。
➔ ソナーセンサー* P. 199

後方誤発進抑制機能は CMBS を OFF にしているときは作動しません。また CMBS に異常があるときも同様に作動しません。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

後方誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。
作動中は後退を知らせるチャイム音は鳴りません。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■ 作動解除の条件
- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき

次のような場合、ソナーセンサーが障害物を検知できず、後方誤発進抑制機能が正常に作動しない場合があります。

■ 自車の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例
- ソナーセンサーが汚れているとき（雪、氷、泥などで覆われているとき）
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■ 環境によりソナーセンサーが正しく検知できない事例
- 悪天候のとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 近くに超音波を発するものがあるとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■後方の障害物の状態によりソナーセンサーが正しく検知できない事例

- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 障害物がバンパーのすぐ近くにあるとき
- 進路上に障害物が飛び出してきた場合など移動する物体のとき

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー**P. 198

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

■ システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します



路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。車両と歩行者の位置関係によってはCMBS の作動が優先される場合があります。

■ システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

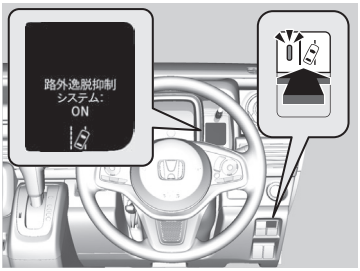
- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

■ システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

► ONのときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

■ 歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■ 環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- カーゴスペースや、リヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

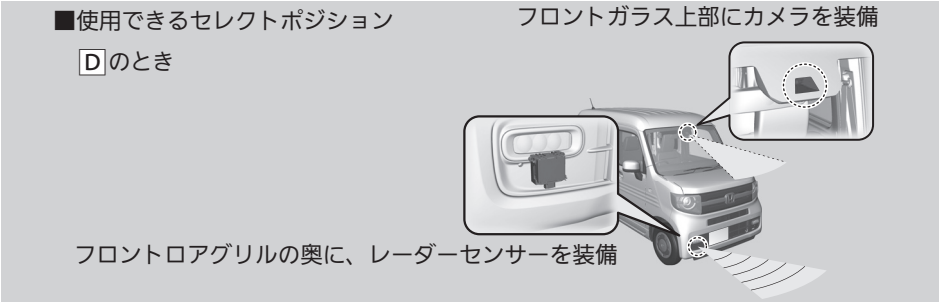
- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

ACC(アダプティブクルーズコントロール)✤

ACC は、フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。
ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

ACC を作動させるには:

ACC システムは、セレクトレバーが D のときに使用することができます。



ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

⚠警告

ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

⚠警告

ACCは、補助システムとして使用してください。ACCは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

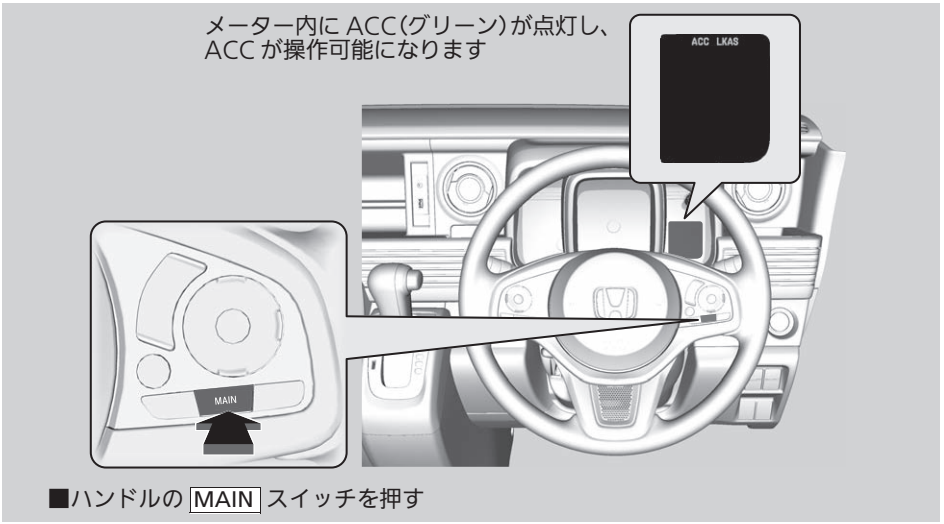
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー**P. 198

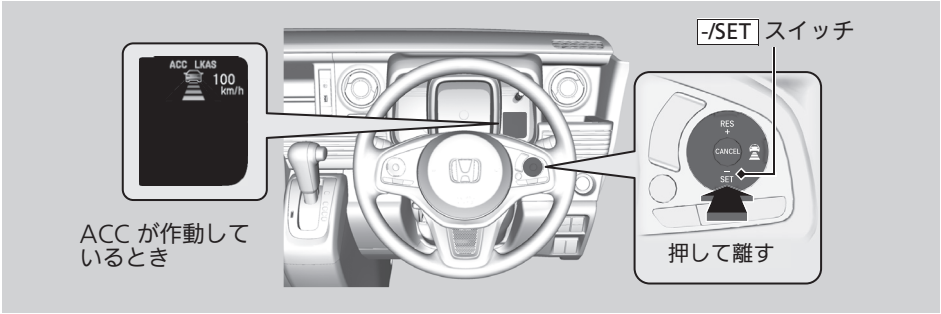
使用上の注意:
ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

■ システムを作動させるには



■ハンドルの MAIN スイッチを押す

■ 車速をセットするには



車速が30km/h以上でブレーキペダルを操作していないときに -/SET スイッチを押して離すと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。



MAIN スイッチを押すと、ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候（雨、霧、雪など）のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■ ACC の作動

■ 先行車がいるとき

ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



ACC の検知範囲：120m



マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

■ 先行車がいないとき



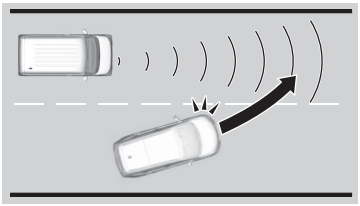
マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が点線で表示されます。

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速したあと定速走行します。

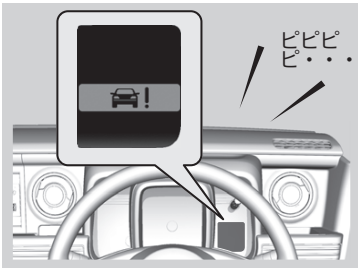
■ アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

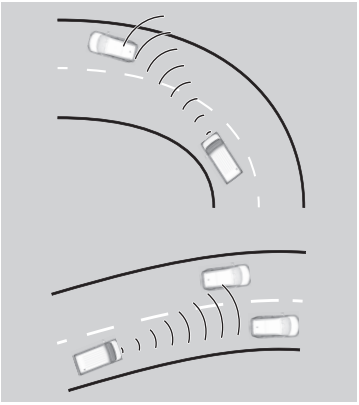
制限:

安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより ACC が適切に作動しないことがあります。

➡ **ACC の条件と制限** P. 172

➡ **車間距離を設定するには** P. 176

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、ACC 警告灯が点灯する場合があります。以下の条件では ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

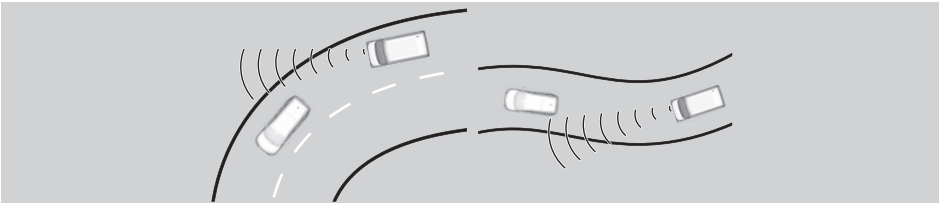
➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

■ 環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

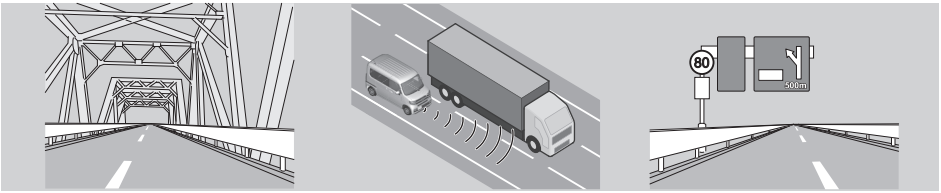
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき



■ 自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

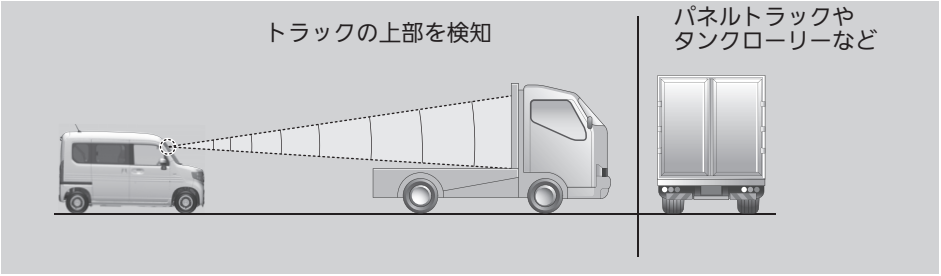
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■ 前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

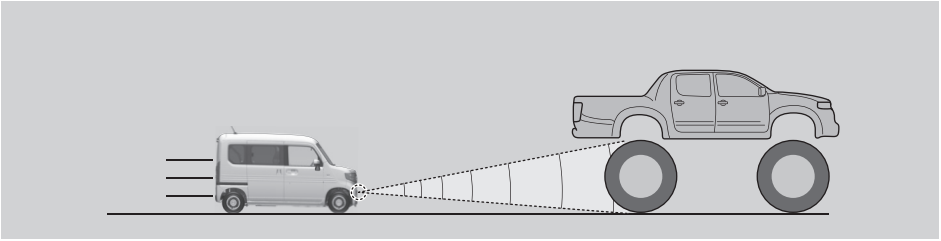
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■ その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき

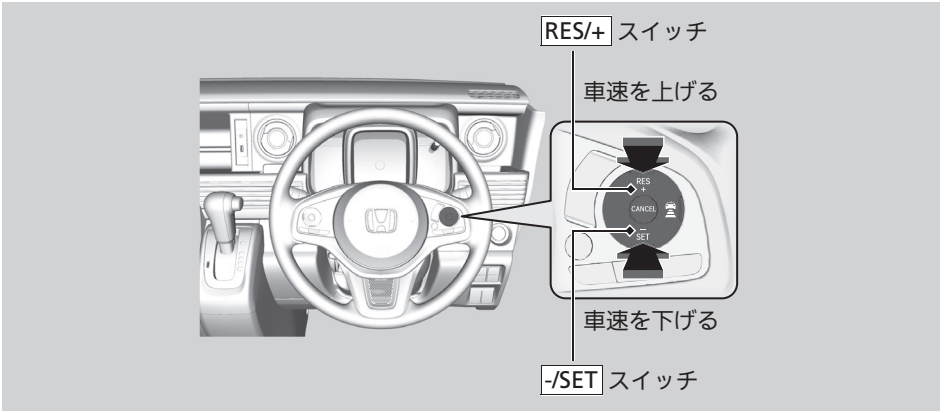


- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



■ 設定車速を調整するには

手元の RES/+ スイッチと -/SET スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

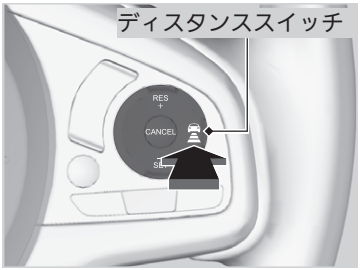
-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

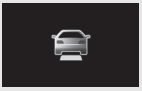
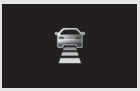
アクセルペダルを踏み、-/SET スイッチを押すと、現在の車速が設定車速になります。

■ 車間距離を設定するには

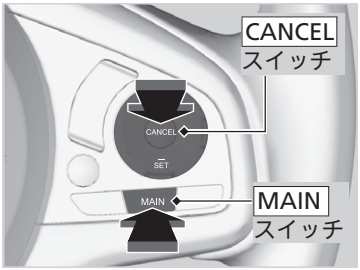


ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 65m	約 83m

■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

■ ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC Off」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 悪天候(雨、霧、雪など)のとき
- フロントロアグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- エンジンスイッチを 0 [※1] にしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズキャンセルしました : 一時的に使用できません」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 加減速を多く繰り返したとき
- 長い下り坂を走行したとき
- 重い荷物を積んで走行したとき

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

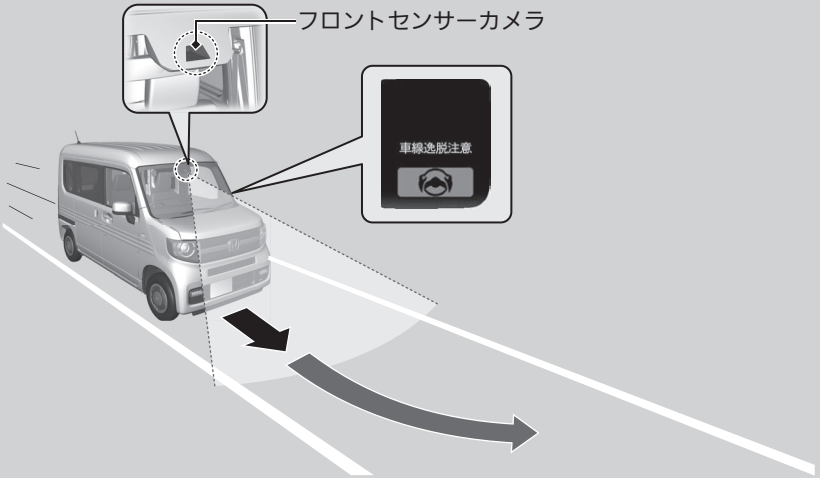
解除前の設定車速を復帰させるには：
ACCを解除したあとでも、RES/+スイッチを押すと解除前の設定で作動を開始することができます。
ただし、以下の場合は復帰しません。
- MAINスイッチを押してACCをOFFした後
- 30km/h未満のとき

設定速度の設定や復帰は、MAINスイッチがオフの状態ではできません。

LKAS(車線維持支援システム)*

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

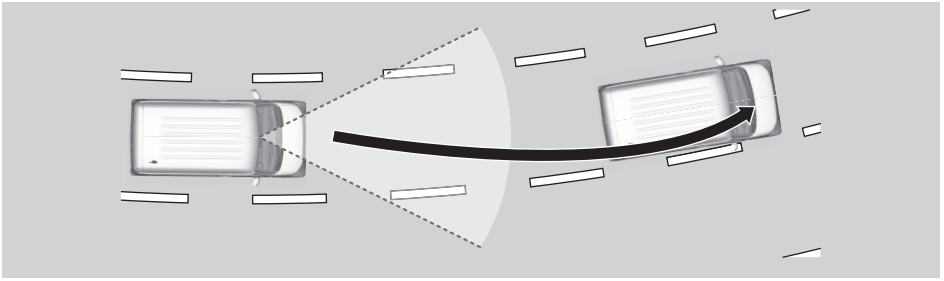
■ システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。ウィンカーを出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

■ 車線維持支援機能

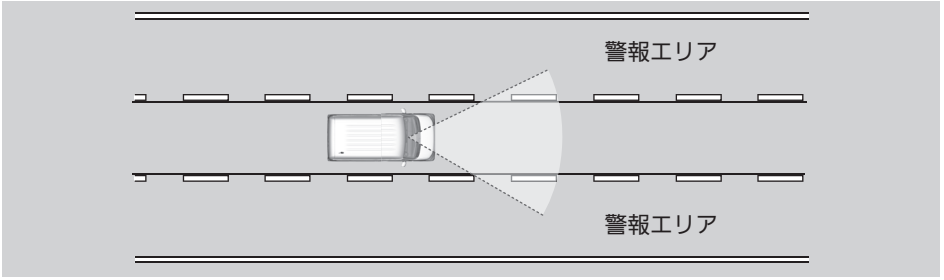
車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音とディスプレイ表示で行います。



⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

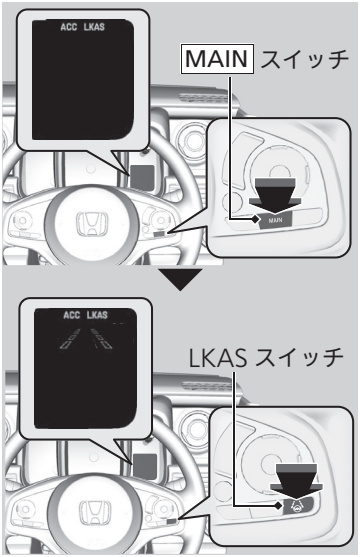
車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

■ システムの作動方法



1. MAIN スイッチを押す
   ▶ LKAS システムが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイ内に LKAS 表示灯（グリーン）が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す
   ▶ LKAS システムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（点線）が点灯します。

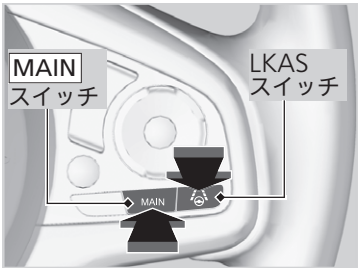


3. 車線の中央付近を走行する
   ▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、LKAS が制御を開始します。

システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。
- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時に LKAS が ON 状態でも、エンジンスイッチを 0 [※1] にする度に LKAS は OFF になります。

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に ACC も解除されます。



■ LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。
- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
  ▶ 車速が 60km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

■LKAS が自動的に一時解除されるとき
- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき
次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。
- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

■LKAS の条件と制限
以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例
- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

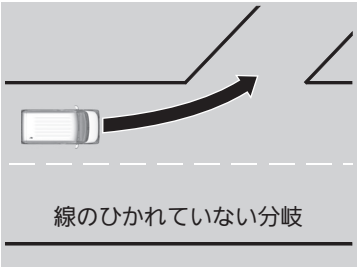
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき



- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

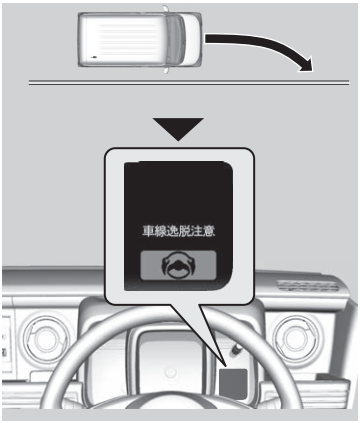
➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS（車線維持支援システム）を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。



■ システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイによる警告とブザーによる警報をおこなうことで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

無段変速オートマチック車

また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。



システムの支援中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
支援中に運転者が操作しなかった場合は左記の警告を表示します。

繰り返し左記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り支援を中断します。

■ システムの作動条件

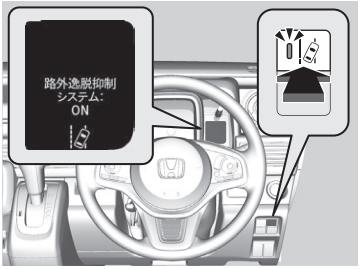
路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■ システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

▶ システムが ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御✤ を行いません。

■ 路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■ 環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

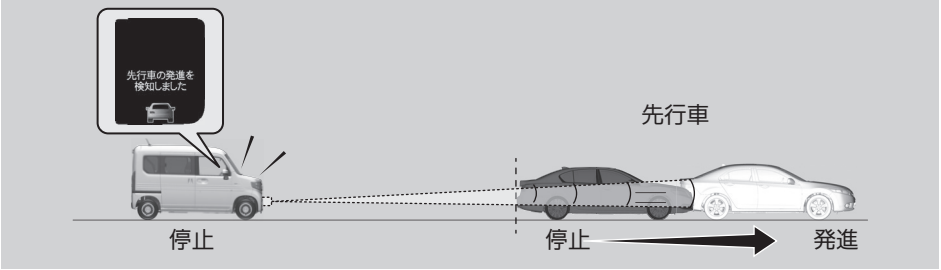
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- カメラ温度が高温のとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P. 198

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P. 197

■ システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

無段変速オートマチック車

■セレクトレバーがD、Lの場合

ブレーキペダルを踏んでいる。

無段変速オートマチック車

■ セレクトレバーがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動している。

マニュアル車

■チェンジレバーがR以外の場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動している。

■ システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■ 自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■ 環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■ 先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■ その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P. 197

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



■ 作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止:速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止:自車の速度が約 60km/h 以下のとき

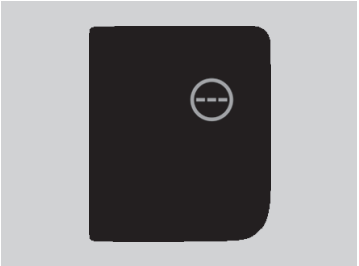
以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



■ 標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識(終了を示す補助標識など)

■ その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終りなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

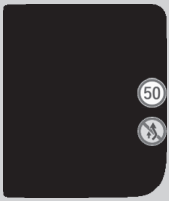
■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例



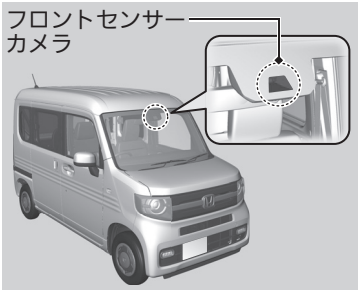
常駐表示モードのときの表示例



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

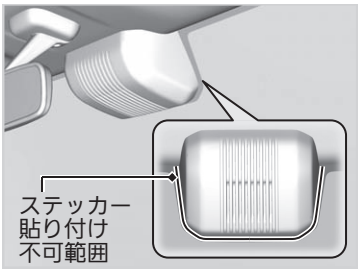
車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約 5 秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

フロントセンサーカメラ



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。フロントガラスの修理や交換をする場合は Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

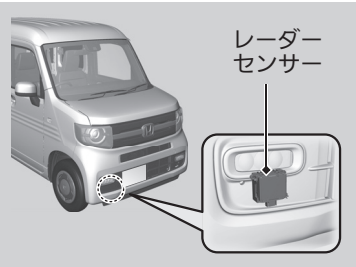
インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線等を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターを使用してください。

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントロアグリルの奥に設置されています。

フロントロアグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントロアグリルは常にきれいにしておく
- フロントロアグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントロアグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントロアグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントロアグリル周辺の修理を行うとき

以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

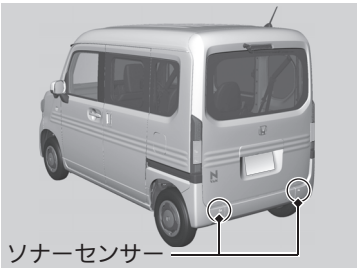
- フロントロアグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

エンジンスイッチを II※1 にするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにエンジンスイッチを II※1 にすると、各機能が作動しない場合があります。

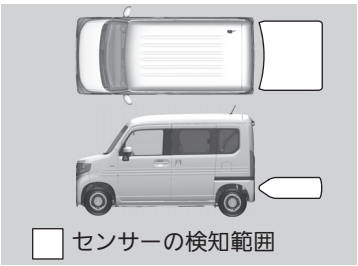
※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

ソナーセンサー✤

■ センサーの取り付け位置と検知範囲



ソナーセンサーはリヤバンパーに設置されています。



ソナーセンサーの取り扱いについて
- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。
- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。
- リヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

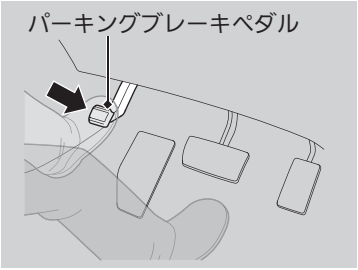
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ブレーキシステム

■ パーキングブレーキ

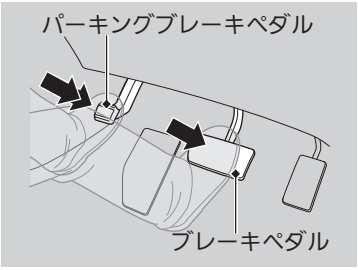
無段変速オートマチック車

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



■ パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込む。

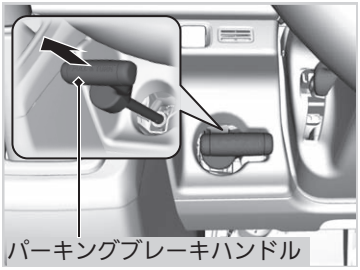


■ パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

マニュアル車

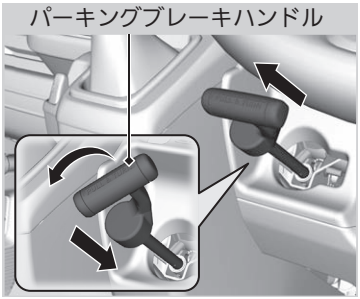
主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキハンドルにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキハンドルをいっぱいに引く。

▶パーキングブレーキハンドルを引くときは、パーキングブレーキハンドルを水平状態にして引いてください。



■パーキングブレーキを解除する

1. ブレーキペダルを踏む。
2. パーキングブレーキハンドルを手前に引きながら左に止まるまで回し、そのまま前方へ戻す。

▶ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

マニュアル車

パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキハンドルは空回りするようになっています。解除するときは手前に引きながら操作してください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

マニュアル車

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

無段変速オートマチック車

無段変速オートマチック車は[L]にして、エンジンブレーキを使用してください。

エンジン始動直後や標高が高いときなど特定の条件下でブレーキを踏んだとき、ブレーキの効きを補うハイドロリックブレーキブーストが装備されています。
この機能が作動するとブレーキペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえる場合があります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。
ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

電子制御ブレーキアシスト

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA（ビークルスタビリティアシスト） P. 147

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

駐停車操作

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。

無段変速オートマチック車

3. シフトポジションを[P]に入れる。

マニュアル車

3. チェンジレバーを[R]または[1]に入れる。

共通操作

4. エンジンを停止する。
   ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

無段変速オートマチック車

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

無段変速オートマチック車

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂でP N以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

無段変速オートマチック車

⚠注意

駐車時はエンジンを止める。

万一、セレクトレバーがP N以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

無段変速オートマチック車

アドバイス

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。

輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

給油

■ 指定燃料

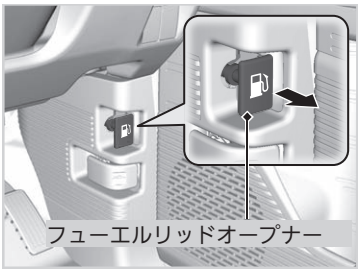
無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

アドバイス

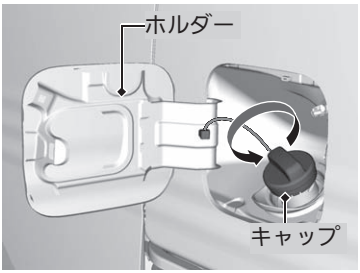
指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

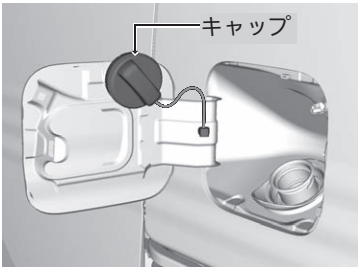
給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元のフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



5. キャップをホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
   ▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
7. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。
   ▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

ターボ車* について

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- **エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない**

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■ 点検整備の種類

■ 日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■ 定期点検
12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■ その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。
メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

■ メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

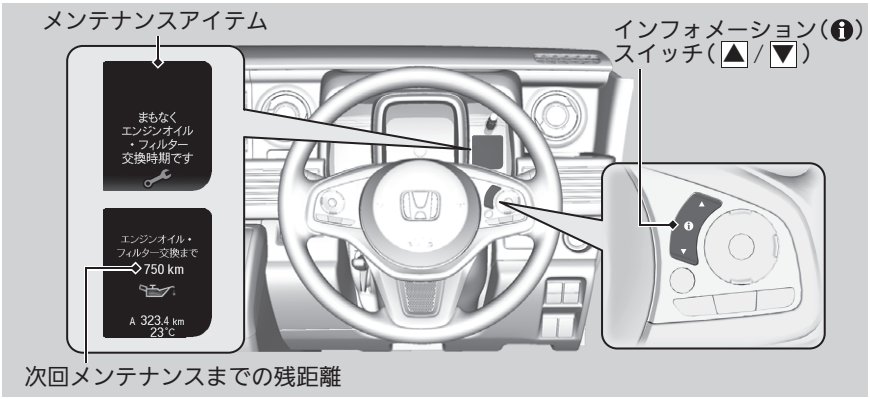
■ 車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。
  ▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

オイルメンテナンス表示*

オイルメンテナンス表示は、リセットしてからの距離に応じてエンジンオイル、エンジンオイルフィルターの交換時期の目安をマルチインフォメーションディスプレイにてお知らせします。
メンテナンスが必要な場合は、表示されたメッセージと距離を目安に、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルメンテナンス情報の表示



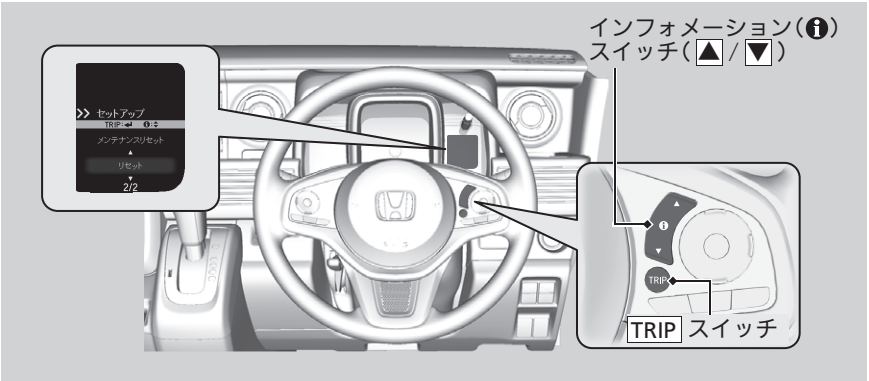
1. パワーモードを ON モードにする。
2. マルチインフォメーションディスプレイにオイルメンテナンス画面が表示されるまで、インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押す。

残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換から 6 か月が経過していたら、メンテナンスを実施してください。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルメンテナンスの表示をリセットします。



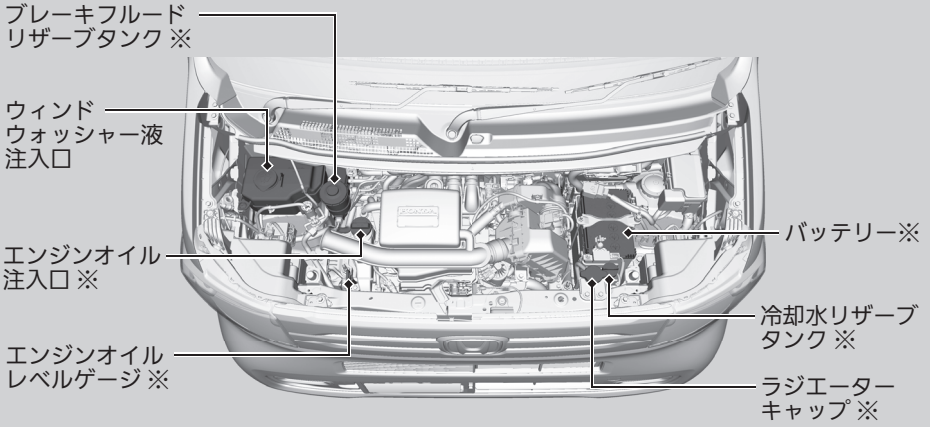
1. パワーモードを ON モードにする。
2. カスタマイズ機能の中からメンテナンスリセットを選択する。
3. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押してリセットを選択する。
4. リセットが選択された状態で TRIP スイッチを押すと、リセットされます。
5. マルチインフォメーションディスプレイにメンテナンスリセットが完了した文章が表示される。

アドバイス

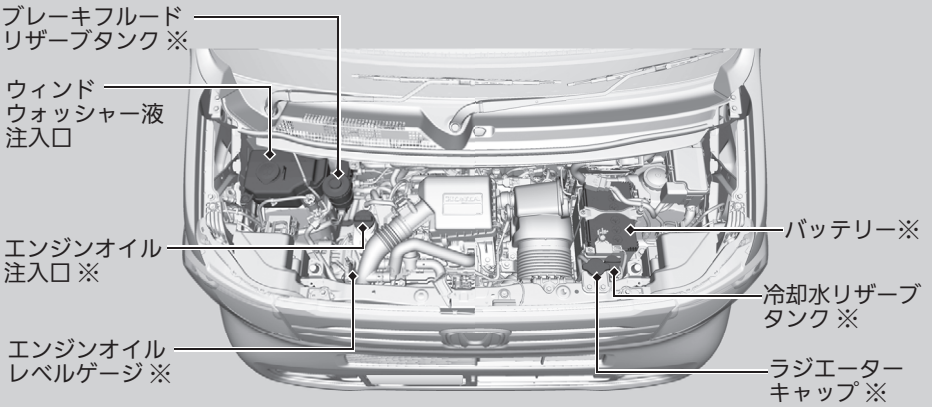
メンテナンス後にオイルメンテナンスをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

エンジンルーム内のメンテナンス項目

ターボ非装備車

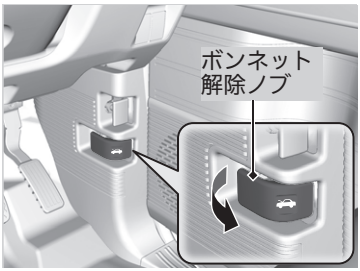


ターボ装備車

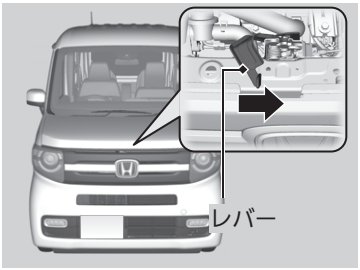


※: 点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

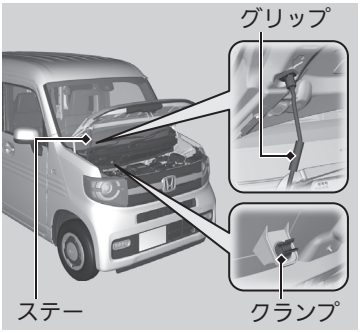
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
   ▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約 30cm の高さから手を離します。

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

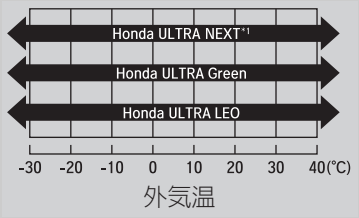
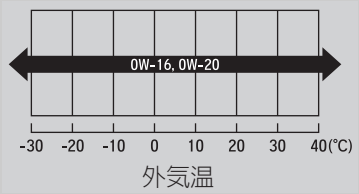
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

推奨エンジンオイル

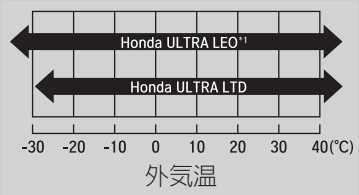
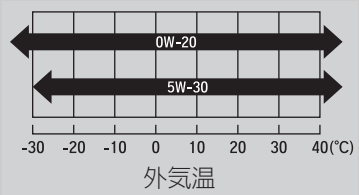
純正および市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

ターボ非装備車

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA NEXT*1 • Honda ULTRA Green • Honda ULTRA LEO	API SM 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイル
	

ターボ装備車

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO*1 • Honda ULTRA LTD	API SM 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイル
	

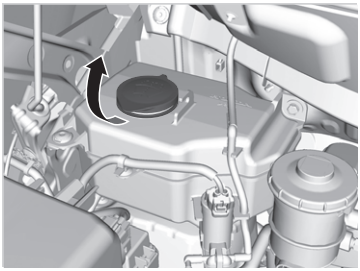
*1：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

API CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークは下記のとおりです。



ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

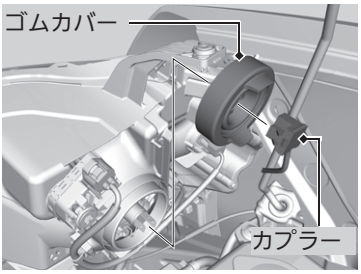
電球の交換

ヘッドライト電球

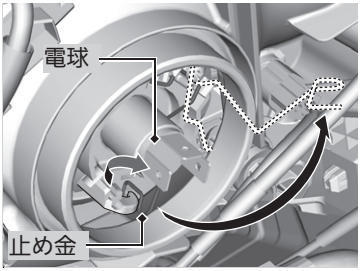
■ ハロゲンヘッドライト*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイ / ロービームハロゲンヘッドライト:12V−60/55W

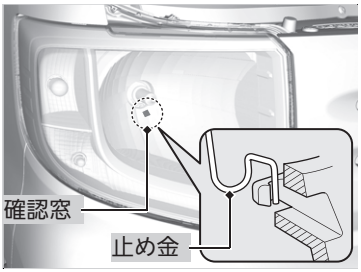


1. カプラーを抜き取る。
2. ゴムカバーを取り外す。



3. 止め金を外し、古い電球を取り外す。
4. 新しい電球を取り付ける。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



5. 止め金を元に戻し、ゴムカバーを取り付ける。
   ▶ 止め金の状態は、ヘッドライトの確認窓より確認できます。
6. カプラーを取り付ける。

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

■ LED ヘッドライト*

電球の点検、交換は、必ず Honda 販売店に依頼してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

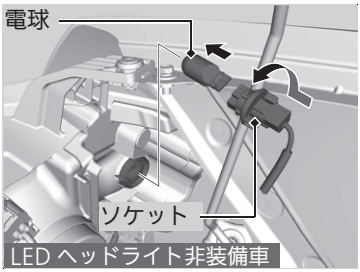
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

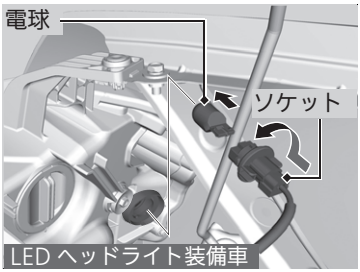
LED ヘッドライト非装備車

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V−21W（橙色）

LED ヘッドライト装備車

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V−21W



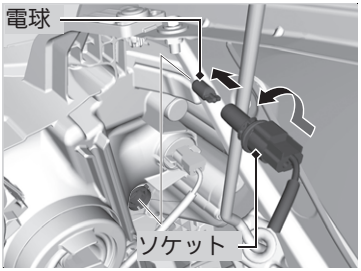


1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯:12V−5W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

アクセサリーライト / 車幅灯電球*

アクセサリーライト / 車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

フォグライト電球*

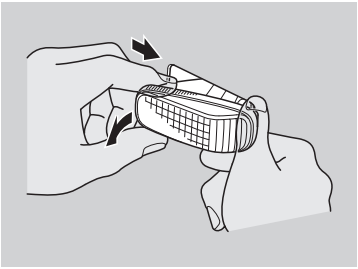
フォグライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

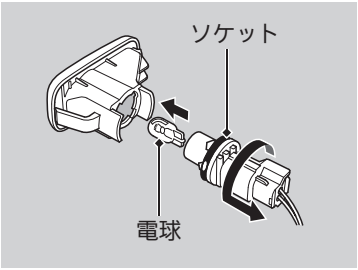
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

Honda スマートキーシステム非装備車
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯：12V−5W
Honda スマートキーシステム装備車
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯：12V−5W（橙色）



1. ランプ本体を後方にずらして取り外す。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

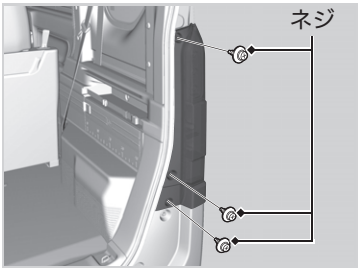
制動灯 / 尾灯電球

制動灯/尾灯はLED を使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

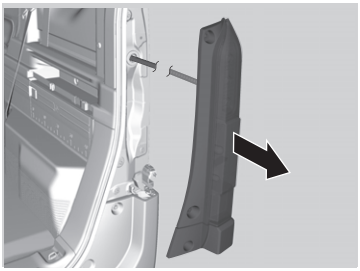
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

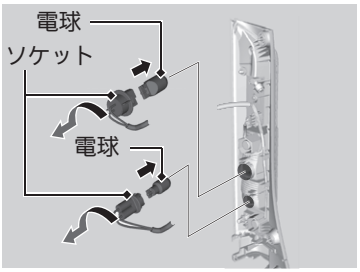
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	:12V−21W(橙色)
後退灯	:12V−16W



1. ネジを外す。



2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

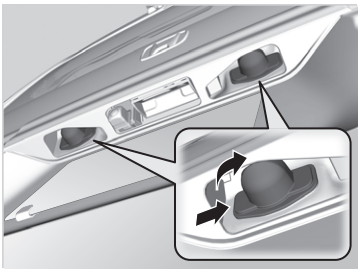
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

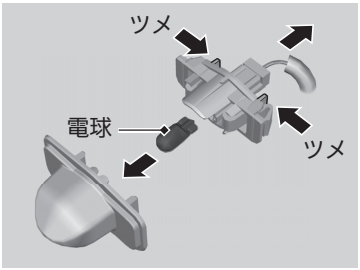
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯:12V−5W



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。



2. ツメを押してカバーを外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

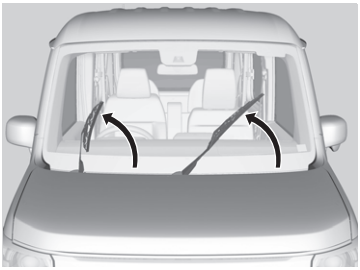
➡ **その他の電球については右のQRコードから詳細取扱説明書(HTML版)を参照してください。**

ワイパーブレードラバーの点検と整備

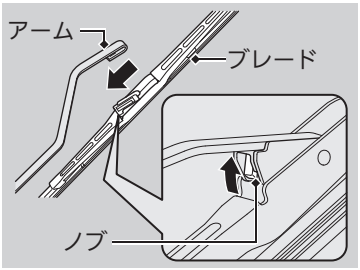
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

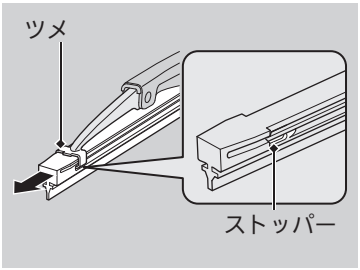
フロントワイパーブレードラバーの交換



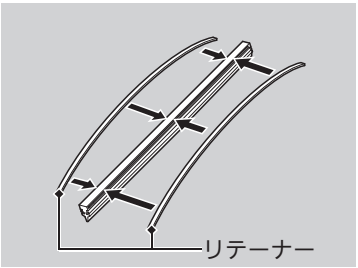
1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
   ▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。
5. ラバーをブレードの端から差し込む。
   ▶ 正しく固定されているか確認してください。
6. ブレードをワイパーアームに取り付ける。
7. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

タイヤの点検と整備

タイヤの点検

■ タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■ 日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■ 空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➡ **仕様** P. 272

■ 損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤの残溝の深さが 2.4mm 未満のときは、80km/h 以上の高速走行をしないでください。

標準タイヤの仕様

サイズ	空気圧
145/80R12 80/78N LT	前輪：280kPa(2.8kgf/cm^2) 後輪：350kPa(3.5kgf/cm^2)

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての４つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

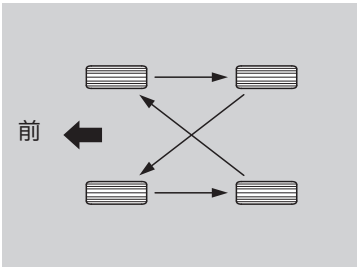
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

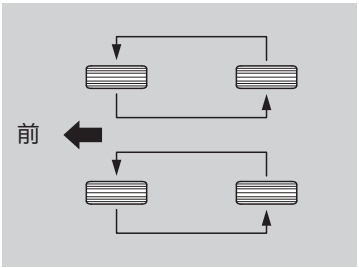
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■ 回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■ 回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

締め付けトルク
108 N・m(11 kgf・m)

アドバイス

前輪と後輪でタイヤの空気圧が異なるので、位置交換後は必ず空気圧調整をしてください。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤの場合:
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合:
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

➡ キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキーの取り扱いと電池交換については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

清掃

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

スライドドアの内側にある端子には、ケミカル類等を付着させないでください。
故障の原因になります。

■ ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。
ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

■ 親水ミラー* のお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。
- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

アクセサリーと改造

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。
Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

7 万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➡ **発炎筒** P. 6

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたとき

パンクしたタイヤの交換

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、応急用スペアタイヤに交換します。パンクしたタイヤの点検や交換は、Honda 販売店に依頼してください。

■ 走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。(無段変速オートマチック車)
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、エンジンスイッチを 0※1 にする。

⚠注意

タイヤを交換するときはエンジンを切る。
エンジンをかけたままにすると排気管でやけどを負うおそれがあります。

スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

応急用スペアタイヤの空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
指定空気圧:420kPa(4.2kgf/cm²)

応急用スペアタイヤを装着したときは、80km/h 以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

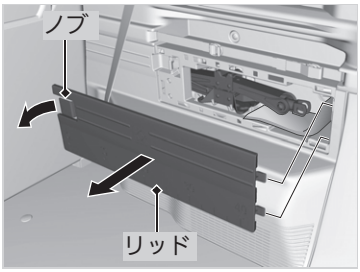
同時に複数の応急用スペアタイヤを装着して運転をしないでください。

応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。
他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。

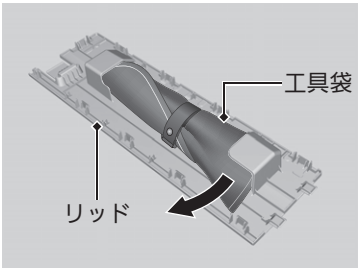
※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪を前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

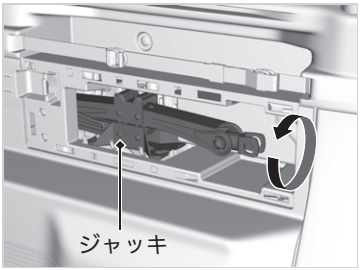
■ タイヤ交換の準備



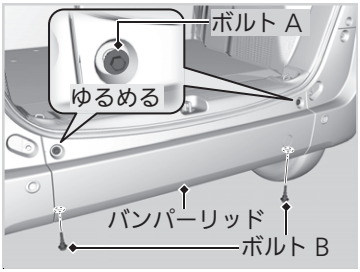
1. ノブを引いて、リッドを外す。



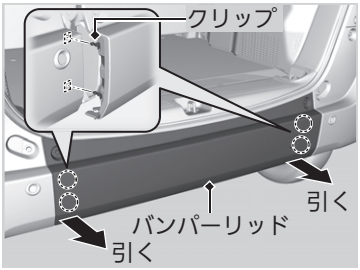
2. 工具袋を取り出す。
   ▶ 工具袋は、リッドの裏側にあります。



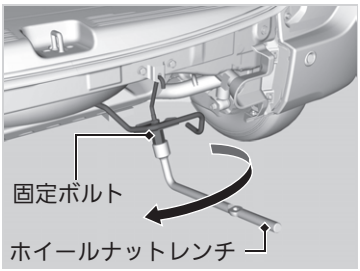
3. ジャッキをゆるめて外す。



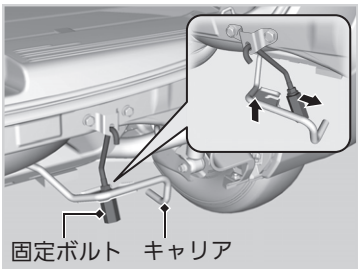
4. ボックスレンチとレンチシャフトを使って上側のボルト A をゆるめ、下側のボルト B を外す。
   ▶誤って他のボルトを外さないようにしてください。
   ▶ボルト A は、ゆるめることは出来ますが、バンパーリッドからは外れません。



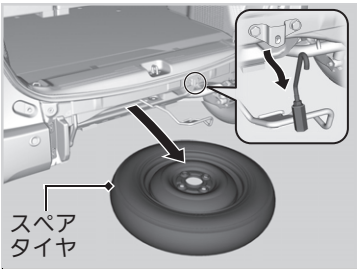
5. バンパーリッドの下側を持ち、手前に引いて外す。



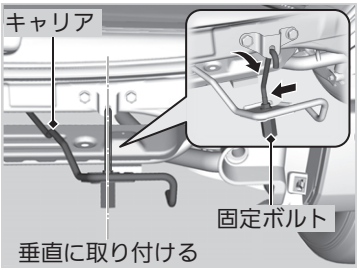
6. ホイールナットレンチを使用して、固定ボルトをゆるめる。



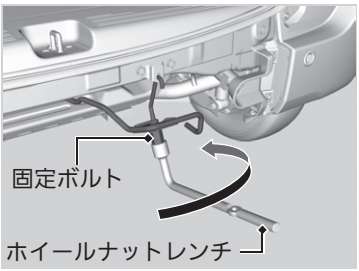
7. キャリアを持ち上げながら、固定ボルトを右にずらしキャリアから外す。



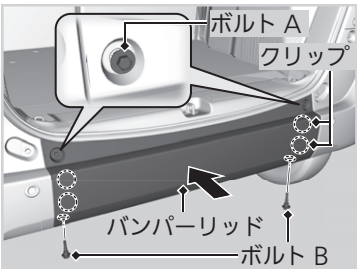
8. 固定ボルトを車体から外し、スペアタイヤを引き出す。



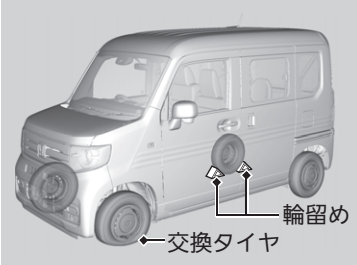
9. 固定ボルトを車体に引っかけてから固定ボルトをキャリアにかける。
   ▶ 固定ボルトをキャリアにかけたときに、固定ボルトが地面に対して垂直になるようにしてください。



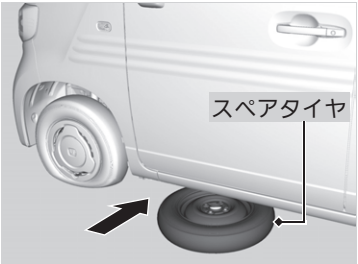
10.ホイールナットレンチで、ゆるみ、ガタがないように固定ボルトを十分に締め付ける。



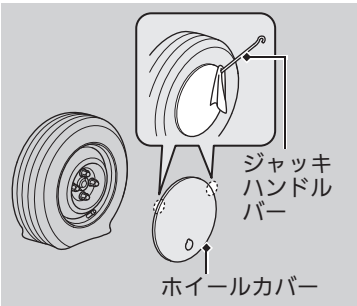
11.バンパーリッドを戻し、ボックスレンチとレンチシャフトを使ってボルト A とボルト B を締め付ける。
   ▶ ボルト A とボルト B を締め付ける前にバンパーリッドのクリップがしっかりはまっていることを確認してください。



12.交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。



13.応急用スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に、ホイール表面を上にして置く。

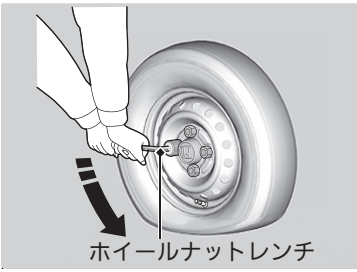


ホイールカバー装備車

14.ジャッキハンドルバーの先を切り欠き溝に 5 ～ 6cm 差し込み、タイヤ側をこじってホイールカバーを外す。

▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーに布などを巻き付けてください。

▶ 場所を変えて 2 カ所繰り返すと外れやすくなります。



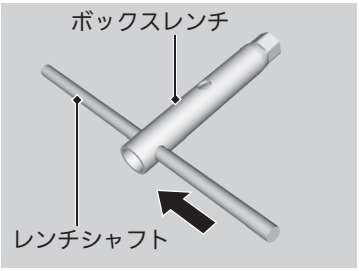
共通

15.ホイールナットをホイールナットレンチで約 1 回転ゆるめる。

⚠注意

取り外しや収納するときに手などをはさまないように注意する。

固定ボルトをゆるめすぎない。
キャリアが落下して足などにけがをするおそれがあります。



ボックスレンチとレンチシャフトを図のように組み合わせて使用してください。

外したボルトは、バンパーリッドを取り付ける際に必要ですので、なくさないように保管してください。

パンクしたタイヤは、キャリアに収納できません。付属のパンクタイヤ収納袋に入れて、固定ベルトでカーゴフロアのフックに固定してください。

➡ **パンクしたタイヤの収納** P. 247

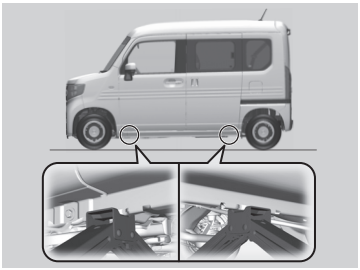
⚠注意

取り付けた後は、確実に固定されていることを確認する。
ゆるみ等により取り付けが不安定な場合、走行中に外れて思わぬ事故の原因となります。

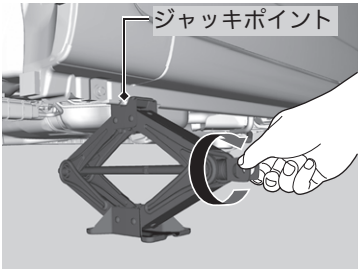
⚠注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

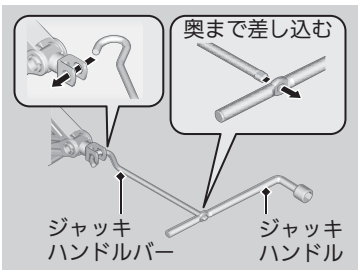
■ ジャッキのかけかた



1. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。



2. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
   ▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



3. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

⚠警告

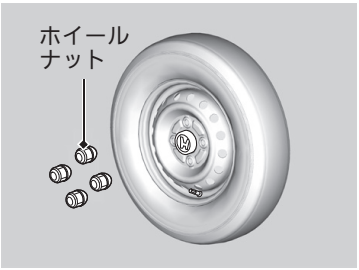
車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

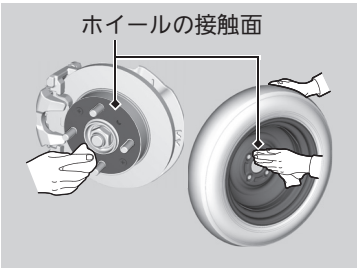
ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

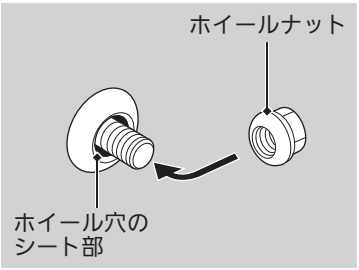
■ タイヤの交換



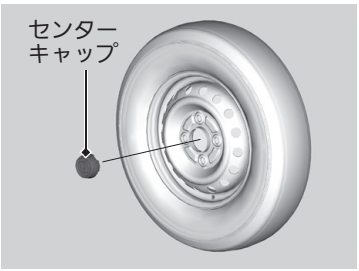
1. ホイールナットを外し、タイヤを外す。



2. ホイールの接触面を拭き取る。

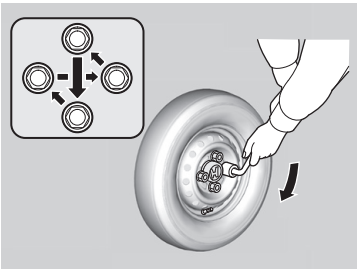


3. 応急用スペアタイヤを取り付ける。
4. ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締める。



5. センターキャップ✤を付けかえる。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

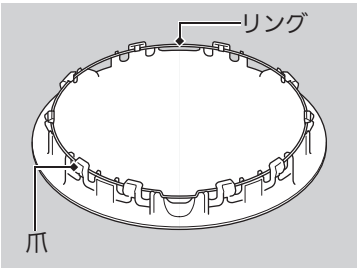


6. ジャッキをおろし、図の順に２～３度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付ける。

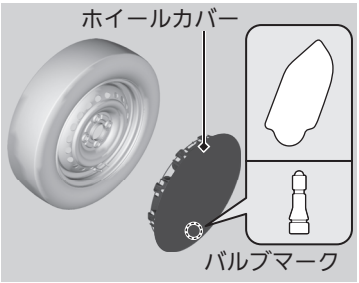
締め付けトルク 98～118N･m
（10.0～12.0kgf･m）

ホイールカバー装備車

ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。
正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください



ホイールカバー装備車

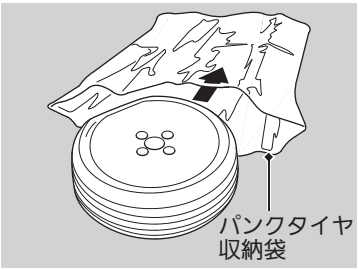


ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

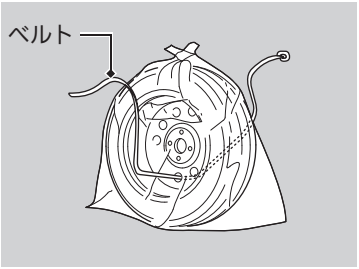
共通

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。

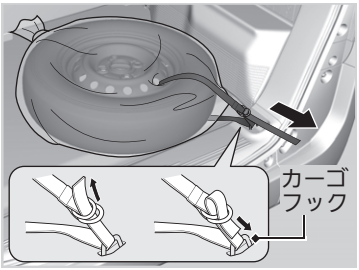
■ パンクしたタイヤの収納



1. パンクタイヤ収納袋にタイヤを入れ、収納袋の上端を縛る。



2. 袋に穴を開けてベルトをホイールの穴に通す。



3. ベルトをカーゴフロアのカーゴフックに通す。
4. ベルトをリングに通し、ベルトを引いて締め付ける。

エンジンが始動しない

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**室内灯などの明るさを確認する** 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 ➡ **ヒューズの点検と交換** P. 264 Honda スマートキーシステム装備車 **マルチインフォメーションディスプレイ* の表示を確認する** 「キーでスイッチに触れて下さい」のメッセージが表示されているとき ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P. 249 • エンジン始動の作動範囲を確認します。 ➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P. 89 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P. 249
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➡ **エンジンの始動** P. 131, 134 **セキュリティアラームシステム作動表示灯を確認する** セキュリティアラームシステム作動表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ➡ **イモビライザーシステム** P. 84 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 ➡ **燃料計** P. 66 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 ➡ **ヒューズの点検と交換** P. 264

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

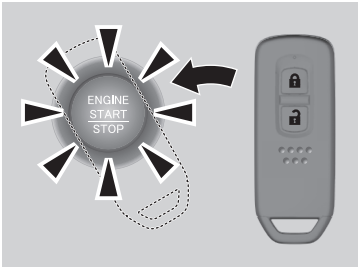
➡ **ジャンプスタートの方法** P. 251

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

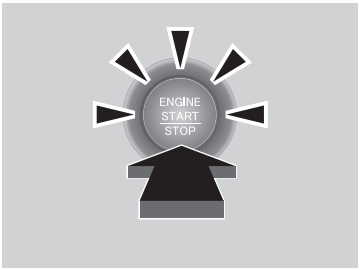
Honda スマートキーシステム装備車

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. ENGINE START/STOP を押す。
   ▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約 30 秒間点滅します。
2. ENGINE START/STOP が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
   ▶「ピッ」とブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約 10 秒間点灯します。



3. ENGINE START/STOP が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、ENGINE START/STOP を押す。
   ▶ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

Honda スマートキーシステム装備車

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP ボタンは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。

エンジンを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください:

- ENGINE START/STOP を約 2 秒以上押す
- ENGINE START/STOP を連続して 3 回押す

このとき、ハンドルはロックはしません。

無段変速オートマチック車

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。

パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください:

1. セレクトレバーを P に入れる
2. ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回連続して押す

マニュアル車

パワーモードは OFF モードになります。

緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。

ジャンプスタート

ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

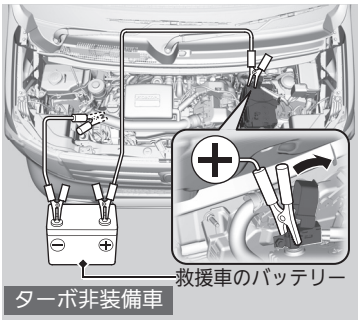
寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

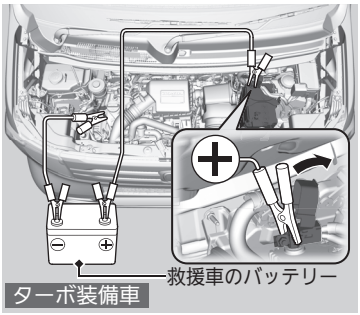
バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■ 処置のしかた

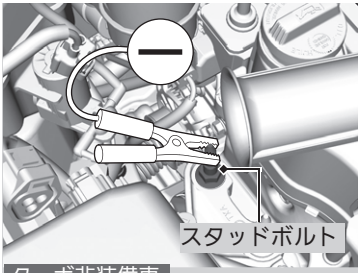
まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



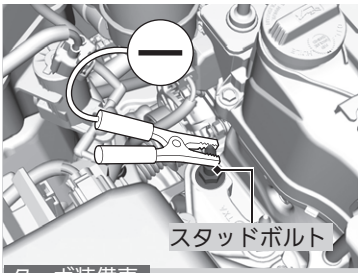
1. 自車と救援車のエンジンスイッチを 0 ※1 にする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
   ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。



※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。



ターボ非装備車



ターボ装備車

4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

■ エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

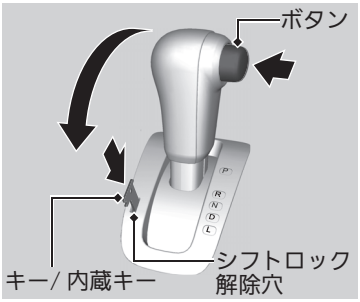
ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

無段変速オートマチック車

セレクトレバーが、P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。

Honda スマートキーシステム装備車

2. パワーモードを OFF モードにする。

Honda スマートキーシステム非装備車

2. エンジンスイッチからキーを抜く。

共通

3. シフトロック解除穴にキー/ 内蔵キーを差し込む。
4. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを N に入れる。
   ▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒート

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示される
- エンジンの力が急に落ちる

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

- 高水温警告灯(レッド)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる

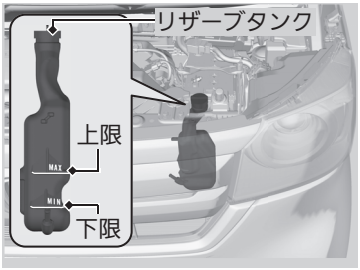
共通

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
   ▶ セレクトレバーを P に入れ(無段変速オートマチック車)、パーキングブレーキをかけます。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
   ▶ **蒸気が出ていない場合:**エンジンをかけたままボンネットを開ける。
   ▶ **蒸気が出ている場合:**エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



マルチインフォメーションディスプレイ装備車

1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」のメッセージが表示されなくなったらエンジンを停止する。
   ▶冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する。
   ▶冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

共通

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
   ▶冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動する。
  「エンジン冷却水高温」のメッセージが消えた場合は、運転を再開します。消えないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda販売店に修理を依頼します。

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

アドバイス

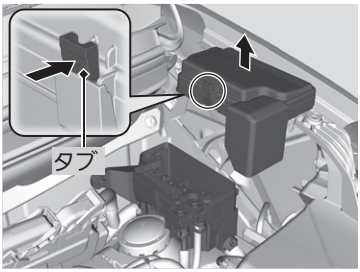
高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、エンジンスイッチを[0]※1 にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■ エンジンルーム内のヒューズボックス



エンジンルーム内の助手席側にあります。タブを押して開けてください。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに[ENGINE START/STOP]が適用されています。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ヒューズボックス メイン 2	40A
		DC/DC 2	30A
		アクセサリーソケット (カーゴスペース)	20A
		EPS	40A
		DC/DC 1	30A
		ABS/VSA モーター	40A
		MAIN	100A
2		ヒューズボックス メイン 1	60A
		IG MAIN	50A
3	—	—	—
4	—	—	—
5		ホーン・制動灯	10A
6	—	—	—
7		ABS/VSA FSR	20A
8	—	—	—
9		非常点滅表示灯	10A
10		フォグライト✤	(7.5A)
11	—	—	—
12	—	—	—
13		バックアップ (VST)	15A
14	—	—	—

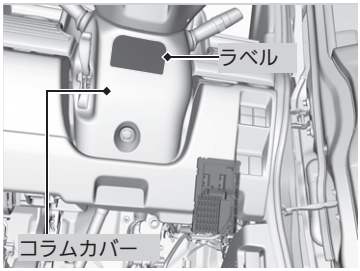
	表示	装備	容量
15		スターター	30A
16		冷却ファン	30A
17		ワイパー	20A
18		MG クラッチ	7.5A
19	—	—	—※1
		VBACT	10A※2
20		LAF	7.5A
21		左側ヘッドライト ロービーム	10A
22		右側ヘッドライト ロービーム	10A
23		ドライブバイワイヤ	15A※1 20A※2
24		スモールライト	7.5A
25		IG COIL	15A
26		IGP	15A
27		左側ヘッドライト ハイビーム※3	10A
		アクセサリー ライト※4	7.5A
28		右側ヘッドライト ハイビーム※3	10A
	—	—※4	—

※1: ターボ非装備車
※2: ターボ装備車
※3: ハロゲンヘッドライト装備車
※4: LED ヘッドライト装備車

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 室内のヒューズボックス



インストルメントパネルの奥にあります。
▶ 下から確認できます。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ヒーターモーター	30A
2	—	—※1	—
		STS※2	5A
3		ウォッシャー※1	10A
	—	—※2	—
4	—	—※1	—
		ウォッシャー※2	10A
5	—	—	—
6	—	—	—
7		助手席パワーウィンドー	15A
8		オーディオ(VST)✤	10A
9		USB CHARGE	(7.5A)
10		ヘッドライトハイビーム SOL	(7.5A)
11		E-LATCH※1	7.5A
	—	—※2	—
12	—	—	—
13		VSA(VST)	5A
14		アクセサリーソケット	20A
15		アクセサリー	5A
16		Honda スマートキーシステム※1	10A
	—	—※2	—
17		室内灯	7.5A
18		運転席パワーウィンドー	20A
19		リヤデフロスター※1	20A
	—	—※2	—
20		SRS エアバッグシステム※1	10A
	—	—※2	—

	表示	装備	容量
21		リヤワイパー※1	10A
		電動ドアミラー※2	7.5A
22		後退灯※1	5A
		エアコン※2	5A
23	—	—※1	—
		ドアロックモーター1(アンロック)※2	15A
24	—	—※1	—
		ドアロックモーター2(アンロック)※2	15A
25		ヒーテッドドアミラー✤	(10A)
26		電動ドアミラー※1	7.5A
	—	—※2	—
27		エアコン※1	5A
	—	—※2	—
28	—	—※1	—
		リヤデフロスター※2	20A
29	—	—※1	—
		ACC キーロック※2	5A
30		ドアロックモーター1(アンロック)※1	15A
		ドアロックモーター1(ロック)※2	15A
31	—	—※1	—
		SRS エアバッグシステム※2	10A
32		ドアロックモーター2(アンロック)※1	15A
		リヤワイパー※2	10A
33		ドアロックモーター2(ロック)※1	15A
		後退灯※2	5A

※1: Honda スマートキー装備車
※2: Honda スマートキー非装備車

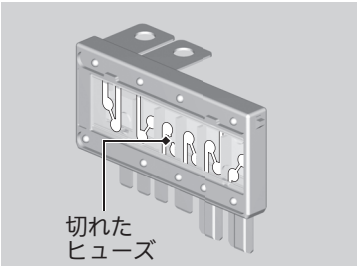
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示		装備	容量
34		ドアロックモーター1(ロック)※1	15A
		ドアロックモーター2(ロック)※2	15A
35		メーター(VST)	7.5A
36		ACC(VST)	5A
37		フューエルポンプ	15A
38		スターターカットコイル※1	5A
		メーター※2	7.5A
39		FI(EM)※1	10A
		フロントワイパー※2	5A
40		フロントワイパー※1	5A
		FI(EM)※2	10A
41		メーター※1	7.5A
		スターターカットコイル※2	5A
42		VSA CNTL(VST)	5A
43		バックアップ2	10A

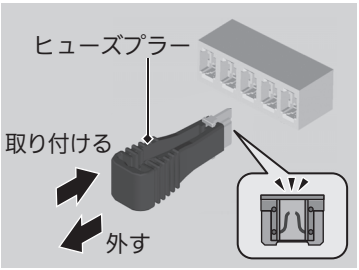
※1：Hondaスマートキー装備車
※2：Hondaスマートキー非装備車

コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

ヒューズの点検と交換



1. エンジンスイッチを[0]※1 にし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
   ▶切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。



4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
   ▶切れているヒューズがあったら、新しいものと交換してください。

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
規定容量はヒューズの設置場所に記載している一覧で確認してください。

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに[ENGINE START/STOP]が適用されています。

けん引

非常時のけん引

けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
車体が破損、変形する場合があります。

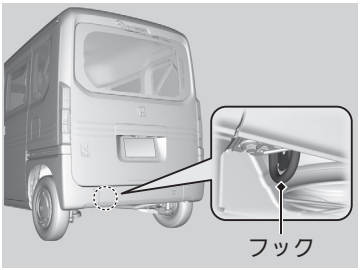
長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- CVT 車は、トランスミッションが破損するおそれがある
- マニュアル車は、エンジンスイッチを 0 ※1 にすると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるため、事故につながるおそれがある

※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

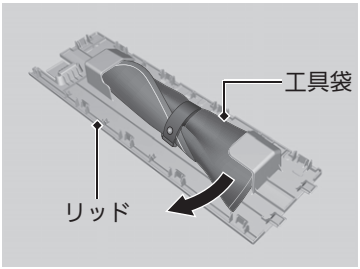


車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。

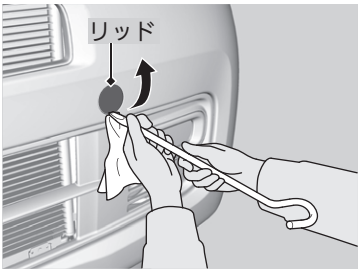
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

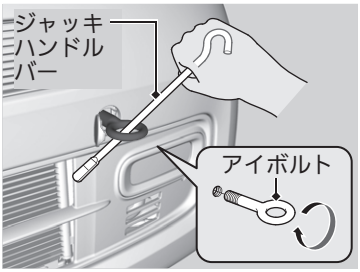
■ やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。

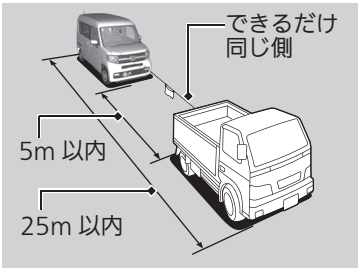


1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード（オイル）などが漏れていないことを確認する。
   ▶ 異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。
2. リッドを開け工具袋を取り出す。
   タイヤ交換の準備 P. 238
3. 工具袋からジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。
4. ジャッキハンドルバーの先でリッドを開ける。
   ▶ バンパーが傷つかないよう、ジャッキハンドルバーの先に布などを巻き付けてください。
5. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。





6. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3m 平方以上）を付ける。
7. マニュアル車は、エンジンをかける。CVT車は、エンジンをかけてセレクトレバーを[D]にし、約5秒間保持する。
   ▶ エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチ※1を[I]または[II]にします。
8. CVT 車は、セレクトレバーを[N]にする。
9. パーキングブレーキを解除する。
10. 速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引する。
    ▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

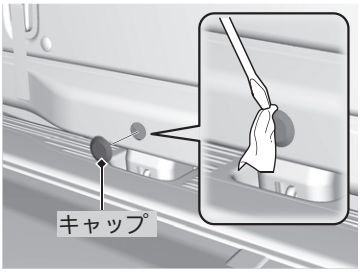


※1:Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに[ENGINE START/STOP]が適用されています。

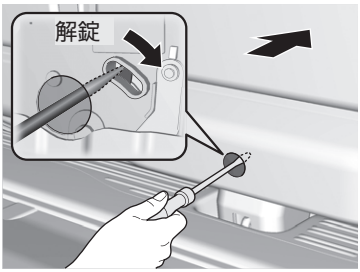
テールゲートが開かないとき

■ 開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。

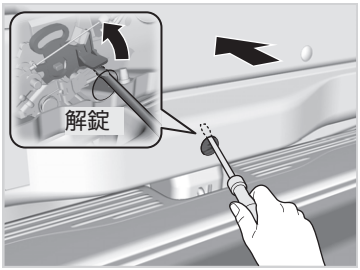


1. テールゲートのキャップに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
   ▶ キャップが傷付かないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。



Honda スマートキーシステム装備車

2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。



Honda スマートキーシステム非装備車

2. マイナスドライバーを使ってレバーを左に動かし、テールゲートを解錠する。
3. テールゲートを開ける。

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Q

Honda スマートキーシステム装備車

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない

Honda スマートキーシステム非装備車

キーが 0 から I に回らない

A

- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、キーを回してください。Honda スマートキーシステム装備車は、ENGINE START/STOP を押してください。

Q

無段変速オートマチック車

Honda スマートキーシステム装備車

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードにならない

Honda スマートキーシステム非装備車

キーが I から 0 に回らない（キーが抜けない）

A

- セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？

Q

ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A

- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ ABS（アンチロックブレーキシステム）（P. 203）

Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステム❖ で解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

Honda スマートキーシステム非装備車

- キーをエンジンに差し込んでいませんか？

Honda スマートキーシステム装備車

- パワーモードを OFF モード以外にしていませんか？

共通

- ライトを消し忘れていませんか？
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けていませんか？

Q 走行するとブザーが鳴る

A

- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A

- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

Q セキュリティアラームシステム装備車

キーを差し込んで解錠するとホーンが断続的に鳴る

A

- セキュリティアラームが作動しています。エンジンスイッチを II ※1 にするとセキュリティアラームシステムが停止します。
  ➡ **セキュリティアラームシステム*(P. 84)**

※1: Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに ENGINE START/STOP が適用されています。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

9 仕様

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

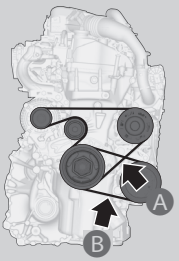
N-VAN

■仕様

名称	N-VAN
排気量	658cm^3
車体形状	バン
乗車定員	4名

■調節

ベルトのたわみ量



Ⓐ:	補機ベルト(発電機)	9.9-11.3mm { 約98N(10kgf)の力 }
Ⓑ:	補機ベルト(エアコンディショナー)	9.7-11.2mm { 約98N(10kgf)の力 }
点火プラグ	NGK	DILMAR7A11S※1 ILMAR8D8S※2

※1： ターボ非装備車
※2： ターボ装備車

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	3.3-10.2mm
	床板とのすき間	100mm 以上※1 110mm 以上※2 { 約196N(20kgf)の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	82mm 以上※1 92mm 以上※2 { 約196N(20kgf)の力 }
クラッチペダル※1	遊び	5-15mm
	床板とのすき間	104mm 以上 (クラッチが切れたとき)
	カーペットとのすき間(参考値)	86mm 以上 (クラッチが切れたとき)
パーキングブレーキ	引きしろ※1	4～6ノッチ { 約200N(20.4kgf)の力 }
	踏みしろ※2	5～7ノッチ { 約294N(30kgf)の力 }

※1： マニュアル車
※2： 無段変速オートマチック車

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	27L※1 25L※2

※1： 2WD車
※2： 4WD車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	32AH(5)/M-42R※1

※1： アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5L

■ 電球

ヘッドライト(ハイ / ロービーム)	LED※1 12V-60/55W※2
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W※1 12V-21W(橙色)※2
車幅灯 / アクセサリーライト※1	LED
車幅灯※2	12V-5W
フォグライト✤	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	12V-5W(橙色)※3 12V-5W※4, ※5
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯 / マップランプ	LED※3 12V-8W※4, ※5
カーゴスペース照明灯	LED※3 12V-8W※4, ※5

※1： LED ヘッドライト装備車
※2： ハロゲンヘッドライト装備車
※3： +STYLE FUN, +STYLE COOL
※4： L
※5： G

■ デファレンシャルオイル

4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.33L(交換時)

■ トランスファーフルード※1

4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.41L(交換時)

※1： 無段変速オートマチック車

■ ブレーキ / クラッチ✤ フルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■ トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ MTF-III※1	1.3L※3(交換時) 1.7L※4(交換時)
	Honda 純正 ウルトラ HCF-2※2	2.5L※3(交換時) 2.55L※4(交換時)

※1： マニュアル車
※2： 無段変速オートマチック車
※3： 2WD 車
※4： 4WD 車

■ エンジンオイル

ターボ非装備車

推奨	・Honda ULTRA NEXT※1 ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SM 級以上 0W-16, 0W-20	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

ターボ装備車

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・Honda ULTRA LTD ・API SM 級以上 0W-20, 5W-30	
規定量	オイル交換時	2.4L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.8L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■ 冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.64L※1, ※3 (交換時:リザーブタンク 0.31L 含む) 2.89L※2, ※3 (交換時:リザーブタンク 0.31L 含む) 2.90L※4 (交換時:リザーブタンク 0.31L 含む)

※1： マニュアル車
※2： 無段変速オートマチック車
※3： ターボ非装備車
※4： ターボ装備車

■ 最大積載量

350kg (2 名乗車時)
200kg (4 名乗車時)

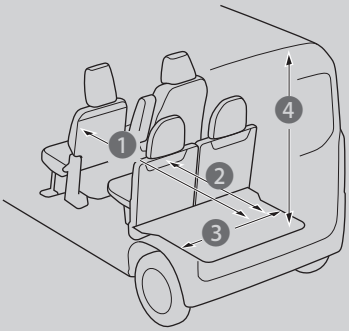
■ タイヤ

標準タイヤ	サイズ	145/80R12 80/78N LT	
	空気圧 kPa(kgf/cm²)	前輪	280(2.8)
		後輪	350(3.5)
	リムサイズ	12×4.00B	
スペアタイヤ	サイズ	T115/90D13 87M	
	空気圧 kPa(kgf/cm²)	420(4.2)	
	リムサイズ	13×3.50B	

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ カーゴスペース寸法図

❶：1,345mm※1（運転席側）
　1,450mm※2（助手席側）
❷：725mm※2
❸：905mm
❹：1,365mm
　（+STYLE COOL は 1,260mm）

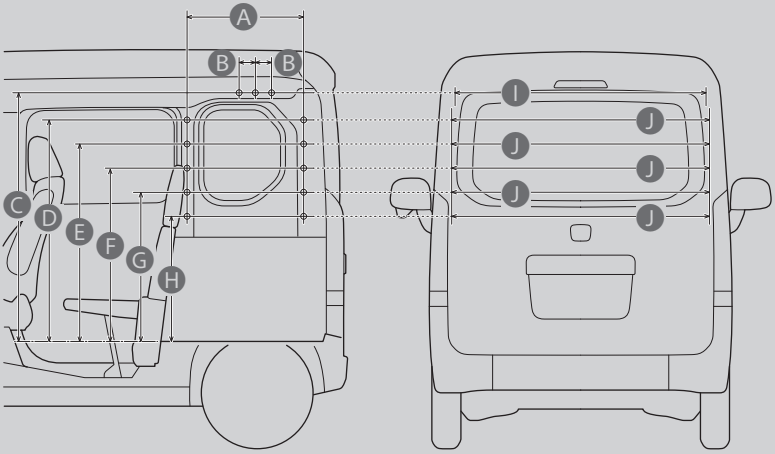


※1： フロントシートは一番後ろで背もたれが最も立った状態の寸法です。
※2： 助手席、リヤシートの背もたれが最も立った状態の寸法です。

寸法値は目安です。取り付ける物の寸法と車の寸法を必ず確認して取り付けてください。

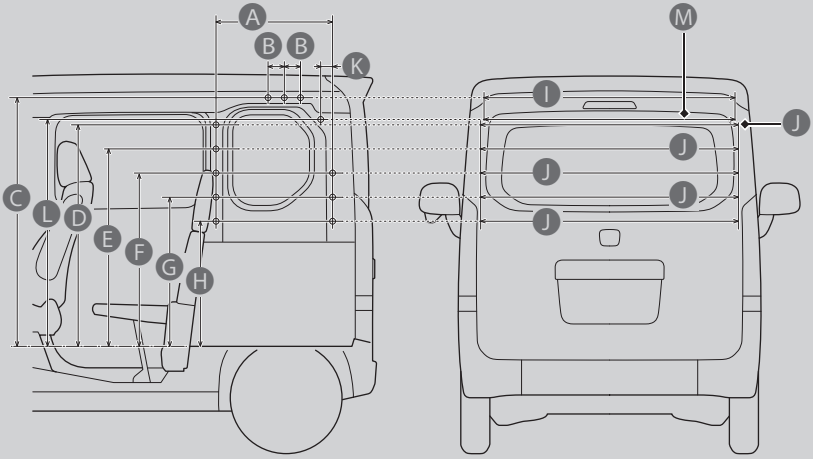
■ユーティリティーナット配置図

+STYLE COOL 以外



Ⓐ：563mm
Ⓑ：80mm
Ⓒ：1,193mm
Ⓓ：1,061mm
Ⓔ：943mm
Ⓕ：824mm
Ⓖ：706mm
Ⓗ：587mm
Ⓘ：1,189mm
Ⓙ：1,231mm

+STYLE COOL



Ⓐ：563mm
Ⓑ：80mm
Ⓒ：1,193mm
Ⓓ：1,061mm
Ⓔ：943mm
Ⓕ：824mm
Ⓖ：706mm
Ⓗ：587mm
Ⓘ：1,189mm
Ⓙ：1,231mm
Ⓚ：40mm
Ⓛ：1,093mm
Ⓜ：1,187mm

数字

4WD(四輪駆動機構) 148

A

ABS(アンチロックブレーキシステム) 203
ABS 警告灯 43
ACC(アダプティブクルーズコントロール) 167
ACC 警告灯 42
ACC 表示灯 54
A/C(エアコン) 117
AM/FM ラジオ 123, 125
AUX ジャック(外部入力端子) 121

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 152
CMBS 警告灯 44
CVT(無段変速オートマチックトランスミッション) 138

E

ECON スイッチ 146
ENGINE START/STOP スイッチ 89
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 46

H

Honda スマートキー 77
ENGINE START/STOP スイッチ 89
緊急時のエンジン停止方法 250

I

iPod 対応 USB プレーヤー/FM・AM ラジオ 124

L

LKAS(車線維持支援システム) 179
LKAS 警告灯 43
LKAS 表示灯 54

P

PGM-FI 警告灯 41

S

SRS エアバッグ 21
エアバッグシステム警告灯 24, 43

T

TRIP/CLOCK ノブ 67, 72
TRIP スイッチ 69

U

USB ジャック 120

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 147
VSA OFF 警告灯 44, 148
VSA 警告灯 43, 148

W

W(ワット数) 273

あ

アームレスト 112
アイドリングストップシステム 142, 144
アイドリングストップシステム警告灯 46
アイドリングストップ表示灯(グリーン) 54, 142, 144
アイボルト 267
アクセサリー 235

アクセサリーソケット 113
アクセサリーライト 223
アダプティブクルーズコントロール
（ACC）..... 167
安全なドライブのために 12
安全のための確認事項 12
アンチロックブレーキシステム
（ABS）..... 203
ABS 警告灯 43
アンテナ 121
アンビントメーター 70

い

一酸化炭素の危険性 35
イモビライザーシステム 84
セキュリティアラームシステム
作動表示灯 53
イルミネーションコントロール 97
インフォメーションスイッチ 68
インフォメーション
ディスプレイ 67
インフォメーション表示灯 52

う

ウィンカースイッチ(方向指示器)
方向指示器表示灯 51
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の
補給 219
ウィンドウォッシャースイッチ 96
ウィンドーの開閉 86
運転
エンジンの始動 131, 134
シフト操作 139, 141
ブレーキ操作 200

え

エアクリーナーエレメント 272
エアコン 117
エアコンの使いかた 118
エアバッグ 21
SRS エアバッグ 21
エアバッグシステム警告灯 24, 43
エアバッグシステム故障診断
記録装置 2
エアバッグのお手入れ 25
エコアシストシステム 70
アンビエントメーター 70
エマージェンシーストップ
シグナル 204
エンジンオイル 217
推奨エンジン
オイル 217, 273
エンジンスイッチ 88
エンジンの始動 131, 134
エンジンが始動しない 248
ジャンプスタート 251
エンジンルーム内のメンテナンス 215
ウィンドウォッシャー液の
補給 219
エンジンルーム内の
メンテナンス項目 215
推奨エンジン
オイル 217, 273
ボンネットを開ける 216
冷却水の点検と補給 256
エンジン冷却水 257, 273

お

オートドアロック /
オートドアアンロック 82
オイルメンテナンス表示 213
オーディオ装置 120
オーディオリモートコントロール
スイッチ 122
オートエアコン 118
オートハイビーム 92
オートハイビーム表示灯 54
オーバーヒート 256

か

カーゴスペース寸法図 274
鍵(かぎ) 74
ガソリン 272

き

キー
  Honda スマートキー 74, 77
  Honda スマートキーの電池が
    切れたとき 249
  キーの種類と機能 74
  キーレスエントリー 80
  キーレスエントリーでドアが
    開かない 270
キーレスエントリー 80
給油 207
  指定燃料 272
  燃料計 66
  燃料残量警告灯 42

く

空気圧 273
空気圧測定器による点検 229
クラッチフルード 273
グラブレール 7
車の改造 235

け

計器 36
警告灯 39
  ABS(アンチロックブレーキシステム)
    警告灯 43
  ACC(アダプティブクルーズコント
    ロール)警告灯(オレンジ) 42
  CMBS(衝突軽減ブレーキ)
    警告灯 44
  EPS(電動パワーステアリング)
    システム警告灯 46
  Honda スマートキーシステム
    警告灯 48
  Honda スマートキー電池消耗
    警告灯 48
  Honda スマートキー持ち去り
    警告灯 48
  LKAS(車線維持支援システム)警告灯
    (オレンジ) 43
  PGM-FI 警告灯 41
  VSA OFF 警告灯 44, 148
  VSA(ビークルスタビリティアシスト)
    警告灯 43, 148
  アイドリングストップシステム警告灯
    (オレンジ) 46
  エアバッグシステム警告灯 24, 43
  オートライトコントロール
    警告灯 48
  高水温警告灯(レッド) 44
  シートベルト非着用警告灯 14, 42
  充電警告灯 41
  スターターシステム警告灯 49
  セレクトポジション P 移動
    警告灯 47
  チェンジポジション N 移動
    警告灯 47
  ドア / テールゲート開閉警告灯 46
  トランスミッション警告灯 42
  燃料残量警告灯 42
  ブレーキ警告灯(レッド) 39
  ブレーキシステム警告灯
    (オレンジ) 39
  油圧警告灯 40
  路外逸脱抑制機能警告灯 50
けん引 265

こ

交換
  アクセサリーライト /
    車幅灯電球 223
  後退灯電球 225
  後面方向指示器 /
    後面非常点滅表示灯電球 225
  車幅灯電球 223

制動灯 / 尾灯電球 224
前面方向指示器 /
前面非常点滅表示灯電球 222
側面方向指示器 /
側面非常点滅表示灯電球 224
ハイマウントストップランプ
電球 226
番号灯電球 226
フォグライト電球 223
ヘッドライト電球 220
ワイパーブレードラバー 227
高水温警告灯(レッド) 44
後退灯 225
後方誤発進抑制機能 160
後面方向指示器 /
後面非常点滅表示灯 225
誤発進抑制機能 158
コンビニフック 114

さ

サービス診断記録装置 2
データの開示について 3
最大積載量 273
サイドアンダーミラー 100
サンバイザー 7

し

シートの調節 101
アームレスト 112
フロントシート 101
ヘッドレスト 110
リヤシート 108
シートヒーター 114
シートベルト 13
シートベルトのアンカー
ポイント 20
シートベルトの着用 16
シートベルトの点検 19
シートベルト非着用警告灯 14, 42
シートベルトプリテンショナー 15
シートベルトリマインダー 14
妊娠中のかたの
シートベルトの着用のしかた 18
室内装備品 113
シフト操作 139, 141
車線維持支援システム(LKAS) 179
LKAS 警告灯 43
LKAS 表示灯 54
車幅灯 223
ジャンプスタート 251
充電警告灯 41
仕様 272
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 152

す

スイッチ操作
ECON スイッチ 146
ENGINE START/STOP
スイッチ 89
イルミネーション
コントロール 97
ライトスイッチ 90
リヤデフロスター/ ヒーテッド
ドアミラースイッチ 97
ワイパー/ ウォッシャー 95
スターターシステム警告灯 49
ステアリング 98
スノータイヤ 233
スパークプラグ 272
スライドドアの開閉 83

せ

清掃 234
制動灯 224
セキュリティシステム 84
イモビライザーシステム 84
セキュリティアラーム
システム 84
セレクトポジション
セレクトポジション表示灯 54
セレクトレバー
セレクトレバーが動かない 255

セレクトレバーの操作 140, 141
先行車発進お知らせ機能 190
前面方向指示器 /
前面非常点滅表示灯電球 222

そ

側面方向指示器 /
側面非常点滅表示灯電球 224
ソナーセンサー 199

た

ターボ車 210
タイダウンフック 115
タイヤ 229
タイヤの点検 229
タイヤのローテーション 232
冬期のタイヤ 233
パンク 237
タイヤチェーン 233
タコメーター 66

ち

チェーン 233
チャイルドシート 26
ジュニアシート 33
乳児のチャイルドシート 27
幼児のチャイルドシート 28
駐停車操作 205

て

低水温表示灯（ブルー） 51
データの開示について 3
テールゲートの開閉 82
テールゲートが開かないとき 268
デフロスター
リヤデフロスタースイッチ 97
点火プラグ 272
電子制御ブレーキアシスト 204

と

ドアの施錠と解錠 74
Honda スマートキー 74, 77
キーの種類と機能 74
キーレスエントリー 80
キーレスエントリーでドアが
開かない 270
車外でのドアの施錠 / 解錠 78
車内でのドアの施錠 / 解錠 81
マスタードアロックスイッチでの
施錠 / 解錠 81
ドアミラー 99
冬期のタイヤ 233
スノータイヤ 233
タイヤチェーン 233
トラブルシューティング
ENGINE START/STOP スイッチの
パワーモードが OFF モードからアク
セサリーモードにならない 269
ENGINE START/STOP スイッチの
パワーモードが OFF モードに
ならない 269
運転席ドアを開けるとブザーが
鳴る 270
エンジンが始動しない 248
オーバーヒートした 256
キーが 0 から I に回らない 269
キーが I から 0 に回らない
（キーが抜けない） 269
キーレスエントリーでドアが
開かない 270
キーを差し込んで解錠するとホーンが
断続的に鳴る 271
けん引してもらいたい 265
ジャンプスタートしたい 251
セレクトレバーが動かない 255
走行するとブザーが鳴る 270
ハイオクガソリンは使える？ 271
パンクした 237
ヒューズが切れた 259
ブレーキを踏むと音がする 271

ブレーキを踏むと振動する 269
トランスミッション警告灯 42
トランスミッション
フルード 273
トリップメーター 67, 69
ドリンクホルダー 113

ね

燃料 272
燃料計 66
燃料残量警告灯 42

は

パーキングブレーキ 200
排気ガスの危険性 35
ハイビーム 90
ハイビーム表示灯 51
ハイマウントストップランプ 226
ハザードスイッチ 4
発炎筒 236
バッテリー
ジャンプスタート 251
充電警告灯 41
容量 / タイプ 272
バニティミラー 7
パワーウィンドーの開閉 86
パンク 237
番号灯 226
ハンドル 98
ハンドル位置調節レバー 98

ひ

ヒーテッドドアミラー 97
非常点滅表示灯スイッチ 4
尾灯 224
ヒューズ
各ヒューズの装備と容量 ... 260, 262
ヒューズの設置場所 259
ヒューズの点検と交換 264
標識認識機能 193
表示灯 51
ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯(グリーン) 54
LKAS(車線維持支援システム)表示灯(グリーン) 54
アイドリングストップ表示灯(グリーン) 54, 142, 144
インフォメーション表示灯 52
オートハイビーム表示灯 54
セキュリティアラームシステム作動表示灯 53
セレクトポジション表示灯 54
低水温表示灯(ブルー) 51
ハイビーム表示灯 51
ハンドル操作表示灯 55
ブレーキ踏み込み不足表示灯 55
方向指示器表示灯 / 非常点滅表示灯 51
ライト点灯表示灯 51
ピロー 109

ふ

ブースターケーブル 252
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 270
走行するとブザーが鳴る 270
フューエルリッドの開けかた 207
ブレーキ警告灯(レッド) 39
ブレーキシステム 200
ABS(アンチロックブレーキシステム) 203
エマージェンシーストップシグナル 204
電子制御ブレーキアシスト 204
パーキングブレーキ 200
フットブレーキ 202
ブレーキ警告灯(レッド) 39
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 39
ブレーキを踏むと振動する 269

ブレーキシステム警告灯(オレンジ) ... 39
ブレーキフルード ... 273
ブレーキ警告灯(レッド) ... 39
ブレーキシステム警告灯
(オレンジ) ... 39
フロアボード ... 107
フロントシート ... 101
シートバックポケット ... 113
フロントシート
ヘッドレスト ... 101, 111
フロントセンサーカメラ ... 197

へ

ヘッドライトレベリングダイヤル ... 91
ヘッドライト ... 90
ハイビーム ... 90
ハイビーム表示灯 ... 51
ライト点灯表示灯 ... 51
ロービーム ... 90
ヘッドレスト
フロントシート ... 101, 111

ほ

方向指示器(ウィンカースイッチ)
方向指示器表示灯 ... 51
ホーンスイッチ ... 5
歩行者事故低減ステアリング ... 162
ホンダセンシング ... 149

ま

マルチインフォメーション
ディスプレイ ... 68
マルチインフォメーション
ディスプレイ
警告メッセージ ... 56

み

ミラー ... 98
サイドアンダーミラー ... 100
ドアミラー ... 99
バニティミラー ... 7
ルームミラー ... 98

め

メーター
インフォメーション
ディスプレイ ... 67
タコメーター ... 66
燃料計 ... 66
メンテナンス ... 211
エンジンルーム内の
メンテナンス項目 ... 215
清掃 ... 234
タイヤの点検と整備 ... 229
メンテナンスを安全に
行うために ... 212
ライト類の点検と整備 ... 220
ワイパーブレードラバーの
点検と整備 ... 227

も

モード切り換え(エアコン) ... 118

ゆ

ユーティリティーナット配置図 ... 275

よ

四輪駆動機構(4WD) ... 148

ら

ライトスイッチ ... 90
オートハイビーム ... 92
ハイビーム ... 90
ハイビーム表示灯 ... 51
ライト点灯表示灯 ... 51
ロービーム ... 90
ライト類の点検と整備 ... 220
アクセサリーライト /
車幅灯電球 ... 223

後退灯電球 225
後面方向指示器 /
後面非常点滅表示灯電球 225
車幅灯電球 223
制動灯 / 尾灯電球 224
前面方向指示器 /
前面非常点滅表示灯電球 222
側面方向指示器 /
側面非常点滅表示灯電球 224
ハイマウントストップランプ
電球 226
番号灯電球 226
フォグライト電球 223
ヘッドライト電球 220
ラジエーター 257
ラジオの使いかた 125

り

リザーブタンク 257
リムサイズ 273
リヤシート 108
リヤデフロスタースイッチ /
ヒーテッドドアミラースイッチ 97

る

ルームミラー 98

れ

レーダーセンサー 198
冷却水 257, 273
オーバーヒート 256
低水温表示灯(ブルー) 51
補給 257

ろ

ロービーム 90
路外逸脱抑制機能 186

わ

ワイパー/ ウォッシャー 95
ワイパーブレードラバー 227

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。
Honda ホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、車両番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名